

第六條 非役壯丁税ハ徵兵處分ノ確定、服役免除若ハ身分ノ喪失又ハ教育召集ニ應セサルコトノ確定シタル年ノ翌年ヨリ七年間之ヲ納付スルモノトス

第七條 現役ニ服シタル者又ハ教育召集ニ應シタル者ニシテ故意ニ免除ノ事故ヲ生セシメタル者ハ其ノ翌年ヨリ七年間第一種非役壯丁税ヲ納付スヘシ

第八條 現役中又ハ補充兵部隊編入中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其ノ役ヲ免セラレタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ非役壯丁税ヲ課セス

第九條 納稅義務者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ爾後ノ納期ニ屬スル分ヨリ非役壯丁税ヲ免除ス

一 戰時又ハ事變ニ際シ召集ニ應シタルトキ
二 死亡シタルトキ

第十條 納稅義務者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ非役壯丁税ヲ免除ス

一 廢疾不具ノ者
二 貧民トシテ公ノ救助ヲ受タル者

第十一條 一家二人以上同時ニ納稅義務者ナルトキハ一人ヲ除クノ外他ノ者ハ其ノ半額ヲ免除ス

第十二條 納稅ノ義務アル者ハ納稅義務發生ノ年一月中ニ其ノ本籍住所及兵役關係ヲ列記シテ政府ニ申告スヘシ

第十三條 納稅義務者又ハ其ノ戸主第三種所得税ヲ納ムル者ナルトキハ前項ノ外毎年一月中ニ第三條第二項ノ規定ニ依ル所得税額及其ノ他課税ノ算定ニ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スヘシ

第十四條 第八條乃至第十一條ニ該當スル者ハ本人又ハ其ノ戸主ヨリ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

第十五條 政府ハ毎年四月中ニ各納稅義務者ノ納稅額ヲ査定シ之ヲ本人又ハ其ノ戸主ニ通告スヘシ

第十六條 納稅義務者前條ノ納稅額ニ對シ異議アルトキハ其ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ其ノ審査ヲ請求スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第十七條 前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ審査委員會ノ審査ニ付シ其ノ決議ニ依リ爲シタル決定ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ但シ政府ニ於テ該請求ヲ理由アリトスルトキハ審査委員會ノ議ニ付セスシテ直ニ第十四條ノ通告ヲ訂正スヘシ

第十八條 審査委員會ノ組織及會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案 千五百七十五

第十七條 前條ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十八條 非役壯丁税ハ年額ヲ二分シ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 其ノ年十月一日ヨリ三十一日限

第二期 翌年四月一日ヨリ三十日限

第十九條 納稅義務者家族ナル場合ニ於テハ戶主ハ非役壯丁税ノ納付ニ付連帶シテ其ノ責ニ任

ス

第二十條 非役壯丁税ハ納稅義務者ノ住所地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所地ヲ以テ納

稅地トス但シ住所地以外ニ在ル納稅義務者ハ申告シテ居所地ニ於テ納稅スルコトヲ得本法施

行地内ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ本籍地ヲ以テ

納稅地トス

第二十一條 納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ非役壯丁税ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲

納稅代理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第二十二條 陸海軍ノ將校、同相當官、特務士官、豫備員、准士官、候補生、見習官、下士及兵籍ニ

編入セラレタル學生、生徒ニハ其ノ在籍中本法ヲ適用セス

第二十三條 徵兵事務ヲ掌ル官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依ル非役壯丁ニ關スル事項ヲ收稅官廳ニ

報告スヘシ

第二十四條 第十二條第二十一條ノ申告ヲ爲サス又ハ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第二十五條 非役壯丁税ヲ逋脱シタル者ハ其ノ逋脱金額三倍ノ科料ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ施行ノ年以後徵兵適齡トナリタル壯丁及本法施行ノ年ニ於テ現ニ徵集ヲ延期セラレタル

者ヨリ之ヲ適用ス

本法ハ徵兵令ヲ施行セサル地方ニハ之ヲ施行セス但シ本法施行地内ニ本籍ヲ有スル者ハ本法施

行地外ニアルモ仍本法ヲ適用ス

右ハ十二年二月十六日荒川五郎君外十一名之ヲ提出ス三月五日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(荒

川五郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

非役壯丁税法案ハ既ニ數度提出說明致シタノデアリマスカラ、今日ハ其多クヲ省略致シテ、唯
本案ノ骨子トスル所ヲ簡單ニ申述ベテ、諸君ノ御考慮ヲ願ヒタイト思ヒマス、抑我國ノ徵兵制
度ハ國民皆兵ヲ主義ト致シテ居ルノデ、兵役ハ國民ノ必任義務デアリマスカラ、苟モ壯丁タル者
ハ皆此義務ニ服シナケレバナラスノヲ原則ト致シマス、併シ軍ノ編制上、其要スル人員ニハ自ラ
制限ガアリマスルカラ、實際此義務ニ服スル者ハ其一部分デアリマシテ、毎他ノ大多數ハ之ヲ
免レテ居ルノデアリマス、而シテ其義務ニ服シマスル者ハ、所謂血稅デ一身ヲ捧ゲテ國防ノ重責

ニ任ズルノ外、之ニ要スル諸般ノ費用モ中ニ少クナイノデアリマス、一身一家ニ於テ經濟上ノ要費打撃モ免レナイノデアリマス、勿論身ヲ以テ盡スト云フノガ徴兵タルノ主タル所デアリマスガ、之ニ伴フテ此從タル費用モ亦當然免レナイノデアリマス、然ルニ一方多クノ兵役ヲ免レタ者ハ、費用モ亦從テ免レテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ其費用ダケハ服役シナイ壯丁モ之ヲ負擔スルノガ至當デアルト云フノガ、本案ノ根據デアリ、骨子トスル所デアル、其服役スル壯丁ニ如何ナル費用ガ要ルカ、又一身一家ニ如何ナル打撃、經濟上ノ困難ヲモ與フルカ等ハ、茲ニ其説明ヲ省キマス、特ニ此法案ヲ必要ト致シマスルノハ、諸君御承知ノ如ク徴兵ニ取ラレル、即チ服役壯丁ハ多クハ農村ヤ勞働者ノ子弟デアリマシテ、謂ハバ第三階級、無産階級ノ者ガ多イノデアリマス、隨テ彼等ノ費用打撃ハ一層甚シキ苦痛ヲ感ゼラル、ノデアリマス、而シテ其徴兵ニ取ラレナイ非役壯丁ハ、多クハ富豪貴族等、有産階級ノ者デアリマス、彼等ハ身體ガ強壯デアリマセヌ者ガ多イカラ、自然此不公平ナル結果ハ免レナイノデアリマス、斯様ナ有様デ名譽、安樂、幸福ハ富豪貴族ガ之ヲ占有致シ、困難、辛苦、出費ハ下層無産ノ者ガ之ヲ負擔スルト云フ狀況デアリマス、勿論ソレモ自ラ招ク所デアレバ、ソレハ已ムヲ得マセヌケレドモ、國法ノ上カラ來ル結果ガ此狀況ヲ呈スルト云フコトハ、國民思想ノ上ニモ重大ナル影響ガアルト考ヘマス、故ニ國民思想ノ善導ノ上ニモ、極テ此法案ヲ必要ト考ヘマス、而シテ有産階級ノ者ガ多ク身體ガ羸弱デアルト云フコトハ、一年志願兵——有産階級ノ子弟ガ多イ、一年志願兵ノ身體検査デモ分リマス普通徴兵ハ皆甲種合格者ヲ取リマスノニ、一年志願兵ハ甲種合格者ガ少ナイカラ、乙種合格者モ取ッテ居ル現状デアリマス、故ニ有産階級ノ壯丁ガ身體羸弱デ、此兵役ノ重大任務ノ役ニ立タナイト云フノハ、是ハ已ムヲ得マセヌケレドモ、彼等ガ敢テ困難トシナイ物質上ノ其費用ヲ免ゼシメル必要ハ無イデアラウト思ヒマス、ソコデ彼等服役シナイ非役壯丁カラ、其資産ニ應ジテ資産ノ有ル有カラ相當ノ課税ヲ致シテ、サウシテ其費用ハ軍人ノ給與、家族ノ救恤、廢兵ノ優遇等ニ充テタイ、斯ウ考ヘマスルノデアリマス、壯丁ノ内ニハ彼等ガ兵役ニ取ラレタガ爲ニ、一家生活ノ中心ヲ失フ者スラアルノデアリマス、斯カル不幸ナル者ニ對シテハ軍人救護法ナルモノガア

リマケレドモ、軍人救護法ハ一人ニ付テ僅ニ二十五錢、人數ガ幾人アッテモ六十錢ヲ超エルトハ出來ナイトシテアリマス、偏強ナ壯丁ノ力ハ少クトモ一日ニ二圓内外ハ働キ得マスル、其勞働者ヲ兵役ニ取ッテ、家族ハ八人アッテモ十人アッテモ、唯六十錢シカ與ヘナイト云フコトハ、國家ノ正當ナル意思ト云フコトガ出來マセウカ、殊ニ廢兵ノ待遇ニ至ッテハ實ニ殘酷ト申シマセウカ、是ハ同情スベキ人道問題ト思ヒマス、第一ニ私共ハ廢兵ノ名稱カラ甚イト思フ、立派ナ四肢五官ガ揃ッテ、立派ナ體格ヲ持ッテ居ルカラ兵ニ取ラレタ、其取ラレタ者ガ一朝國家ノ犠牲トナッテ生レモ附カス不具トナッタ者ヲ之ヲ廢兵ト言フ、何ヤラ世ノ中ノ廢兵者デアル、不用物デアルカノ如キ名稱ヲ與ヘルノハ實ニ虐待ト思ヒマス、私ハ國家國民ノ尊重スベキ、優待スベキ名譽ノ犠牲者デアルト云フ意味ヲ含ム名ヲ付ケルベキモノデアラウト思フノデアリマス、斯様ニ廢物扱ヒヲ致シテ居リマスカラ、今年迄ハ實ニ非常ナ冷酷ナ有様デ、血モ涙モ無イ虐待デアッタノデアリマスガ、一昨日本院ヲ通過シタ恩給法案ノ改正並ニ其修正ハ、相當ニ恩給モ増加セラレマシタ、併シソレスラ數年後ニナッテサウシテ漸ク三百圓カ、多クテ九百圓位ニナルノデアリマスカラ、隨テ手ノ無イ者足ノ無イ者、眼ノ見エナイ者、彼等ノ看護人、附添人ノ報酬食費等ニ是ハ要ラシマフノデアリマス、彼等ガ家内ヲ持チ一家ヲ成スコトガドウシテ是デ出來マセウカ、私ハ此國家ノ犠牲者ニ對シテ、マダマダ國家ハ相當ナル同情ノ涙ヲ注ガンケレバ相成ラヌコトト思フノデアリマス、尙ホ此費用ヤ税額等ノ問題モアリマス、アリマスガ今モ此處ニハ略シマス、唯一ツ申シテ置カナケレバナラヌハ、兵役ハ何物ヲ以テモ代フルコトヲ許サナイ絶對的ノ必奉公ノ高尚ナル義務デアル、然ルニ服役シナイ壯丁ニ對シテ税ヲ課スルト云フコトハ、税ヲ出シテ必任重大ナル義務ヲ免レルト云フ感ジヲ起サシメテ、至誠至純ノ兵役義務ノ根據ヲ覆ス虞レガアル、斯ウ云フ反對論モアルノデアリマス、當局者ノ中ニモ一部此論ガ傳統的ニ唱ヘラレテ居ルノデアリマス、併シソレハ甚シキ顛倒デアリマシテ、原因ト結果、本ト末ヲ全ク混同シタルモノデアリマス、誤解デナラネバ附會ノ極ミデアリマス、此案ハ税ヲ出シテ兵役ヲ免レシメヤウト云フ意味ハ毫モ無イ許リデアリマセヌ、全ク其反對デアリマス、徴兵検査又ハ抽籤ニ依リテ全ク免レ

其免レタ後ニソレニ對シテ課稅ヲ致スデアリマシテ、何等寸毫モ兵役義務ノ精神ニ影響スルモノデハナイ、又中ニハサウ云フ誤解ヲ生ズル者モアルカライケナイ、斯ウ云フ人モアルノデアリマスガ、併シ誤解ヲ根據トシテ事ヲ忌ムト云フコトニナリマシタナラバ、世ノ中ハ何事モ爲シ得ラレルモノデハナイノデアリマス、誤解ハ誤解スル者ガ惡イノデアリマス、況ヤ本末明白ナコトヲ、苟モ普通ノ人デアッタナラ之ヲ誤解スル道理ハナイノデアリマス、凡ソ政治ハ馬鹿ヤ阿呆ヲ當テニ基準ヲ立テルモノデナイ以上ハ、此誤解論ノ如キハ取ルニ足ラヌト思ヒマス、斯様ニ稅ヲ出シテ兵ヲ免レルノデアリマセヌ許リデハナイガ、併シ今日ノ我國ノ制度デ言ヒマスト云フト、實際ニ於テ金ヲ出シテ兵ヲ免レテ居ル例ガアルノデアリマス、ソレハ何カト云ヘバ、一年志願兵デアリマス、一年志願兵制度ハ細カク言ヘバ多少ノ點モアリマセウケレドモ、大體ニ於テ一年志願兵ニナル資格ノアル者デモ、其要スル費用ヲ出シ得ナイ者ハ普通ノ徵兵ニ出ナケリヤナラヌ、其費用ヲ出シ得ル者ハ一年ノ志願兵役デ済ムト云フコトニナリマスカラ、金ヲ出シテ二年ノモノヲ一年ハ免レルト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、ソレ等ノ點カラ考ヘテ見レバ、本案ハ徵兵精神ノ尊嚴ヲ守ルコトヲ同日ノ論デナイノデアリマス、況ヤ本案ハ根本ノ精神ニ於テ、決シテ金ヲ出シテ大事ナ義務ヲ免レヤウト云フ意味ハ毫モ無イノデアリマシテ、之ニ誤解ヲ論據トシテ反對セラル、者ノアルノハ甚ダ遺憾トスル所デアリマス、尙ホ是迄デスラ 本案ハ極テ必要デアッタノデアリマスガ、今日軍縮ノ結果壯丁ノ要員ハ約二割五分モ減ゼラル、ノデアル、斯ク此壯丁要員ヲ減ゼラル、ニ至レバ、一層富豪財產階級ノ者ハ兵役ヲ免レ、サウシテ地方農村勞働者ノ子弟ノミガ出ルト云フ、一段ト甚シキ不公平ヲ來スノデアリマス、故ニ本案ハ一層時務ニ必要ナモノト考ヘマス、漸次世間ニモ之ニ贊成者、同情者ヲ増シツ、アル次第デアリマス、何卒御審議ノ上、可決アランコトヲ偏ニ希望致シマス

仙波太郎君ハ贊成演說ヲ爲ス

只今荒川君カラ非役壯丁稅法案ノ建議案ガ出マシタ、私ハ去年來カラ全ク心カラ贊成ヲ致シテ

居リマス、蓋シ今日ノ服役兵ニ取リマシテハ全ク空谷ノ甕音ト謂フベキダラウト思フ、御案内ノ通り義務中デ兵役義務ハ今日ニ於テハ至大ノ苦痛ヲ感ジマスノデ、殊ニ兵役ニ就ク者ハ概シテ五段百姓以下其日暮シ、若クハ職人ノ者ガ多キヲ占メテ居リマス、是等ハ全ク業ヲ抛ッテ然後ニ入營ヲスル、且ツ其家族ハ是ガ爲ニ困窮ヲスル、尙ホ其上ニ壯丁者ハ相當ナル小遣錢ヲモ送ラナクテハナラヌト云フノガ今日ノ有様、是ガ爲ニ在營ニ箇年ノ間ハ殆ド借財ノ爲メ家ヲ賣拂フ、家財ヲ失フト云フ程ノモノモ出來致シテ居ルノデアリマス、今日何ガ不平等ナリト雖モ、服役兵程不幸ナル者ハ外ニナイ、現ニ本年ハ此意味カラシテ陸軍當局者ニ於テハ餘程考慮セラレマシテ、漸クニ日給金ガ御聞及ビノ通り三錢ダケ増額ニナリマシタケレドモ、其二錢ノ増額モ全ク退營ノ際ニ給與スベキ所ノ軍服ヲ取ッテ、サウシテ漸クソレデ日給金ノ増額トナリマシタヤウナコトデ、到頭是ガ爲ニ壯丁ハ一方ニ於テハ退營ニ際シテ軍服ヲ失ツタ、斯様ナ状態ニナッテ居リマス、是ハ陸軍當局者モ萬已ムヲ得ザル處置デアルト察シマス、是ガ爲ニハ何等カ他ノ方便ヲ以テ服役者ノ慰安ガナクテハナラナイ、幸ヒ本案ハ全ク非役ノ壯丁カラ相當ナル同情金ヲ集メテ、然後ニ服役兵及其家族ヲ慰安スルト云フノデアリマス、隨テ此法ニシテ實行サレタナラバ、服役兵ハ如何ニ今後心丈夫ニ勤務ニ從事スルコトガ出來ルデアラウカト察セラレマス、要スルニ斯ク云フモノ、今日壯丁及其父兄タル者ハ斯様ニシテモ黙シテ何モ言ハヌノデナイカ、是ハ不幸ガ無イカラデアラウ、是ハ私以テノ外デアルト思フ、彼等ガ黙シテ居ルノハ樂ンデ黙シテ居ルノデハナクシテ謂ハハ泣イテ黙シテ居ル、斯フ云フ譯デアリマス、誠ニ同情スベキモノハ此所デアル、又一方私ガ國民思想トシテ泣イテモ我慢スルト云フ如キコトハ、今後ドコマデモ私ハ獎勵シナケレバナラナイ、洵ニ大事ナコトデアリマス、隨テ彼等ガ物ヲ言ウタカラ漸クニシテ相當ナ待遇ヲ致サナクテハナラヌト云フノデハ事既ニ遲シ、黙シテ居ル今日ニ於テドウゾ相當ナル慰安ノ途ヲ與ヘタイ、是ガ本案ノ趣意デアリマス、又一方カラ申シマシタナラ、非役ノ壯丁其者ニ付テモ自分ハ、必任義務ヲ果スコトガ出來ナカッタ其代リ、現在ノ服役兵ニ相當ナル慰安ノ途ヲ講ジタト云フコトニナレバ、彼等モ自ラ満足スルト云フコトヲ私ハ疑ハナイ、之ヲ要スルニ本案ニシテ行ハ

ル、ニ至ツタナラバ、服役兵ハ今後トモ何處マデモ勤勉努力シテ、國運ノ盛ハ益盛ニ、強ハ益強トナルコトヲ期シ得ルト存ジマス、ドウゾ右ノ意味ニ依リマシテ政黨政派ノ別ナク、皆様ガ深ク服役兵ニ御同情ヲ垂レラレ是非トモ此案ノ通過センコトヲ私ハ切ニ祈ツテ置キマス
次テ本案ハ上島益三郎君提出身元保證ニ關スル法律案(二三)外五件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ニ着手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

三五 行政裁判所法中改正法律案

行政裁判法中左ノ通改正ス

第十五條 行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件其他行政官廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル事件ヲ審判ス

處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル事件ヲ審判ス

三六 訴願法中改正法律案

訴願法中左ノ通改正ス

第一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ外法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件其他行政官廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル事件

右兩案ハ孰レモ十二年二月十七日宮古啓三郎君外十五名之ヲ提出ス三月五日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者(宮古啓三郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

簡單ニ提案ノ趣意ヲ申上ゲマス、先ヅ行政裁判法中改正法律案ノ方カラ申上ゲマス、此案ノ目的一致シマスル所ハ要スルニ、行政裁判所ノ權限ヲ擴張シタイト云フノデアリマス、御承知ノ通り今日ノ法律ニ於キマシテハ、行政裁判所ニ出訴ノ出來ル事柄ハ法律ヲ列舉致シマシテ、其列舉以外ハ出訴スルコトガ出來ナイ事ニナツテ居リマス、ソレデアリマスカラ、行政官廳ノ違法ノ處分ニ爲ニ權利ヲ侵害セラレタリトスル人民ガ、今日ニ於テハ列舉ノ中ニ加ハラナイ事項デアリマスカラ、於テハ、訴ヘル處ガナイ状態ニナツテ居ルデアリマス、是ハ甚ダ宜シクナイ事デアリマスカラ、ソレヲ救済シタイト云フノガ即チ此案ノ主意デアリマス、提案ノ理由トスル所ハ二ツアリマス、第一ハ憲法第六十一條ニ依リマス所ノ理由デアリマス、是ハ憲法第六十一條ニ「行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スベキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス」斯ウ云フ規定ガゴザイマス、此條文ハ學者ニ依リマシテ解釋ヲ異ニ致シテ居リマス、私ノ解釋スル所ニ依リマス、是ハ行政官廳ノ違法處分ニ由ツテ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ、英國主義ノヤウニ司法裁判所ニ訴ヘルト云フヤウナコトハ致サズシテ、行政裁判所ニ屬セシムルト云フ趣意ヲ明カニシタモノデアラウト思フノデアリマス、御承知ノ通り、明治五年司法省第四十六號達ト云フモノガアリマシテ、其達ニ依リマスルト、行政廳ノ處分ニ由ツテ權利ヲ傷害セラレタリトスルモノハ、司法裁判所ニ訴ヘテ居ツタノデアリマス、今日トハ全ク違ツテ居タノデアリマス、サウ云フ沿革上ノ理由ト、ソレカラ又行政裁判所ニ屬スルモノハ、司法裁判所ニ屬シナイト云フコトヲ規定シタモノトシテハ餘リニ無意味デアアル等ノ理由ニ依ツテ、私ハ只今申上ゲタヤウニ解釋スルノガ至當デアルト思フノデアリマス、此解釋ニ致シマスルト云フト、行政官廳ノ違法處分ニ由ツテ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ、一般ニ行政裁判所ニ出訴ヲ許スコト、ナル、即チ憲法ニ於テ左様ナ權限ヲ與ヘタモノト相成

ルノデアリマス、サウシマスト云フト、我が現行法ノ如クニ或ル場合々々ダケヲ列舉致シマシテ其以外ハ行政裁判所ニ訴ヘルコトガ出來ナイト云フコトニ致シテ居ルノハ、憲法違反デアルト云フコトニナル假ニ憲法違反ト迄ハ言フコトガ出來マセヌトシテモ、尠クトモ憲法ノ精神ニ背クト云フコトハ認メナケレバナラヌト云フコトニ相成ルノデアリマス、サウ云フ譯デアリマスカラ本案ノ如キ法律ヲ設ケマシテ、如何ナル事柄デアリマシテモ、行政官廳ノ違法處分ニ由ッテ權利ヲ毀損セラレタ所ノ者ハ、行政裁判所ニ出訴スルコトガ出來ルト云フコトニ致シテ、サウシテ憲法ノ趣意ト合致セシメタイト云フ考デアルノデアリマス、ソレカラ第二ノ理由ハ、立憲政治ノ性質ニ依ル所ノ理由デアリマス、是ハ憲法第六十一條ノ解釋ハ、只今申シマシタヤウナ譯デアリマスガ、其解釋ノ如何ニ拘ラズ、立憲政治ノ性質ト致シテ、行政官廳ノ違法處分ニ由ッテ權利ヲ傷害セラレタル所ノ者ヲ救済セヌデ宜シイト云フ理窟ハ少シモナイノデアアル、ドウシテモ行政官廳ノ違法處分ニ由ッテ權利ヲ毀損セラレタル所ノ者ガ、訴ヘル所ノ途ガ無い、告グル所ノ人ガナイト云フヤウナコトハ、容スベカラザル事デアルト思フノデアリマス、若シ訴ヘル所ノ途ガナイ、告グル所ノ人ガナイト云フヤウナコトニ、相成ッテ居リマスルト云フト其結果ハ頗ル恐ルベキモノガアラウト思ヒマス、或ハ政府ヲ怨ミ、或ハ國家ヲ呪ヒ、或ハ場合ニ依ッテハ非常手段ニ出ルヤウナコトニ相成リマスソレデアルカラ、矢張本案ノ如キ法律ヲ設ケテ、サウシテ行政官廳ノ違法處分ニ由ッテ權利ヲ傷害セラレタル所ノ人ニ對シテハ、矢張救済ヲ與ヘルト云フコトニシテ置カナケレバナラヌモノデアラウト思フノデアリマス、右ノ理由ニ依リマシテ、本案ヲ提出致シタ次第デアリマスガ、之ニ對シテ一二ノ議論ガアルカモ知レマセヌカラ、極ク簡單ニ一言致シテ置キマス、ソレハ第一ニ本案ノ如クスルト云フト、範圍ガ餘リニ廣キニ過ギハセヌカト云フ議論デアリマス、併ナガラ是ハ今日立憲政治ノ下ニ於テ、民權が大ニ發達ヲ致シ、陪審制度マデ設ケルト云フ此時代ニ、範圍ガ廣イカラト云フノデ、行政官廳ノ違法處分ニ由ッテ權利ヲ毀損セラレタル所ノ者ヲ救済シナクテモ宜シイト云フ理窟ハドウシテモ出テ來ナイト思フ、立憲政治ノ性質トシテドウシテモ斯様ナ憫ムベキ被害者ニ對シテハ、救済ヲ與ヘルト云フコトガ至當ノ事

デアラウト思ヒマス故ニ、範圍ガ廣イト云フ議論ハ時代錯誤ノ議論ト思ヒマス、ソレカラ第二ニ多額ノ輕費ガ必要ニナリハセヌカト云フ議論デアリマス、之ニ對シマシテハ、行政裁判法第十七條ト云フモノニ於テ、直ニ行政訴訟ヲ起スコトハ出來ナイト云フコトニナッテ居ルノデアリマシテ、或ル特別ノ場合ダケハ別デアリマスガ、其以外ニ於テハ、先以テ上級行政官廳ニ訴願シテ裁決ヲ經タ後デナケレバ、行政裁判所ニ出訴スルコトガ出來ナイト云フコトニナッテ居ル、ソレデアリマスカラ、行政裁判所ニ行ク數ハ割合ニ澤山ナカラウト思フ、ソレカラ今日ノ行政裁判所ニ於キマシテハ、部ガ三ツアリマシテ、サウシテ一年ニドノ位ノ新訴ガアルカト申シマスルト、約三百件内外デアリマス、ソレデ本案ノ爲ニ一切ノ行政官廳ノ違法處分ニ由ッテ權利ヲ毀損セラレタル者ガ訴ヘルト致シマシテ、先ヅ其倍位ト見マシタナラバ、澤山ナル差ハナカラウト思ヒマス、サウシマスト先ヅ六百件内外位ノモノデアリマス、六百件位デアルナラバ、三部デ以テ事足リルト思フノデアリマス、假ニ一部位増スト致シマシタ所ガ、其費用ハドノ位掛ルカト云フト、僅ニ二三萬圓位ノモノデアラウト思ヒマス、ソコデ今日行政裁判所ノ全部ノ費用ハ一箇年トノ位カト云フト僅ニ十萬圓内外デアリマス、デアリマスカラ、是ガ假ニ倍ニナルトシテモ二十萬圓内外ト云フコトニナルノデアリマスカラ、經費ノ點ハ餘リ論ズル價値ハ無カラウト思フ、左様ナ譯デアリマスカラ、範圍ガ廣イト云フ議論モ、費用ヲ多額ニ要スルト云フ議論モ、餘リ價値ノアル議論デハナカラウト思フノデアリマス、ソレカラ終リニ御參考ノ爲ニ御紹介致シテ置キタイ事ガアリマス、ソレハ珍ラシイコトニ貴族院ニ於キマシテ、第四議會ノ當時ニ貴族院議員ノ松岡康毅君カラシテ有ユル名士、二條基弘公爵、近衛篤磨公爵、黒田長成侯爵、谷干城、曾我祐準、三浦安、箕作麟祥、村田保ト云フヤウナ有ユル名士ノ贊成ヲ以チマシテ、本案ト殆ド同ジ案ガ貴族院ニ提出ニナッテ居ルノデアリマス、是ハツイ議了ニハ至リマセヌデアッタケレドモ、其提案ノ趣意ヲ見マスルト、私ガ只今申上ゲタノト餘リ變リハナイ、ソレカラ又當院ニ於キマシテハ第十三議會ノ當時ニ於キマシテ、利光鶴松君外八名カラ星亨君其他數多ノ人ノ贊成ヲ得マシテ、本案ト略同様ノモノガ提案ニナッテ居リマシテ、當院ハ滿場一致デ通過ヲ致シテ居リマス、斯様ナ次第

アリマスカラシテ、此案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、ソレカラ次ニ訴願法中改正法律案ニ付テ一言致シマス、是ハ只今マデハ法律勅令ヲ以テ許シマシタ場合ノ外ハ、矢張訴願ハ出來ヌコトニナツテ居リマスガ、ソレヲ範圍ヲ擴張致シマシテ、法律勅令ヲ以テ訴願ヲ許シマシタ場合ノ外、行政官廳ノ違法處分ニ由ッテ權利ヲ毀損サレタ者ニ一般ニ訴願ヲ許ス、斯ウ云フ趣意デアリマス、是ハ行政裁判法ノ第十七條ニ依リマスト「行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政官廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス」ト云フ條文ガアリマス、此條文ガアリマスカラ直ニ行政裁判所ヘ行クコトノ出來ナイモノガ澤山アル、故ニ前ニ申シマシタ行政裁判所ニ出訴スルニハ、ドウシテモ訴願ヲシナケレバナラヌカラ、ソコデ訴願法ニ改正ヲ加ヘル必要ガアルノデアリマス、要スルニ本案ハ一ツニハ、訴願ヲ行政裁判所ニ行ク段階ニ供スルト、モウ一ツニハ、矢張行政官廳ノ違法處分ニ由ッテ權利ヲ毀損セラレタル者ヲ、訴願ニ依ッテ救済スルト云フ趣意ニ外ナラヌノデアリマス、以上ノ理由ニ依ッテ提案ヲ致シタ譯デアリマスカラ、ドウゾ御賛成ヲ願ヒマス

次テ兩案ハ廣岡宇一郎君提出辯護士法中改正法律案(三二)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月十日兩案及(四二)案ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長黒住成章君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程サレタマシタル三法律案ノ委員會ノ顛末ヲ御報告致シマス、行政裁判法中改正ノ要點ハ、行政官廳ノ違法處分ニ依ッテ權利ヲ毀損セラレタル者ハ、一般ニ行政裁判所ニ出訴シ得ベキコトハ憲法上明カデアアルニ拘ハラズ、從來我國ノ法律ニ於キマシテハ列舉主義ヲ採リマシテ、其結果列記以外ノ事件ニ付テハ、如何ニ權利ヲ傷害セラレマシテモ救済ノ途ガ無イ、即チ行政訴訟ヲ話

サヌコトニナツテ居ルノデアリマス、斯クテハ憲法ノ精神ニ副ヒマセヌカラ行政裁判法ノ第十五條ヲ改正シ即チ列舉主義ヲ一般主義ニ改メタイト云フノデアリマス、又訴願法改正ハ前案ト所謂姉妹案デアリマス、即チ行政裁判法第十五條ガ改正セラレマシテモ、之ヲ出訴スルノニハ特別ノ場合ヲ除クノ外、地方上級行政官廳ノ裁決ヲ經ナケレバナラヌコトハ、行政裁判法ノ第十七條ニ規定スル所デアリマス、故ニ一般行政官廳ノ違法處分ニ由ッテ權利ヲ傷害セラレタル者ニ對シ、行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許スニハ、是レト同時ニ地方上級行政官廳ニ訴願スルコトモ、亦之ヲ許サネバ徹底ヲ致サナイノデアリマス、故ニ訴願法第一條第二項ヲ改正セントスルニアルノデアリマス、委員會ハ兩案ヲ一括シテ議題ニ供シ慎重審議ヲ遂ゲマシタ、即チ提案者及政府ト委員トノ間ニ質問應答ガゴザイマシタ、委員中横山君ヨリ政府ニ對シマシテ、此案ニ對スル意見ヲ御確メニナツタノデアリマス、政府委員馬場法制局長官ハ之ヲ擴張スルノニハ賛成デアアル、唯列記法ガ善イカ、一般法ガ善イカ、是ハ大ニ研究ヲ要スルノデアアル、法制審議會ノ如キ特別機關ニ審査研究ヲ付託シテ速ニ提案ヲシタイト云フ考デアアル、斯様ナ答辯デゴザイマシタ、委員會ハ兩案共全會一致原案ノ通り可決サレタノデアリマス、次ニ司法官試補及辯護士ノ受験資格ニ關スル法律案デアリマス、本案ハ私立大學卒業生ニ對シマシテ、今後尙ホ五箇年間其受験資格ヲ保留シタイ、而シテ其資格者ハ是迄試験ヲ受ケタ者ニ限ルト云フノデアリマス、其次ハ本年度帝國大學ヲ卒業致シマシタル者ハ、僅カ一月足ラズノ差デ無試験ノ特典ヲ奪ハレルコトニナルノデアリマス、洵ニ情ニ於テ忍ビザルモノガアリマスルカラ、從來ノ特典ヲ延期シタイ、是ガ此提案者ノ要旨デアリマス、是亦提案者政府及委員トノ間ニ質問應答ガゴザイマシテ、委員中横山君ノ質問ニ、此法律案ニ對シテ政府ノ所見ヲ聽キタイ、斯ウ云フ質問ガゴザイマシタ、之ニ對シテ馬場法制局長官ハ、新學令ガ行レテ居ル以上ハ、私立大學卒業生ノ間ニ差別待遇ヲ殘シ置クコトハドウカト思フ、併ナガラ情ニ於テ忍ビザル點ガアルカラ、敢テ反對ハセヌ、斯ウ云フ答辯デゴザイマシタ、其他案ノ内容ニ觸レテノ質問ハ餘リ無カッタノデアリマスルガ、案ニハ關係ハゴザイマセヌガ、横山君ヨリ極テ機宜ニ適シタル一ノ質問ガゴザイマシタ、ソレハ本年度ノ辯護士試験

ニ合格シタ者ガ非常ニ多イ、此多數デアル所カラ、世間ノ一部ニ恩惠的ニ救済ヲシタカノ如キ評ヲ爲ス者ガアル、之ニ對シテ試驗當局デアル司法次官ノ意見ガ聽キタイ、斯様ナ質問ガゴザイマシタ、山内政府委員ハ之ニ答辯ヲセラレテ、斷ジテ左様ナ事ハ無ク、全ク受験者ノ努力ニ依ッテ斯ノ如キ多數ノ合格者ヲ出シタノデアアル、斯様ナ言明ヲ得タノデゴザイマス、是ハ試驗及第者ノ名譽ノ爲ニ此壇上ヨリ政府ノ聲明ヲ報告シテ置キタイト思ヒマスカラ、一言致ス次第デアリマス、本案モ委員會ハ全員一致デ、原案通り可決致シタ次第デゴザイマス、此段御報告致シマス

三木武吉君ハ第三案(四二)ニ對シ質疑ヲ爲シ黒住成章君、熊谷直太君、馬場政府委員之ニ應答ス

三木武吉君ノ質疑

此法案ハ時節柄司法受験生ヲ救済スル意味カラシ致マシテ、洵ニ適切ナル法案デゴザイマシテ、提案者ハ申スマデモナク委員諸君ガ滿場一致デ之ヲ可決セラレタコトニ對シテハ、私共ハ厚ク御禮ヲ申上ゲタイト思ヒマス、唯此ニ多少ノ遺憾ヲ感ジマスルハ、此法案ニ依リマスルト云フト、先ヅ其一項ノ部ニ於キマシテハ、明治二十六年司法省令第九號、辯護士試験規則ニ依ル試驗資格ヲ與ヘルト云フコトニナッテ居リマス、成程從前辯護士試験ヲ受ケテ居ッタ者ガ、未ダ其目的ヲ達セズシテ、法律ノ改廢ニ依ッテ其目的ヲ伸ベルコトガ出來ナカッタノデアアルカラ、之ヲ救済スル爲ニト云フノナラバ、此法案ノミデ以テ其目的ヲ達セラル、ヤウニモ見エマスルケレドモ、從前ノ規則ノ儘デ試験ヲ受ケ得ラズシテ目的ヲ達成シナイ、其驥足ヲ伸バスコトガ出來ナイト云フ者ハ、從前ノ規則デ願書ヲ出シタ者ノミニ限ルノデアリマセヌ、即チ昨年或ハ本年、或ル特殊ノ事情デ法律學ノ研究ヲシテ辯護士タラント希望シテ居ッタ者ガ、願書ヲ出サナカク、而モ辯護士タルノ志ヲ改メナイト云フ者ガ、向ホ數千人此處彼處ニ在ルト事フコトハ、私共ガ明ニ認メル所デアリマス、シテ見レバ單ニ一片ノ紙ヲ司法省ニ提出シタダケデ、此貴重ノ權利ノ保留ヲ

シテヤルト云フコトハ、餘リニ此願書ヲ出シタ者ニ厚クシテ、願書ヲ出サル者ニ薄過ギハシナイカ、同ジク法律書生ヲ救済スルト云フナラバ、イッソノコト思切ッテ、向フ五箇年間ハ辯護士法第二條第二號ノ規定ニ依ラズ、從前ノ通り試験ヲ許スト云フコトニセラレタナラバ、ドウカト考ヘテ居リマス、此點ニ付キマシテハ委員會ニ於テ如何ナル問答ガアツタカ、且ツ政府ハ此點ニ付テドウ云フ御考ヲ持ッテ居ラル、カ、此事ヲ私ハ此案ヲ採決セラル、以前ニ御尋ラシテ置キタイト思ヒマス、ソレカラ第二項ノ方ハ、是モ本年三月ニ帝國大學ノ法律科ヲ卒業セラル、人ガ、裁判所構成法並ニ辯護士法ノ改正ノ結果、僅カ十日カ五日ノ違ヒデ其以前ノ者ハ——前同ノ者ハ無試験デ司法官試補或ハ辯護士ニナレルケレドモ、本年度ノ者ハナレナイノデアアルカラシテ、此憐ナル境遇ニ居ラル、所ノ帝國大學法律科ノ卒業生ノ其權利ヲ今回限り從前通りシテ置カウト云フコトデゴザイマスルカラ、洵ニ是ハ機宜ニ適シタ法案デアルト思フ、併ナガラ一面カラ申シマスルト、既ニ高等試験令ヲ發布セラレ、我が日本ノ制度ト致シマシテ官立學校ト私立學校トノ間ニ何等ノ差別ヲ置カナイト云フ原則ヲ定メラレタル以上ハ、特殊ノ理由デ帝國大學ノ法律科ノ卒業生ニ、斯ノ如キ特典ヲ與ヘナケレバナラヌト云フナラバ、私立大學ノ卒業生ニモ亦此恩典ニ均霑サスヤウニスルコトガ最モ公平デアッテ、且ツ現在ノ法制ニ適スル所ノ措置デアルト私ハ信ジマス、故ニ此點ニ付テモ委員會如何ナル質問應答ガアツタカ、又政府ノ御所見ハ之ニ對シテ如何ナモノデアアルカト云フコトヲ、此場合御尋シテ置キタイト思ヒマス

黒住成章君ノ應答

簡單デアリマスカラ、此席カラ申シマス、先程報告中ニ申上ゲマシタ如ク、本案ハ滿場一致デ可決セラレマシタヤウナ次第デ、左様ナ點ニ互リマシテ深キ質問應答ハナカッタノデアリマス、多少推知シ得ベキ質問應答ノ一端ガナイデハナイガ、是ハ寧ロ私カラ申上ゲルヨリ提案者タル熊谷君ヨリ説明致サレタ方ガ、質問者モ御満足ト思ヒマス、左様御承知ヲ願ヒマス

熊谷直太君ノ應答

只今三木君ノ御質問ハ是ハ、委員長ニ質問セラレタヤウデアリマスガ、便宜上私ヨリ御答致シマス、三木君ノ御質問ハ、御尤ナル御質問デアリマシテ、其第一點ノ御質問ハ、今日法律學校デ學ンデ居ル總テノ者ノ救済ハ出來ナイカト云フ質問デアリマスガ、是ハ三木君モ御承知ノ如ク、是マデ一般ノ法律學校デ學ンデ居ル者ニハ、一回マデモ延期シ來ッタデアリマス、而シテ今日受驗ヲシタ人ニハ、其行程ヲ經テ受驗資格ヲ得タノデアリマス、既ニ一回マデ延期セラレ、間ニ於テ、法律學校ニ入りテ法律ヲ修ムル人ニハ、ソレノ覺悟ヲシテ居ラナケレバナラヌ次第デアリマスガ、故ニ、此度ハ甚ダ遺憾デアリマスガ、司法省ニ於テ受驗ノ登錄ヲシタモノニ限リテ、此特典ヲ與ヘルト云フコトニ致シタノデアリマス、御質問ノ第二點ハ、是亦誠ニ御尤ナル御質問デアリマシテ、吾モ精神ニ於テハ三木君ノ御説ノ通りニ致シタイノデアリマス、併ナガラ齟齬ヲ考ヘマスレバ、今度ノ三月末日マデニ卒業スル人々ハ、是マデノ法令ニ據ッテ見レバ特典ヲ與ヘラレテ居タノデアッテ、ソレガ今度ノ制度ニ據リ、即チ三月一日ヨリ是等ノ人々ハ其特典ヲ奪ハレルノデアアル、又一面ニハ私立大學ノ人々ハ三木君ノ御説ノヤウニスレバ、新ニ與ヘルト云フコトニナルノデアリマス、此見地ヨリ致シマシテ、奪ハル、者ヲ救済スルト云フ精神ヨリ、單ニ帝國大學ノ法律學科ヲ卒業シタ者ニ限ッタノデアリマス、出來得ベクンバ私立大學ノ人ニモ此特典ヲ與ヘタイノデアリマスガ、若シ私立大學ノ人ニ此特典ヲ與ヘルコトニナリマスレバ、三月一日ヨリ行ハル、法制ハ全ク威嚴ナキ意味ナキモノトナリマスカラ、已ムラ得ズ斯様ニ提案ヲ致シタノデアリマス

馬場政府委員ノ應答

政府ハ此法律案ヲ樞密院ノ通過ヲ條件ト致シマシテ、敢テ反對ヲ致サヌ、此程度デアリマス
三木武吉君ノ再質疑
私ガ政府ニ御尋ヲ致スノハ、此法案ニ對シテ政府ハ御賛成デアアルカドウカト云フノデアナイ、今

ノ馬場法制局長官ノ御答ハ、此法案ニ對シテ賛成デアアルカドウカト云フコトニ對スル御答ノヤウニ伺ヒマシタガ、サウヂヤナイ、私ノ申上ゲタノハ、此第一項ノ側ノ受驗願書ヲ出シタ者ニハ、五箇年間其權利ヲ留保シテヤルト云フ規定ヲ、イッソノコト擴張ヲシテ、五箇年間ハ辯護士法第一條第二號ノ規定ニ拘ラズ、何人ト雖モ受驗ガ出來ルヤウニスルコトニ對スル政府ノ意見ハドウデアアルカ、言換ヘテ見レバ願書ヲ出シタ者ニノ制限ヲスルト云フコトガ甚ダ面白クナイガ、政府ハドウ思フカト云フコト、帝國大學ノ法律科ノ本年ノ卒業生ノミニ限ッテ辯護士及司法官試補ニ無試験デナル特典ヲ留保スル、此規定ヲ擴ゲテ大學令ニ依ル私立大學ノ法律科ノ卒業生ニマデモ及ポスト云フコトニ付テ、政府ハドウ云フ考ヲ持タレテ居ルカ、此法案ニ對スルノト同ジヤウナ考デ以テ、樞密院ノ通過ヲ條件ニシテ、ソレデモ宜シイト云フノデアリマスカドウカト云フノデアリマス、若シソレデモ宜シイトナレバ、吾々ハ吾々ノ取ルベキ態度ガアルノデアリマス

馬場政府委員ノ應答

御答致シマスガ、本案ハ現ニ試験ヲ受ケツ、アッタ者ニ付テ、高等試験令ガ三月一日ヨリ施行ナッタ爲ニ、受驗ガ出來ナクナルノハ氣ノ毒デアアル、之ヲ救済シタイト云フノガ第一項ノ趣旨デアラウト思フ、其點ニ於テ政府ハソレ以上ニ進ム必要ハナイト云フ考カラ、同意ヲシテ居ル譯デアリス、即チ今三木君ノ説ノ如クニスルナラバ、高等試験令ノ根本的改正ニナルト云フ嫌モアルノデアリマス、サウ云フ趣旨デハナイノデアリマス、本案提案ノ趣旨ハ、現在受驗シツ、アッタ者ニ此際受驗ノ出來ナイノハ氣ノ毒デアアルカラ、之ニ同情スル斯ウ云フ趣旨デ出來テ居ルト思フノデアリマス、政府ハソレニ於テ敢テ反對ヲ致サヌ、其同情ノ程度ニ於テ同意ヲスル、又第二項ハ只今熊谷君ノ説明セラレタ如クニ、若シ之ヲ私立大學マデ及ポスト云フコトニナリマスレバ、高等試験令ノ主義ヲ變更スルコトニナルノデアリマス、ソレハ進ミ過ギテ居ル、併シ今迄兎ニ角試験ヲ受ケズニ、司法官試補ナリ、辯護士ニナレタ帝國大學ノ者ダケニ付テハ、僅カ一月違ヒノコ

トデアアルカラ、勘辨シテヤラウト云フ、斯ウ云フ單ニ同情デアアル、其處カラ來タノデアラウト思ヒマス、此點ニ於テハ理論ハ徹底シテ居ラヌト思フノデアリマスガ、併シ折角ノ御提案デアアルガ故ニ、政府ハ敢テ反對ヲ致サヌト云フ、斯ウ云フ趣旨デアリマス

院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決確定シ即日三案全部ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日第三案(四二)ヲ可決上奏シ四月三十日法律第五十二號ヲ以テ公布セラル第一、第二ノ兩案ハ同院ニ於テ議決ヲ經ルニ至ラザリキ

三七 市制中改正法律案

市制中左ノ通改正ス

第九條第一項中「二年ヲ經サル者、」ヲ「一年ヲ經サル者、」ニ改メ同項第二號及第四號ヲ削リ第三號ヲ第二號ニ改ム

同條第三項ヲ削ル

第十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

市公民家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄其ノ公民權ヲ停止ス

第十五條 削除

第十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

人口十五萬以上ヲ有スル市ハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得

第十七條中「二級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ」ヲ削ル

第十八條第二項中第四號及第五號ヲ削ル

同條第五項中「同級ニ在リテハ」及「等級若ハ」ヲ削ル

第十九條第二項中「第一」、「第三項中」每級各別ニ」及「及等級」ヲ削ル

第二十條第一項ヲ左ノ如ク改メ第四項中「等級及」ヲ削ル

市會議員中關員ヲ生シタルトキハ補闕選舉ヲ行フヘシ但シ其ノ關員議員定數ノ五分ノ一以下ナルトキハ補闕選舉ヲ行ハサルコトヲ得

第二十一條第一項中「選舉期日前六十日」ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ」ヲ「毎年九月十五日」ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ十月十五日迄ニ」ニ、第三項中「選舉期日前四十日」ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間」ヲ「毎年十月二十日ヨリ十五日間」ニ、第七項中「其ノ確定期日前」ヲ「直ニ」改ム

同條第八項及第九項ヲ左ノ如ク改メ第十三條及第十六項ヲ削ル

選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確定名簿ハ次年ノ十二月十四日迄之ヲ据置ク

ヘシ

第三條又ハ第四條ノ處分アリタル場合ニ於ケル名簿ノ分合ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ改ム
第二十二條第一項中「各級ヨリ」及「等級及」ヲ削リ第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

各選舉區ノ選舉ハ同日時ニ之ヲ行ヒ選舉分會ノ選舉ハ本會ト同日時ニ之ヲ行フヘシ

天災事變ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキハ市長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル選舉會

又ハ選舉分會ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

第二十五條第五項但書ヲ削ル

第二十八條第二項ヲ削ル

第二十九條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定ス

選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ分會長之ヲ決定ス

第三十條第一項中「各級ニ於テ」及「各級ノ」ヲ削ル

第三十二條第三項中「數級又ハ」及「最終ニ」ヲ削ル

第三十三條第一項中「數級若ハ」及「級若ハ」ヲ削ル

第五十五條第三項中「又ハ連名投票」及「其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ

依ル」ヲ削ル

第六十五條第四項中「市會議員ノ任期ニ依ル」ヲ「二年トス」ニ改ム

第七十三條第一項中「市長ハ」ノ下ニ「名譽職又ハ」ヲ加フ

第四十六條第三項ヲ削ル

附則

本法ハ本法施行後ニ行ハルル選舉ヨリ之ヲ適用ス

本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

三八 町村制中改正法律案

町村制中左ノ通改正ス

第七條第一項中「二年ヲ經サル者、」ヲ「一年ヲ經サル者、」ニ改メ同項第二號及第四號ヲ削リ第三

號ヲ第二號ニ改ム

同條第三項及第五項ヲ削ル

第九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

町村公民家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル

迄又ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナ

キニ至ル迄其ノ公民權ヲ停止ス

第十三條 削除

第十五條第二項中第四號及第五號ヲ削ル

第十七條第一項ヲ左ノ如ク改ム

町村會議員中闕員ヲ生シタルトキハ補闕選舉ヲ行フヘシ但シ其ノ闕員議員定數ノ五分ノ一以下ナルトキハ補闕選舉ヲ行ハサルコトヲ得

第十八條第一項中「選舉期日前六十日」ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ「毎年九月十五日」ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ「十月十五日迄」ニ、第二項中「選舉期日前四十日」ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間」ヲ「毎年十二月二十日ヨリ十五日間」ニ、第六項中「其ノ確定期日前」ヲ「直ニ」ニ改ム

第二十六條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定ス

選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ分會長之ヲ決定ス

第二百五十七條第一項中「島嶼」ヲ「地域」ニ改ム

附則

本法ハ本法施行後ニ行ハルル選舉ヨリ之ヲ適用ス

本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

三九 府縣制中改正法律案

府縣制中左ノ通改正ス

第四條第三項及第四項ヲ削ル

第六條第一項ヲ左ノ如ク改メ第二項及第三項ヲ削ル

府縣内ノ市町村公民ハ府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有ス

同條第八項中第三號及第四號ヲ削ル

第九條 府縣會議員ノ選舉ニ要スル選舉人名簿ハ市町村會議員ノ選舉人名簿ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 削除

第十一條 削除

第十二條 選舉人名簿ニ登録セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登録

セラレヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

選舉人名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿

ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

第十八條第三項中「選舉人名簿」ノ下ニ「若ハ其ノ謄本」ヲ加フ

第十九條 投票ノ可否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ市町村長之ヲ決定ス
第二十八條 投票ノ效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定ス
第二十九條中「七分ノ一」ヲ「五分ノ一」ニ改ム
第六十六條第五項中「毎年」ヲ「二年毎ニ」ニ改ム

附則

本法ハ本法施行後ニ行ハルル選舉ヨリ之ヲ適用ス
本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

右三案ハ孰レモ十二年二月十七日濱田國松君外八名之ヲ提出ス三月五日三案ヲ一括シテ第一讀會
ヲ開キ贊成者(平野光雄君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今議題トナリマシタ市制、町村制、府縣制ノ此三法律案ニ關シマスル改正ノ趣旨ヲ申述ベタイ
ト思ヒマス、此三種ノ現行法ガ甚ダ、不徹底デアアル、又不公平デアアルト云フコトハ、既ニ政府當局
ニ於テモ認メラレテ居ル、蓋シ多數黨ノ諸君ニ於テモ御同感デアラウト思ヒマス、即チ吾々ハ時
代ノ進運ニ伴ハナイ所ノ現行法規、此法制ノ不備缺陷ヲ補フト云フ意味ニ於テ、茲ニ改正ヲシタイ
ト云フノデアリマス、改正ヲ要スベキ點ハ、市制ニ於テ約三十箇所、町村制ニ於テ十二箇所、府縣
制ニ於テ約十三箇所、都合五十五箇所ノ多キニ上ツテ居リマス、此三案ニシテ五十五箇所ノ改正
點ヲ三案若クハ二案ソレト、ニ組合セマシテ、共通ノ改正點ヲ選抜キマスルト是ガ七點ニ分類
スルコトヲ得ルノデアリマス、即チ府縣制、市制、町村制ノ此三案ニ共通スル所ノ改正點ハ、第一
ニ選舉權及被選舉權ノ擴張統一ト云フコトニナルノデアリマス、第二ニハ選舉人名簿ノ共用簡

略ト云フコトニナル、更ニ市制ト府縣制ノ此兩案ヲ通ジテノ共通ノ改正點ハ第一ハ趣意トシテ
吾々ノ小選舉區制ヲ認メナイノデアリマス、併シ市制中ノ第十六條ノ市條例ヲ以テ小選舉區ヲ
區分スルコトヲ得ルト云フ、此規定ハ便宜ノ爲メ十五萬以上ノ都市ダケデハ之ヲ認メルト云フ
事ト、今一ツハ府縣制及市制ニ於テノ名譽參事會員ノ在職年限ヲ、各二年間ニ劃一シタイト云フ
此二點デアリマス、次ニ市制ト町村制ニ互ツテノ共通ノ改正點ハ、是ハ申ス迄モナク吾々ハ現行
法ノ納稅主義ト云フ、此制限選舉ヲ撤廢スル結果トシテ、是ハ當然階級選舉ニスルト云フ今日ノ
法規ト云フモノハ消滅セザルヲ得ナイノデアリマス、是ガ一ツ、第二ニハ投票ノ可否及效果ト云
フモノヲ、現行法ニ於テハ選舉立會人ニ此決定權ヲ置イテアリマスガ、是ハ吾々ニハ不便ナモノ
デアアル、故ニ此點ニ於テ是ハ宜シク選舉長ニ與フベシ、是ガ第二デス、第三ニハ市町村會ヲ通ジ
テ補缺選舉ヲ、原則トシテ是ハ必ズ行ハナケレバナラナイ、御承知ノ通り、現在ノ法規ニ於テハ
是ハ溜置主義——三分ノ一ニ超過セザル範圍ニ於テハ、其儘放ツテ置イテ宜イノデス、吾々ハ是
ハ甚ダ不備ナモノデアアル、宜シク是ハ原則トシテ成ベク早ク補缺選舉ヲ行フ、但シ便宜ノ爲ニ五
分ノ一ニ達スル迄ハ、場合ニ依ツテ其儘溜置イテモ宜シイ、都合此七箇所デアアル、御承知ノ通り此
三法律ノ改正ハ、從來舊國民黨並ニ憲政會諸君ヨリ過去五年ニ互ツテ每議會ニソレト、別個ノ案
トシテ提案サレテ居リマス、案ハソレト、別個ノ案トシテ提出サレテ居リマスガ、實ハ其内容ニ
於テ大同小異、殊ニ選舉權ヲ擴張スルト云フ此一點ニ付テハ、兩黨共ニ相一致シテ居リマス、デア
リマス、此兩黨ノ諸君撓マザル所ノ努力、熱烈ナル要求ガ時代ノ進運ト相俟ツテ、茲ニ輿論ノ高調
トナリ、斯クテ此機運ニ促サレテ政府モ亦政友會内閣ノ下、漸次改正ヲ施シタコトハ諸君ノ御承
知ノ通りデアリマス、成程選舉權ニ付テモ、從來ヨリ見レバ餘程改正サレテ居リマス、此點ハ吾
吾モ認メテ居リマス、併シ此改正サレタモノハ矢張納稅主義、所謂制限選舉ト云フコトヲ基本觀
念トシテノ改正デアリマス、吾々ノ主張スル所ノ人格主義、能力本位、自由平等ノ觀念ヨリ起ル
所ノ、國民ヲ無差別扱ニシヤウト云フ此時代ノ大精神トハ、マダ餘程ノ距離ガアリマス、今回吾
吾々ノ改正ノ眼目モ勿論此所ニ在ルノデアリマス、殊ニ昨年ニ於テハ憲政會及舊國民黨ノ諸君ハ、

是等ノ點ニ於テ初テ一致ノ見解ノ下ニ内容ノ整備及法文、ソレトニ於テ、一致ノ修正、又改正ガ企テラレマシテ、昨年當議場ノ審議ニ上ツタコトハ、是亦私ガ申スマデモナイコトデアリマス、本年ハ御覽ノ通り、當議場ノ一角ニ新ニ革新俱樂部ナル團體ガ生レテ居リマス、此團體ノ下、更ニ時代ノ要求ニ應ジテ進歩シタ考ヲ以テ、新シイ進歩シタ改正ヲ企テヤウ、是ガ吾々革新俱樂部ノ今回此案ニ對スル所ノ態度デアリマス、幸ニシテ憲政會ノ諸君ト見ル所ヲ一ニシマシテ、偶憲政會ノ諸君モ吾々ノ新シイ進歩シタ改正點ヲ御認ニナリ、此所ニ更ニ一致ノ見解ノ下ニ、本年毛革新俱樂部及憲政會ノ協調案トシテ、此所ノ諸君ノ御審議ヲ仰グ次第デアリマス、大體ニ於テ三案ヲ通ジテ、改正ノ箇所五十五箇所、是ハ言フマデモナク、其骨子ハ從來特ニ昨年ノ協調案ト大同小異、變リアリマセズ、唯進歩シタ點ハ、何ニ在ルカ、是ハ現行法ノ市制中ノ第九條、及町村制中ノ第七條、所謂公民權、此公民權タルノ資格要件トシテ舉ゲラレテアル所ノ、獨立ノ生計ヲ營ム者ト云フ一箇條デアリマス、吾々ハ時代ノ要求ニ應ジテ此獨立ノ生計ト云フモノヲ除クタイノデアリマス、此箇條中ノ所謂第四號トシテ掲ゲラレテアル、其市及町村ニ於テノ直接地方稅ヲ納ムル者ト云フ資格ハ、是ハ吾々ハ主義トシテ、原則トシテ認メナイト云フコトハ、昨年モ本年モ變リナイノデアリマス、前申シタ通り本年進歩シタ點ハ、獨立ノ生計ヲ營ム者ト云フ此制限ヲ撤廢シタイト云フノデアリマス、故ニ昨年ノ協調案ト比レバ、昨年ハ此獨立ノ生計ト云フコトハ依然認メテ居ツタ、其代リニ住居ノ制限ノ一箇年ト云フノヲ六箇月ニ緩メテ居ツタ、吾々ハ本年ハ新ニ獨立ノ生計ト云フ制限ヲ除ク代リニ、住居ノ制限ニ付テハ現行法ト同様復活シテ矢張之ヲ二年ニシタイ、是ガ吾々ガ今年更ニ新シキ見解ノ下ニ改正ヲ加ヘントスル要點デアリマス、次ハ市制中ノ第十六條中ニ、市條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得、即チ各都市ノ小選舉區制ヲ設ケ得ラルル其地方ノ事情任意ニ依ッテ小選舉區ヲ設クルコトノ出來ルト云フ規定ハ、吾々少數黨ノ立場トシテ、少數黨ノ當選率ヲ阻碍スルモノトシテ吾々ハ之ヲ認メテ居ナイ、公平ナ立場ニ立ッテ是ハ認メタクナイ、故ニ是ハ原則トシテ吾々ハ撤廢ヲ望ムガ、併シ大都市其モノヲ悉ク大選舉區トシテ制限ノナイ大多數ノ投票有權者ヲ以テ選舉ヲ行フト云フコトハ、實際上不便ガアルカ

ラシテ、此點ハ茲ニ折衷案トシテ十五萬以上ノ都市ダケニハ許ス、十五萬以下ノ都市ニハ是ハ認メナイト云フコトニシタイ、此三點デアリマス、殘餘五十五箇所ノ改正點ニ付テハ既ニ先年來吾々同志先輩ノ諸君ヨリ、此壇上ニ於テ、或ハ委員會ニ於テ、詳細ニ述ベ盡サレテ居リマス、故ニ私ハ茲ニ重ネテ之ヲ説明シ此理由ヲ述ブルト云フコトノ煩ヲ省キマス、唯本案ノ本年特ニ吾々ガ進歩シタル見解ヲ以テ削除シタ所ノ此三箇條ニ付テ、聊カ其趣旨ヲ申述ベテ見タイト思ヒマス、何故ニ吾々ガ獨立ノ生計ト云フ此制限ヲ取ルカ、是ハ一言ニシテ言ヘバ、時代ノ進運ニ伴フ所ノ改正ト云フ此一語ヲ以テ答ヘルコトヲ得ルノデアリマス、然ルニ語ヲ換ヘテ言ヘバ、成程現行法ノ下ニ地方ノ多數ノ箇所ニ於テ選舉ガ行ハレテ居リマス——地方議會ノ選舉ガ行ハレテ居リマス、此結果ニ依ッテ見ルト云フト、餘リ此獨立ノ生計ト云フ文字ノ爲ニ、吾々ガ豫期シタ程ノ紛争ハ起ッテ居ラナイコトハ事實デアリマス、併シ是ハ第七條乃至第九條ノ第一項第四號ニ當ル所ノ納稅主義ト云フコトヲ基礎トシテ是ガアル以上ハ、大概納稅者ノ多クハ獨立ノ生計ヲ營ンデ居ル者デアアル、此故ニ餘リ今日ニ於テハ、サシテ此爲ニ紛争ハ起ッテ居リマセズ、是ハ從來ノ慣例ニ依ッテ、從來ノ觀念ニ依ッテ、餘リ地方民ガ選舉ト云フコトヲ公民權ト云フコトニ執着シナイ、又ソレダケ知識ガ發達シテ居ラナイカラ皆黙ッテ居リマス、一タビ吾々ノ主張スル所ノ人格主義、能力本位、此納稅本位ノ制限選舉ト云フモノヲ撤廢シタ曉ニハ、必ズ所在ニ此紛争ノ起ルト云フコトハ、是ハ蓋シ想像ニ難カラヌト思フ、是ハ必ズヤ將來ニ互リ普通選舉ガ行ハレタ際ニハ、必ズ色ナ訴訟沙汰マデ起リ、此爲ニ地方ニ於テ選舉ノ爲ニ色々ナ面倒ガ起リ得ルト云フコトハ、吾々ハ茲ニ斷言シテ憚ラナイデアリマス、故ニ是ハドウシテモ除ル、殊ニ既ニ納稅主義ノ公民權ト云フモノハ廢シテ、人格本位ノ無差別扱ヒノ選舉ヲ行ハウトスル以上ハ、既ニ五十歩百歩トシテ獨立ノ生計ト云フヤウナ有ッテモ無クテモ宜イ、宛ラ猫ノ尻尾ノ如キ此規定ハ置ク必要ハナイ、是ハ吾々ガ敢テ進歩シタル見解トシテ、此獨立ノ生計ナル所ノ條件ヲ除イタイ云フ趣旨デアリマス、或ハ諸君ノ中ニハ、昨年迄認メテ居ッテ本年何故ニ除ルカ、斯ウ云フ御不審ヲ起シ、斯ウ云フ疑問ヲ懷カレルデアラウ、是ハ丁度多數黨ノ諸君ガ普選案ニ對シテ、最初ハ危險思想過激視

シテ居ッテ、而モ是ガ漸次緩和シ、又進歩發達シテ或ハ趣旨トシテ認メル、或ハ理想トシテハ之ニ贊意ヲ表スル、特ニ聞ク所ニ依レバ政友會ノ少壯ノ諸君ガ集合サレテ選舉權ノ擴張ヲスル、即チ諸君ノ希望サル、所ノ地租委讓ノ結果トシテ起ル缺陷ヲ補フ爲ニ、選舉權ノ擴張ヲ行ハナケレバナラヌト云フコトヲ、流石ニ少壯諸君ガ御決定ニナリ、之ヲ幹部ニ提唱サレタ、云フコトヲ伺ッテ居リマス、是ト同ジ意味ニ於テ吾々モ矢張從來ヨリモ進歩發達シテ、昨年迄ハ認メテ居ッタ所ノ獨立生計ト云フモノヲ本年ハ除リタイ、其代リ昨年ハ二年ノ制限ヲ六箇月トシテ置イタモノヲ、此點ニ於テハ吾々ハ幾分現行法ノ趣旨ニ近寄ッテ來テ、六箇月ヲ更ニ二年ニ復活シタ譯デアリマス、尙ホ諸所ノ箇所ニ付テ申述ベタイコトガアリマスガ、議案モ輻輳シテ居ル際、餘リ時問ヲ取ルト云フノモ本旨デアリマセヌカラ、後ハ委員會ニ於テ隨時説明シ、又諸君ノ御不審ニ答ヘタイト思ッテ居リマス、要スルニ政友會ノ諸君ニ於カレテモ、必スヤ選舉權ノ擴張ト云フコトハ御希望ニナッテ居ル、又早晩行ハレルト思ッテ居ル、又是ハ當然來ルベキ所ノ歸結ト思ッテ居リマス、故ニ政友會諸君ガ中央議會ニ於ケル選舉ノ擴張ヲ行フ場合ニ、地方ニ於テ先ツ小手調トシテ、準備トシテ行ハナケレバナラナイト常ニ仰セラレテ居ル、此意味ニ於テ既ニ機運ハ熟シテ居ル、故ニ吾々ハ先以テ地方議會ニ於ケル公民權、即チ選舉權ヲ擴張シテ以テ此準備ニ充テタイ、是ガ趣旨デアリマス、蓋シ此點ニ於テハ多數黨諸君ニ於テモ御異存ハナカラウト思フ、宜シク御審議ノ上、今日ノ地方自治體ニ於ケル重要問題デアリマス、諸君ノ御贊同ヲ仰ギタイト思ヒマス

次テ三案ハ議長指名(十八名)ノ同一委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌六日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ニ著手シタルモ孰レモ報告ヲ爲スニ至ラザリキ

四〇 農業倉庫業法中改正法律案

農業倉庫業法中左ノ通改正ス

第一條第一項中「穀物若ハ繭ヲ、又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者カ小作料トシテ受ケタル穀物」ヲ「穀物、繭若ハ砂糖ヲ、又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者カ小作料トシテ受ケタル穀物若ハ砂糖」ニ改メ同條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項ノ砂糖ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條中「又ハ繭」ヲ「繭又ハ砂糖」ニ改ム

右ハ十二年二月十九日花城永渡君外四名之ヲ提出ス三月五日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(花城永渡君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

提案ノ理由ヲ説明致シマス、農業倉庫業法ニ依リマスト云フト、農業倉庫ノ目的物件トシテ規定シテアリマスノハ穀物若クハ繭ト限定シテアリマス、而シテ穀物若クハ繭ノ保管ニ差支ノナイ限リニ於キマシテ、他ノ農産物ヲモ入レルコトガ出來ルト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ沖繩縣ナドノヤウニ、砂糖ヲ以テ主要農産物ト致シマシテ、穀物ヤ繭ノ産額ガ至テ僅少デアルト云フ地方ニ於キマシテハ、農業倉庫業法ノ適用ヲ受ケル餘地ガ全然ナイノデアリマス、ソコデ斯ル地方ノ爲ニ農業倉庫ヲ取扱フ品目中ニ砂糖ヲ加ヘマシテ、砂糖生産業者ニ對シテモ、等シク此法律ノ利益ヲ受ケサセタイト云フ趣旨デ、本案ヲ提出シタ次第デアリマス、今農業倉庫業法制定ノ當初ニ於キマシテ、何故ニ砂糖ヲ入レナカッタノデアアルカト云フコトヲ、其當時ノ速記録ニ依リマシテ調べテ見マスト云フト、政府當局ハ砂糖ニ對シマシテハ、糖業改良獎勵費ヨリ相當補助ヲ致シテ居リマスカラ、更ニ砂糖ノ爲ニ農業倉庫ヲ拵ヘル必要ハ無イト申サレテ居ルノデアリマス、併ナガラ農業倉庫業法ニ依ル農生産業者ノ利益ト云フモノハ、倉庫建設費ノ補助ヲ受ケルト云フ許リデアアリマセヌ、其外ニ尙ホ種々アルノデアリマシテ、殊ニ最モ大キイ利益ハ倉

庫證券ヲ發行シテ金融ノ便ヲ圖リ得ルコトニアルト思フノデアリマス、シテ見ルト云フト單ニ補助金ノ點ノミニ著眼致シマシテ、砂糖ヲ入レナイト云フコトハ、其當ヲ得ナイコトハ明デアリマス、又政府當局ハ、各地方ニ於ケル主要産物ヲ農業倉庫デ取扱フト云フコトニ致シマスルト云フト、各地方ヨリ色々ノ要求ガ出マシテ、其煩ニ堪ヘナイ、ノミナラズ豫定ノ補助計畫ニ狂ヒヲ出ス虞ガアルト云フコトヲ申サレテ居ルノデアリマスガ、是モ其當ヲ得ナイト思フノデアリマス、前ニ申シマシタ通り、農業倉庫デハ穀物若クハ繭ノ保管ニ差支ノナイ限リニ於キマシテハ、他ノ農産物ヲモ入レルコトガ出來ルコトニナツテ居ルノデアリマスカラ、多クノ地方ニ於キマシテハ米若クハ繭ノ爲ニ拵ヘタ倉庫ニ、他ノ農産物ヲモ併セテ入レルト云フ便宜ガアルノデアリマスガ、沖繩ノヤウナ所デハ、米若クハ繭ノ爲ニ倉庫ヲ造ル必要ガ全然ナイ、故ニ砂糖ヲ入レナケレバ農業倉庫ナルモノヲ拵ヘルコトガ出來ナイト云フヤウニ、他ノ地方ト趣ヲ異ニシテ居ルノデアリマスルカラ、他ノ地方ト同様ニ取扱ハレルト云フコトハ、洵ニ遺憾ニ存ズルノデアリマス、尙ホ一ツ附加ヘテ申シテ置キタイコトハ、今ヤ農村疲弊、農村救済ノ聲ガ盛ニ叫バレテ居ルノデアリマス、中ニモ痛切ニ其救済ノ必要ヲ感ズルノハ、砂糖主産地デアリマス、砂糖ハ大正九年ニ其價格ハ暴落致シマシテ以來、今日ニ至ルマデ殆ド生産費ヲモ償フコトノ出來ナイト云フ慘メナ状態ガ繼續致シテ居リマス、砂糖生産地ノ疲弊其極ニ達シテ居ルノデアリマス、而シテ本法案ハ其救済ノ一策ト存ジマス、ドウゾ御賛同下サレンコトヲ切望致シマス

次テ本案ハ安達謙藏君外四名提出農村振興ニ關スル建議案(四七)外五件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月二十一日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及一ハ委員會修正)

農業倉庫業法中左ノ通改正ス

第一條第一項中「穀物若ハ繭ヲ、又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者カ小作料トシテ受ケタル穀物」ヲ「穀物、繭若ハ砂糖ヲ、又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者カ小作料トシテ受ケタル穀物若ハ砂糖」ニ改メ同條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項ノ砂糖ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條中「又ハ繭」ヲ「繭又ハ砂糖」ニ改ム

第一條ノ二 本法中穀物又ハ繭トアルハ砂糖ヲ主産物トスル地方ニ在リテハ之ヲ砂糖トス

前項ノ砂糖ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

三月二十三日日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長元田肇君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

農村振興ニ關スル建議案ノ委員會ニ併セ付託サレマシタ所ノ農業倉庫業法中改正法律案ニ付キマシテ、委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、委員長ニ於キマシテハ、既ニ農村振興ニ關スル建議案ニ付キマシテ修正ガ出來マシタカラシテ、之ヲ議場ニ報告シ併セテ總テノ問題ニ付テ御報告ヲ致ス積リデアリマシクガ、此本案ハ法律案デアリマスカラシテ、極メテ急速ニ決議ヲシテ貴族院ニ送ルノ必要ヲ認メラレタモノト見エマシテ、之ダケヲ引抜イテ今日議事日程ノ二番目ニ掲ゲラレタノデアリマスカラ、詳シイ御報告ハ何レ明日農村振興ニ關スル建議案ガ議題トナツタ場合ニ申上ゲル積リデアリマスカラ、簡單ニ本案ニ付テハ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ沖繩縣ニ於キマシテハ主産物ハ砂糖デアリマシテ、外ノ土地ノヤウニ米デハナイノデアリマス、繭デモナイノデアリマス、然ルニ倉庫業法中ニハ等シク其恩惠ニ浴スル所ノ規定ガアリ

第二章 議事

第四節 議案

第二款

議案ノ討議

第四項

法律案

マセヌカラシテ、ドウゾ砂糖ヲ主産物トスル所ノ地方ニ於キマシテハ、他ノ米穀又ハ繭ノ如ク恩惠ヲ受ケタイ、左様ニ法律ヲ改正シタイト云フ簡單ナル意味ノ改正案デアリマス、委員會ニ於キマシテハ審議致シマシタガ、寔ニ尤モナル改正案デアリマス、併ナガラ此改正案ガ文字ノ上ニ於キマシテ妥當ヲ得ナイ所ガアルト認メマシタカラシテ、御手許ニ廻シテアル等デアリマスガ、修正案ノヤウニ修正ヲ致シマシテ、而モ全委員會一致ヲ以テ可決致シタノデアリマス、願ハクハ直ニ委員會ノ修正案ヲ可決下サイマシテ、直ニ貴族院ニ送リマシテ、恐ラクハ貴族院ニ於キマシテモ本案ノ必要且ツ簡單ナルコトヲ認メラレテ、會期切迫デアリマスルケレドモ上程サレルコトデアラウト思ヒマス、宜シクドウゾ

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通修正議決ヲ爲シ即日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ニ於テ議決ヲ經ルニ至ラサリキ

四一 煙草專賣法中改正法律案

煙草專賣法中左ノ通改正ス

第二十條ノ三中「水害」ノ下ニ「、病害、旱害霜害」ヲ加フ

右ハ十二年二月二十二日高田耘平君之ヲ提出ス三月五日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本改正案ハ私ガ第四十三議會以來年々主張シテ居ル問題デアリマス、即チ煙草專賣法第二十條ノ中ニ病害、旱害、霜害ヲ加ヘテ、而シテ罹災補償ノ意味ヲ完ウセントスルノデアリマス、此事

柄ハ極テ簡單ナルモノデアリマスルケレドモ、併ナガラ此罹災補償ノ法ヲ制定シタル趣意ニ甚ダ悖ッテ居ルト思フノデアリマス、煙草專賣法第二十條ヲ改正シテ風害、雹害等ニ補償金ヲ拂フト云フ制度ハ大正十年ヨリ實行サレタモノデアリマスルガ、此實績ノ迹ヲ見マスルト、其支拂ッテ補償ノ額ハ極テ僅カニシテ、全國ヲ通ジテ一萬四千圓許リト思ヒマス、ソレハ其筈デアアルモノガアルノデゴザイマシテ、水害或ハ雹害等ハ極テ僅カデアアル、而シテ此煙草ニ關スル災害ノ中デ、最モ其被害ノ甚大ナルモノハ病害デアアルノデアリマス、是ハ政府當局ノ言フ所ニ依レバ天災デハナイ、耕作ガ進歩スルコトニ依ッテ此病害ハ除キ去ルト言ッテ居ルノデゴザイマスガ、遠キ將來ハ兎モ角モ、到底現在ノ耕作ノ方法ヲ以テシテ、此病害ヲ除去スルト云フコトニハ出來ナイノデアリマス、更ニ政治的ニ申シマシテ、一方風害ニ對シテハ僅カノ災害デモ之ニ補償ヲシ、病害ハ殆ド其病毒ニ罹ッテ一區域ガ全滅スル如キ場合ガアツテモ、少シモ損害ヲ補償シタイト云フコトハ甚シキ不公平ナル取扱ト相成ルノデアリマス、然ラバ此補償法ヲ改正シテ、本改正案ノ通り致セバドウデアアルカト云ヘバ、細カイ數字ハ分リマセヌガ、僅カ一箇年ノ專賣局ノ特別會計ヨリ三四十萬圓ノ金ヲ支出スレバ、此目的ヲ達シ得ルト思フノデゴザイマス、所ガ政府ハ此病害ハ他ノ災害等ト混同シ易ク、之ヲ見別スルコトガ手續上甚ダ困難ノ次第モアルト云フコトデアリマス、是ハ私共全然ナイトハ申サヌ、サリナガラ兎ニ角モ一箇年三四十萬カ四十萬ノ僅カノ金ヲ出シテ、而シテ耕作業者ノ安定ヲ圖リ、此不公平ナル罹災救助法ノ現狀ヲ打破スルコトガ出來マシタナラバ、私共今日ニ於テ之ヲ改正スルコトガ相當デアラウト思フノデアリマス、實ハ第十四議會、四十五議會ニモ本會ニ於テ私ハ此意味ヲ述ベマシテ、委員會ニ移サレマシタガ、何故カ年々委員會ガ開カレマセヌノデス、先ヅ申ストドウ云フモノカ生殺シニ毎年々々遭フ、私ハ生殺シデナクシテ戴キタイト思フ、而シテ又政友會諸君ガ同意スレバ、必ズ實行ガ出來ル問題デア

ニセズシテ委員會ヲ早速開イテ、政友會ノ諸君ガ非ナラバ非デソレデ宜シイ、生殺シニ年々スルト云フコトハ餘リニ此問題ニ付テ多數黨諸君ハ冷酷デアラウト思フノデアリマス、或ハ政府與黨ノ立場トシテ、政府ガ反對スルモノヲ無理ニヤルコトハ御厭ナノカモ知レマセヌガ、コンナ小サイ問題ハ政府ノ言フコトヲ肯カヌデモ多數黨ハ差支ナイデゴザイマセウ、故ニ私ハ本年ハ是非委員會ニ……此法律ヲドウデモ勝手ニシ給ヘ、是ヨリ言フコトハナイ

四二 司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル法律案

明治二十六年司法省令第九號辯護士試驗規則ニ依ル試驗ノ受験ヲ出願シタル者ニシテ本法施行後五年内ニ勅令ヲ以テ定ムル試驗ニ合格シタル者ハ辯護士法第二條第二號ノ規定ニ拘ラス辯護士タルコトヲ得

附則

本法ハ大正十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十二年二月二十三日熊谷直太君外四名之ヲ提出ス三月五日本案ノ第一讀會ヲ開キ賛成者(永屋茂君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ極テ簡單ニ本法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス、諸君ノ御承知ノ如ク高等試驗令ガ本年ノ三月一日カラ實施セラレタノデアリマシテ、是ガ爲ニ辯護士、判事、又ハ檢事トナルベキ資格試驗ヲ受ケヤウトスル者ノ爲ニ、非常ナ變革ヲ起シタノデアリマス、所ガ此變革以前ニ於テ、多年是等ノ志望ヲ以テ國家社會ノ爲ニ奉仕セントシテ、苦學研鑽ヲ嘗メ來ッテ居ル所ノ多數ノ受験者、並ニ此今提案シテ居ル所ノ法令ノ施行前ニ、帝國大學ノ法律科ヲ卒業シタル者ノ爲ニ、此新ニ布カレタル所ノ高等試驗令ヲ一律ニ之ニ據ラシムルト云フコトハ、事ノ宜シキヲ得タモノデハナイノデアリマシテ、從前ノ規則ニ依リマシテ辯護士試驗ヲ出願シタル者ニ對シマシテハ、イマ五箇年ノ間其試驗資格ヲ保留シテヤルコトノ必要ガアルノデアリマス、又本年度ニ於テ帝國大學ノ法律科ヲ卒業シマシタル者ニ對シマシテハ、矢張同様ノ趣旨ニ於キマシテ司法官試補トナリ、又ハ辯護士トナリ得ルコトノ資格ヲ與ヘテヤル必要ガアルノデアリマス、是ガ即チ本案ヲ提出シマシタル理由デアリマス、願クハ慎重審議ノ上本案ヲ可決セラレンコトヲ望ミマス

次テ本案ハ廣岡宇一郎君提出辯護士法中改正法律案(三一)外二件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(議事ノ經過及結果ハ本項(三五)參看)

四三 家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案

第一條 明治三年九月十日藩制施行以後家祿賞典祿ヲ有シタル者及其ノ家名承繼人ニシテ明治

九年第百八號布告及同年第百五十二號布告ニ依リ公債證書ヲ給與スル迄ノ間ニ於テ其ノ祿高ニ對スル全部ノ給與ヲ受ケサル者若ハ相當額ノ給與ニ不足アル者ハ明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法及明治三十二年法律第八十四號家祿賞典祿處分法施行法ヲ準用シ祿高整理ノ爲發行スル公債證書ヲ以テ之ヲ給與ス但シ國事ニ關スル犯罪ノ爲家祿賞典祿ヲ沒收セラレタル者モ亦同シ

第二條 前條ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ

第三條 前條ノ願出ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ指令ヲ受取リタル日ヨリ六箇月以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四條 本法施行以前ニ於テ出願又ハ出訴シタル者ハ本法ニ依ル出願又ハ出訴ト看做ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十二年二月二十六日萩亮君外七名之ヲ提出ス三月五日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(岩切重雄君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今議題トナリマシタ家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案ノ提案ノ理由ニ付キマシテ、簡單ニ

説明ヲ申シタイト考ヘルノデアリマス、本案ハ内容ニ於テ可ナリ複雑ナル問題デアルト考ヘマス、本案ハ提出者ニ於キマシテハ、委員會ニ於テ詳細ナル説明ヲ致シタイト考ヘマス、此所ニ於キマシテハ唯簡單ナル理由ノ説明ニ止メタイト考ヘマス、本案ハ四十五議會ニ於キマシテ一度建議案トシテ現レタ案デアアルノデアリマス、其後政府ニ於キマシテ、何等本案ニ付キマシテ實行ノ事ガナカッタノデアリマス、故ニ此度ハ法律案トシテ是非共本案ガ兩院ヲ通過シテ、政府ニ於キマシテモ相當ナ手續ヲ執ラレンコトヲ吾々ハ希望致シテ居ルノデアリマス、此案ハ家祿賞典ヲ所有致シマシタル者ニアリマシテ、明治三十年ノ法律ニ依ッテ貫ヒマシタ者ガ、尙ホ其中ニ於テ殘ッテ居ル者ガアルノデアリマス、即チ未整理ニ屬シテ居ルモノガアル、ソレハ明治三年ノ藩政施行以後ニ於テ、家祿賞典祿ヲ持ッテ居ッタ者ニ對シテ明治九年マデノ間ノ分ガ漏レテ居ルノデアリマス、此漏レマシタル分ニ對シマシテ、政府ガ相當ナルコトヲシテ戴キタイ、斯ウ云フノガ吾々ノ本案ノ提出ノ理由デアリマス、是ハ吾々ノ考ヘマス所ニ依ッテモ、新シキ日本ヲ建設スル時代ニ於テ、國民ノ犧牲的精神ニ依ッテ此日本ガ洵ニ容易ニ出來上ッタノデアリマス、其心持ニ對シテモ政府ハ相當ナル考慮ヲ拂ッテ戴クコトハ、私共ハ當然デアルト考ヘマス、況ヤ其中ノ一部分ハ既ニ給與サレテ居ルノデアリマス、尙ホ殘サレタル人々ニ對シテモ、同等ナ御取扱ヲ政府ガシテ戴クコトモ、是ハ當然ナ事デアルト私共考ヘルノデアリマス、故ニ此案ヲ本院ニ於テハ勿論デアリマスルガ、兩院ヲ通過致シマシテ、速ニ給與サル、時代ノ來ルコトハ維新當時ニ於ケル人達ニ對シテモ、吾々ハ是非望マシキ事デアルト考ヘルノデアリマス、何卒御協賛サランコトヲ望ミマス

次テ本案ハ高木正年君外二名提出恩給法改正ニ關スル建議案(八)外七件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月十三日本案及(五五)案ノ二案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長高橋光威君ハ委員會ノ

經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案即チ家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案、萩亮君外七名提出ノ議案デアリマス、委員會ハ審議慎重ヲ極メマシテ、十分ニ研究ヲ致シマシタルノデゴザイマス、是ハ明治九年金祿公債引換前、年々渡スベキ家祿賞典祿ノ中、例ヘバ十石渡スベキモノヲ八石シカ渡サヌト云フヤウナ類デアリマシテ、此未濟ノ分ニ對シテ之ヲ給與ラヌルト云フ法律案デアリマス、是ハ政府ニ於キマシテハ大要今日之ヲ調ベマスルニ、全國ニ互リマシテ約四百七十萬圓バカリヲ要スルニ、到底同意シ難イト云フ意見デアアル、併シ理由ハ十分ニアリマスルノデアリマスカラ、委員會ニ於テハ滿場一致ヲ以テ之ヲ可決致シタルノデアリマス、ソレカラ又次ノ久下豊忠君外九名提出ノ家祿引直處分法案、是ハ和歌山縣ニ於キマシテ、明治初年ニ他藩ニ卒先シテ祿ヲ引下ゲテ、サウシテ國家ノ爲ニ犧牲ニナッテ之ヲ致シタルト云フノデアリマシテ、其情實大ニ稱揚スベキト同時ニ、之ヲ引直シテ救済スルト云フコトガ必要デアルト云フ法案デアリマス、是モ政府ハ同意ハ致シマセヌケレドモ、相當理由アルモノト致シマシテ、委員會デハ滿場一致ヲ以テ決定致シタル次第デアリマス、以上御報告申シマス

院議異議ナク二案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通過可決確定シ即日二案全部ヲ貴族院ニ送付シタルモ孰レモ同院ニ於テ議決ヲ經ルニ至ラザリキ

四四 小作保險法案

小作保險法

第一章 總則

第一條 小作保險ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 小作保險ニ於テハ被保險者カ故意又ハ過失ニ因ラスシテ收穫ノ減少ヲ來シタル場合ニ保險給付ヲ爲シ其ノ對價タル保險料ハ國、地主及被保險者ニ於テ分擔ス

第三條 小作保險ノ保險給付及保險料ハ被保險者ノ平年收得量ニ基キ之ヲ量定ス
平年收得量トハ平年收穫量ヨリ小作料ヲ減シタルモノヲ謂フ

第四條 平年收穫量ハ政府之ヲ決定ス

第五條 保險給付及保險料ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ被保險者ノ負擔スヘキ保險料ハ平年收得量ノ百分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 小作保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第七條 小作保險事務ニ關スル郵便物ハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第二章 保險ノ範圍
第八條 耕作ヲ目的トスル永小作權者及土地ノ賃借人ハ本法ニ依リ被保險者トス
耕作ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 耕作ヲ目的トスル永小作權者及土地ノ賃借人カ地主ノ承諾ヲ得テ其ノ權利ヲ他人ニ讓渡若ハ轉貸シタル場合ニ於テハ其ノ讓受人及轉借人ハ被保險者タリシ前者ノ權利義務ヲ承繼

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

第十條 被保險者ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ資格ヲ失フ

一 被保險者耕作ヲ目的トスル永小作權者及土地ノ賃借人タル資格ヲ失ヒタルトキ

二 被保險者カ引續キ二年間小作料ヲ滞納シ又ハ其ノ滞納額カ一年分ノ小作料ニ達シタルトキ

三 被保險者カ小作地ヲ著シク荒廢セシメ又ハ其ノ小作地ニ永久ノ損害ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲シタルトキ

四 被保險者カ其ノ小作地ヲ耕作以外ノ目的ニ使用シタルトキ

第十一條 小作保險ニ關スル必要ナル事項ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地主ヨリ保險官署ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第三章 保險給付

第十二條 被保險者ノ故意又ハ過失ニ因ラスシテ其ノ小作地ノ收穫量カ平年收穫量ニ達セサル場合ハ被保險者ハ平年收穫量ヲ限度トシ其ノ不足額ニ相當スル金額ヲ保險給付トシテ受ク

第十三條 保險給付ヲ受クヘキ者二年間其ノ請求ヲ爲ササルトキハ其ノ請求權ハ時効ニ因リ消滅ス

第十四條 保險給付ノ請求權ハ讓渡又ハ差押ノ目的タルコトヲ得ス

第十五條 保險給付及一時拂戻トシテ支給スル金額ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

第十六條 保險給付ノ支給期日ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 保險料及拂戻

第十七條 保險料ハ國、地主及被保險者各其ノ三分ノ一ヲ負擔ス

第十八條 地主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ自己ノ負擔スヘキ保險料ト共ニ被保險者ノ負擔スヘキ保險料ノ立替拂ヲ爲スコトヲ得

第十九條 地主及被保險者カ保險料ヲ滞納シタルトキハ市町村ヲシテ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ徵收セシムルコトヲ得但シ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スルコトヲ要ス

第二十條 前條ノ徵收金ハ市町村ノ徵收金ニ次キ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時効ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第二十一條 被保險者カ五年以上繼續シテ保險料ノ拂込ヲ爲シ其ノ間保險給付ヲ受ケタルコトナカリシトキハ被保險者ハ掛金ニ相當スル金額ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得

第二十二條 被保險者カ其ノ小作地ヲ購入シ新ニ自作農トナリ其ノ間ノ保險給付ヲ受ケタルコト

トナカリシトキハ掛金ニ相當スル金額ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得

第五章 機關

第二十四條 平年收穫量及保險給付ノ決定其ノ他重要ナル事項ヲ審議セシムル爲小作保險委員會ヲ置ク

第二十五條 小作保險委員會ノ決定ニ不服アルトキハ小作保險審査會ニ審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 小作保險委員會小作保險審査會及小作保險官署ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 小作保險審査會ノ決定ニ不服アルトキハ平年收穫量ニ關シテハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴シ保險給付ニ關シテハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十八條 前條ノ訴願及訴訟ハ小作保險審査會ノ決定ヲ受ケタル後一箇月ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第六章 附則

第二十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

四五 小作保險特別會計法案

小作保險特別會計法

第一條 小作保險ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ地主及被保險者ノ保險料、毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ繰入ルル國庫ノ負擔タルヘキ保險料、積立金ヨリ生スル收入及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ保險給付トシテ支給セラルル一定金額、掛金ニ相當スル割戻金並事業取扱費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條 本會計ニ於ケル歲入總額ニ超過スル金額ハ之ヲ積立ツヘシ
本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金又ハ一般會計ヨリ之ヲ補足スヘシ

第四條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第五條 本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
右兩案ハ孰レモ十二年二月二十六日齋藤宇一郎君外四名之ヲ提出ス三月五日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者(齋藤宇一郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今上程致シマシタ小作保險法案ハ地主對小作關係ノ緩和ノ一ツノ方法トシテ必要デアルト私
 ハ考ヘマシタ爲ニ提案ヲ致シタノデアリマス、御承知ノ通り目下農村問題ト云フヨリモ寧ロ社
 會ト重大問題、國家ノ重大問題トシテ官民共ニ心配ヲ致シテ居リマス小作爭議ノ如キ、是ハ申ス
 迄モナク諸君モ色々御心配ニナツテ御研究ニナツテ居ルコトデアリマスガ、此爭議ノ原因タルヤ
 色々ノ事情モアリマセウケレドモ、第一農業ノ收益ノ分配、又小作料ノ安定ヲ缺イテ居ルト云フ
 コトノ如キ、其主ナル事デアラウト思フノデアリマス、是等ノ問題ヲ解決センガ爲ニ、或ハ近ク
 小作法ト云フモノ、制定ヲ見ルコトニナルダラウト思ヒマスケレドモ、小作法ハ何時ハ出來
 マスカ、又出來テ見マシタ所デ、是ハ地主ト小作人ノ權利義務ノ事ヲ主トシテ規定スルモノデア
 ラウト想像スルノデアリマス、然ルニ第一ニ小作爭議ノ原因ニナツテ居リマス所ノ收益ノ安定ト
 云フコトニ付キマシテハ、此小作法ニ依ッテ必シモ解決スベキ問題デハナイノデアリマス、由來
 農業ハ非常ニ利益ガ少ナイ、又非常ニムツカシイ困難ナ仕事デアルト云フコトハ、敢テ多クノ辯
 明ヲ要シナイノデアリマスガ、其收益ノ少イノミナラズ、此收益ガ頗ル不安定ナノデアリマシ
 テ、是ガ又農業經濟ノ最モ苦痛トスル所デアリマス、私ハ此收益ガ少クテ、而シテ不安定デア
 ト云フ農業ニ於ケル一大脅威ヲ除ク上ニ於テ此小作保險法ト云フモノガ頗ル必要デアルト感
 マシテ、此法案ノ成立ヲ望ムノデアリマス、所ガ此農業ニ關スル保險ト云フモノハ、是マデ必シ
 モ或ル部面ニ於テ考ヘテ居ラレナカッタ譯デハナイノデアリマスケレドモ、由來農業ト云フモノ
 ハ非常ニ危險歩合ノ餘計ナモノデアツテ、中ニ保險計算ノ立チ惡イモノデアルト云フコトデ、今
 日マデ何等ノ形式ヲ以テモ現レテ來ナカッタデアリマス、併シナガラ段々調ベテ見マスト云フ
 ト、昔ヨリハ今日ハ技術ノ進歩其他ノ關係カラシテ、危險歩合ガ非常ニ少クナツテ參リマシテ、殊
 ニ統計表ガ段々確實ニナルニ從ッテ其數字モ洵ニ確實ニナツテ居リマス、故ニ吾々ノ見ル所
 デハソソクニ危險ナ計算ノ仕惡イモノデモナイト考ヘルノデアリマス、私ノ概算ニ依リマスレ
 バ、最近二十年間ニ於キマシテ、四回平年作ヨリ落チタ減收ノ年ガアルノデアリマス、果シテ然
 リトスレバ是ハ五年ニ一回平年作ヨリ落チタル減收ガアルト云フコトニナルノデアリマシテ、而

シテ此年數モ昔ヨリ段々ト延ビテ參ルノデアリマス、昔ハ三年ニ一遍ナリトスレバ只今ハ五年
 ニ一遍、斯ウ云フコトニナリマスノデ、是ハ要スルニ技術ノ進歩デ、多クノ障礙ニ勝テ得ル譯デ
 アラウト思ヒマス、將來ハ或ハ六年ニ一遍、七年ニ一遍ト云フコトニナルダラウト思ヒマスガ
 フ、此計算ハ段々ト保險計算ノ上ニ於テ安定ヲシテ行クモノト考ヘマスノデ、必シモ從來考ヘテ
 居ッタヤウナ危險ニシテ且ツ不定デアツテ、サウシテ計算ノ立チ惡イモノデアルト考ヘマセヌ、細
 カイ計算ハ委員曾ノ説明ニ讓リマスガ、此保險ヲヤル上ニ於テ、一年ノ減收高ハドウナルカト云
 フコトヲ計算シテ見マスノニ、一箇年ニ於テ七十三萬石位シカナイノデアリマシテ、之ヲ小作地
 ノ面積ニ對シテ割當テ、見マスト云フト、一反歩ニ付テ僅ニ二升四合ニシカ當ツテ居ナイノデア
 リマス、此二升四合ヅ、三年ニ積立テ置キマスレバ、此凶作ヲ保障シテ小作者ノ收得分量ヲ
 安定ニ致シマシテ、隨テ地主ノ收得モ安定スル譯デアリマシテ、コ、ニ農業ノ或ル程度ノ利益ヲ
 保障スルコトニナルノデアリマス、若シ斯ウ云フコトヲ致サンケレバ、前ニ申シマシタ通り、利
 益ガ少クテ而シテ其收入ガ不安定ト云フコトニナリマスノミナラズ、前ニ米穀法ノ改正案ノ場
 合ニ申シマシタ通りニ、主要ナル食糧ナルガ爲ニ、米ノ値段ノ如キハ始終壓迫ヲ受ケテ居ルノデ
 アリマス、若シ普通ノ自然ノ經濟狀態ニ放任シテ居レバ、收穫ガ減ジタ場合ニ於テハ、値段ガ高
 クナリマスカラ、是デ「バランス」ガ取レル譯デアリマス、ケレドモ米ノ値段ガ上ル場合ニ於テ
 ハ之ヲ調節ノ爲ニ叩カレルト云フコトニナリ、收穫ガ減ジテ居ルト云フコトニナリマスレバ、農
 業ノ經濟ハ兩方面カラ壓迫サレルノデアツテ、到底成立タナイ、此缺陷ヲ補ツテヤラナケレバ、國
 民ノ多數ヲ占メテ居ル所ノ農業ハ漸次衰退撲滅スルコトニナリマス、隨テ我國ノ食糧政策ガ立
 タナイト云フコトニナリマスカラ、國家ガ相當ノ負擔ヲ致シテモ、是ハドウシテモ救済シナケレ
 バナラナイ、殊ニ昨今ハ社會政策ガ漸次實現シナケレバナラナイ時代ニナツテ居ルノデアツテ、段
 段ト議會ノ協賛ヲ經テ、其施設ガ實現スルコトハ頗ル喜ブベキ事デアリマス、然ルニ昨年制定サ
 レタ健康保險トカ、或ハ近ク制定セラレルカ知レマセヌガ、此失業保險ト云フガ如キモノモ、是
 ハ工業労働者ニ關スル保障デアリマシテ、小作者ニハ其恩典ガ均霑シナイノデアリマス、洵ニ是

ハ不公平ナ事デアリマシテ、ドウシテモ此方面ニモ社會政策的ニ、此農業經濟上大切ナル小作者ノ安定スベキ施設ヲシナケレバナラヌデアリマス、故ニ私ハ是非此場合ニ速ニ小作者ノ收益ヲ保障スベキ保險法ヲ制定致シマシテ、此缺陷ヲ補ヒタイ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、ソコデ只今述ベマシタ七十三萬何千石ト云フ、此平均減收量ヲ一反歩ニ割當テマスレバ、一年ニ二升四五合ヅ、ニナリマスノデ、之ヲ地主ト小作人ト政府ト、各三者デ負擔スルト云フコトニシテ、此保險ノ貯蓄ヲ圖リ、而シテ凶作ノ場合ニ於テ、小作者ノ收益ノ減ツタ場合ニ於テ之ヲ保險給付トシテ保障シテヤル、斯様ニシタナラバ是ニ於テ地主ト小作人ノ親和結合モ出來マセウシ、政府ガ之ヲ助成致シマシテ社會政策ノ一ツノ事業ガ茲ニ實現スルト云フコトニナリマスレバ、蓋シ他ノ勞働者ト共ニ社會政策ノ恩典ニ浴シテ、隨テ小作爭議ノ大部分ト云フモノハ、將來ニ起ラナクナルデアラウ、斯様ニ私ハ信ズルデアリマス、若シ斯ウ云フモノガ出來テ、サウシテ或ル場合ニ於テ、收益ノ分配上地主ト小作ト折衝ヲシテ、其折衝ノ付カザル爲ニ漸次色ミナ困難ナル問題ニ至ルコトヲ防ガナケレバ、假令小作法ヲ制定致シマシテモ、到底今日ノ爭議ヲ無クシテシマフ、無イヤウニスルト云フコトハムヅカシイ事ト思フデアリマス、政府ノ負擔ハドノ位ニナルダラウカト申シマスレバ、私ハ只今ノ減收額ヲ一石三十五圓ニ積ツテ計算致シテ見マシテモ、政府ノ負擔ト云フモノハ僅ニ四百四十萬圓位ニシカナラヌデアリマス、四百四十萬圓ガ此問題ノ解決ノ一ツニナルトスレバ、洵ニ輕イ國家ノ負擔デアルト私ハ信ジマス、現ニ健康保險法ヲ制定サレタ爲ニ、十二年度ニハ四百萬圓ノ經費ヲ計上シテ居ルデアリマス、而シテ之ニ依ツテ救濟スル所ノ勞働者ノ數ハ二百萬人デアツテ、一人ニ付テ一圓ヅ、ノ助成金ニナツテ居ルト云フコトデアリマス、若シ農業ノ方面ニ對シマシテモ、農業ニ從事スル者一人ニ付テ一圓ヅ、加成金ヲ與ヘルトスレバ、約概算ニ於テ農業從業者ハ少クトモ千二百萬人位ハ居ルダラウト思フデアリマスカラシテ、二千四百萬圓出シテモ宜イ譯ニナリマス、一人ニ付テト言ハズシテ小作農家一戸ニ對シテ二圓ヅ、ヤルト致シマシテモ、七百何十萬圓ト云フモノニナルデアリマス、此只今述ベマシタ私ノ計算ニ依ツテ四百四十萬圓出シテ、サウシテ此保險法ガ成立致シマストスレバ、

洵ニ輕クシテ此救濟ノ一事業ガ起ルコトニナルト思フデアリマス、デ私ハ斯ウ云フ概念カラシテ、此法律案ヲ編ンダデアリマシテ、此法案ノ說明ハ委員會ニ讓リマスガ、此法案ノ組立ハ第一條ニ書イテ居リマシタ通りニ、政府ガ干涉スルコトニナツテ、而シテ全部ニ向ツテノ強制加入ニナルデアリマス、此積立金ノ中ニ於テ、小作者ニ對シテハ或ル一定年間掛金ヲ掛ケレバ、其間ニ凶作ガ來ツテ保險給付ヲ受ケナカッタ場合ニ於テハ、其掛金ヲ割戻スコトニ致シテ居リマス、而シテ其割戻金ハ成ベク此積立金ノ貸付ト共ニデス、自作農創設ノ資金ニ使フヤウニ致シタナラバ、今日國トシテ自作農創設ヲ獎勵シテ居リマス場合ニ於テ、結局是ハ金ガ無イカラシテ實現シナイト云フ今日ノ實狀ニナツテ居リマスカラ、ソレ等ノ資金ノ一助トモ致シタイト斯様ニ考ヘテ、サウ云フ箇條モ入レテアリマス、ドウカ委員會ニ於キマシテ十分御審議ヲ願ヒタイト思ヒマス、委員會ニ於キマシテ、私ノ今日迄研究致シマシタ事及計算致シマシタ事ハ詳シク御說明ヲ申上ゲタイト思ヒマス尙ホ之ニ附隨致シマシタ小作保險ノ特別會計法案ノコトヲ一言申上ゲマシガ、是ハ一般ノ特別會計法ノ例ヲ取リマシテ茲ニ掲ゲマシタノデアリマスカラ、敢テ説明ヲ加ヘマス程ノコトデナイデアリマスガ、唯一言申シタイトハ此第五條ノ「本會計ノ收入支出及積立金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト斯ウ書イテアリマシタ、此勅令ニ規定致シマス事項ノ事ハ、主トシテ此運用上ノ事ハ、只今申シマシタ積立金ヲ成ベク自作農創設ノ方ニ使フ、極ク低利若クハ無利子デ貸ス位ノ考ヲ以テ之ヲ運用シテ、自作農創設ト云フ此重大問題ノ實現ノ一助ニ致シタイト、斯様ニ考ヘテ其細カイ規定ハ勅令ニ讓ツテ、然ルベク規定ヲスルヤウニト云フコトニナツテ居ルデアリマス、是ダケノコトヲ申上ゲマシテ説明ヲ終リマスガ、ドウカ御贊成ノ上ニ成立スルコトノ出來マスルヤウニ御願ヒ致シマス

次テ本案ハ安達謙藏君外四名提出農村振興ニ關スル建議案(四七)外六件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ニ著手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

四六 帝都制案(鳩山一郎君外九名提出)

帝都制

第一章 總則

第一款 帝都及其ノ區域

第一條 東京府ノ中東京市及荏原郡、豐多摩郡、北豐島郡、南足立郡並南葛飾郡ニ屬スル町村ノ全部ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ東京都ヲ置ク

第二條 都ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ東京府、東京市及本法ニ依リ都ノ區域ニ編入セラレタル町村ニ屬シタル事務及將來法律勅令ニ依リ都ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 都ノ境界變更ヲ爲サムトスルトキハ關係アル縣參事會、都會、市會及町村會ノ意見ヲ徵シ内務大臣之ヲ定ム所屬未定地ヲ都ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ

第四條 都ノ境界ニ關スル爭論ハ内務大臣之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル縣、都、市及町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

スヘシ

第五條 都ハ處務便宜ノ爲區ニ劃ス

區ノ區域ハ第八章ノ區ノ區域ニ依ル

第二款 都住民及其ノ權利義務

第六條 都内ニ住所ヲ有スル者ハ都住民トス

都住民ハ本法ニ從ヒ都ノ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ都ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第七條 都住民ニシテ左ノ要件ヲ具備スル者ハ都公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者、禁治產者、準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以上ノ者

二 獨立ノ生計ヲ營ム者

三 二年以來都住民タル者

四 二年以來直接都稅ヲ納ムル者

都ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 法律案

千六百二十三

ノ者ノ納税ト看做ス

都ノ境界變更アリタル場合ハ其ノ境界變更ノ際從前ノ市町村ニ於テ住所ヲ有シ直接市町村税ヲ納メタル者ニ付テハ都ニ於テ住所ヲ有シ直接都税ヲ納メタル者ト看做ス

第八條 都公民ハ都ノ選舉ニ參與シ都ノ名譽職ニ選舉セラル、選利ヲ有シ都ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ若ハ其ノ職ヲ辭シタルトキ又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ都ハ一年以上四年以下都公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以內其ノ者ノ負擔スヘキ都税ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

- 一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
- 二 業務ノ爲常ニ都内ニ居ルコトヲ得サル者
- 三 年齢六十年以上ノ者
- 四 官公職ノ爲都ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
- 五 四年以上名譽職都吏員名譽職審議會員又ハ都會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者
- 六 其ノ他都會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ規定ニ依ル處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ規定ニ依ル處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第九條 都公民第七條第一項ニ掲ケタル要件ノ一ヲ闕キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ其ノ公民權ヲ失フ

都公民租税滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止シ家資分散若ハ破産宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スル迄又ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ都ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第三款 都條例及都規則

第十條 都ハ都住民ノ權利義務又ハ都ノ事務ニ關シ都條例ヲ設クルコトヲ得

都ハ都ノ營造物ニ關シ都條例ヲ以テ規定スルモノヲ除クノ外都規則ヲ設クルコトヲ得
都條例及都規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ公告スヘシ公告式ハ都條例ノ定ムル所ニ依ル

第二章 都會

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

第一款 組織及選舉

第十一條 都會議員ノ定數ハ百五十人トス

都ノ人口三百五十萬ヲ超ユルトキハ人口十萬ヲ加フル毎ニ議員一人ヲ増加ス

議員ノ定數ハ都條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口ノ増減アリタル場合

ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 都公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第九條第三項ノ場合ニ當ル者

ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 都會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス選舉區ハ都ノ區ノ區域ニ依ル

各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ別ニ之ヲ定ム

選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム第七十二條第二項ノ規定ニ依リ都公民タル者ニシテ

都内ニ住所ヲ有セサル者ニ付テハ都長本人ノ申出ニ依リ其ノ申出ナキトキハ職權ニ依リ其ノ

選舉區ヲ定ムヘシ

第十四條 特別ノ事情アルトキハ都ハ區劃ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得

第十五條 選舉權ヲ有スル都公民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者亦同シ

一 都ノ有給吏員

二 檢事、警察官吏及收稅官吏

三 神官、神職、其ノ他諸宗教師

四 小學校教員

都ニ對シ請負ヲ爲シ若ハ都ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ノ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員及支配人ハ被選舉權ヲ有セス

前項ノ役員トハ取締役、監查役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ都會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタル

トキハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ選舉區ヲ異ニシテ選舉

セラレタルトキハ年長者ヲ當選者トシテ年齡同シキトキハ都長抽籤シテ當選者ヲ定ム其ノ時

ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ年齡同シキトキハ

都長抽籤シテ失職者ヲ定ム

都長、副都長又ハ都參事ト父子兄弟タル緣故アル者ハ都會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第十六條 都會議員ハ名譽職トス
議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ都條例中ニ其ノ解任ヲ要スル者ノ選舉區ヲ規定シ都長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ但シ解任ヲ要スル選舉區ニ關員アルトキハ其ノ關員ヲ以テ之ニ充ツヘシ
議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス
選舉區又ハ其ノ選舉區ヨリ選出スル議員數ニ變更アリタル場合ニ於テ之ニ關シ必要ナル事項ハ都條例中之ヲ規定スヘシ

第十七條 都會議員中關員ヲ生シ其ノ關員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ内務大臣、都長若ハ都會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補闕選舉ヲ行フヘシ
議員關員ト爲リタルトキ其ノ議員カ第二十六條第二項ノ規定ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合又ハ本條本項若ハ第二十九條ノ規定ニ依ル第二十六條第二項ノ規定ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合ニ於テハ都長ハ直ニ第二十六條第二項ノ規定ノ適用又ハ準用ヲ受ケタル他ノ得票者ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十六條第二項ノ規定ヲ準用ス

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉區ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第十八條 區長ハ選舉期日前百日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ
選舉人名簿調製期ハ都長豫メ之ヲ告示スヘシ

區長ハ選舉期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄區役所又ハ告示シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間内ニ區長ヲ經テ之ヲ都長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ都長ハ縱覽期日滿了後三日以内ニ都審議會ノ決定ニ付スヘシ都審議會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ規定ニ依ル決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三項ノ規定ニ依ル決定ニ付テハ都長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ場合ニ於テ決定確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ其ノ確定期日前ニ區長之ヲ修正スヘシ
選舉人名簿ハ選舉期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ第三條ノ規定ニ依ル處分アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ指定スルモノヲ除クノ外各選舉區ニ涉リ同時ニ調製シタルモノハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之用キ一部ノ選舉區限リ調製シタルモノハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ該選舉區ニ於テノミ行フ選舉ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後決定確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日前四日迄ニ區長之ヲ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ區長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

選舉分會ヲ設クルトキハ區長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ

確定名簿ニ登録セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登録セラルヘキ確定決定書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

第三項乃至第五項ノ場合ニ於テ決定確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縦覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用キ縦覽、修正、確定及異

議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

第十九條 都長ハ選舉期日前少クトモ七日間各選舉區ニ於ケル選舉會場、投票ノ日時及選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉分會ヲ設クル場合ニ於テハ其ノ區劃ヲ告示スヘシ

各選舉區ノ選舉ハ同日時ニ之ヲ行ヒ選舉分會ノ選舉ハ本會ノ同日時ニ之ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ同日時ニ選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ都長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル選舉會又ハ選舉分會ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

第二十條 區長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

選舉分會ハ都長ノ指名シタル吏員選舉分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

區長ハ選舉人中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ設クヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス

第二十一條 選舉人ニ非サル者ハ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ選舉ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉長又ハ分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選

舉會場外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉長又ハ分會長會場ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認ムル場合ニ於テハ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第二十二條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經又ハ確定決定書若ハ判決書ヲ提示シテ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ經クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ都長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選舉人名簿ノ調製後選舉人ノ所屬ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選舉人ハ前所屬ノ選舉區ニ

於テ投票ヲ爲スヘシ

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ分會長少クトモ一人ノ選舉立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ本會

ニ送致スヘシ

第二十三條 第二十九條若ハ第三十三條第二項ノ選舉増員選舉又ハ補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合

ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十四條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ
- 二 現ニ都會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
- 五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 七 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

第二十五條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ分會長之ヲ決スヘシ

第二十六條 都會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トシ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第二十七條 選舉長又ハ分會長ハ選舉錄ヲ調製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ記載シ選舉又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二名以上ト共ニ之ニ署名スヘシ 其外又ハ選舉ノ職ヲ司ル選舉分會長ハ投票函ト同時ニ選舉錄ヲ本會ニ送致スヘシ 選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存 選舉錄投票選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第二十八條 當選者定マリタルトキハ區長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選舉錄ノ謄本ニ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ都長ニ報告スヘシ 當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ都長ニ申立ツヘシ 一人ニシテ數選舉區ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ

何レノ當選ニ應スヘキカラ都長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ都長抽籤シテ之ヲ定ム

官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス 前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應スヘキ旨ヲ都長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス 第三項ノ場合ニ於テ何レノ當選ニ應スヘキカラ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス

第二十九條 當選者當選ヲ辭シタルトキ、數選舉區ニ於テ當選シタル場合ニ於テ前條第三項ノ規定ニ依リ一ノ選舉區ノ當選ニ應シ若ハ抽籤ニ依リ一ノ選舉區ノ當選者ト定マリタル爲他ノ選舉區ニ於テ當選者タラサルニ至リタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効ト爲リタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ其ノ當選者第二十六條第二項ノ規定ノ適用又ハ準用ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合ニ於テハ第十七條第二項ノ例ニ依ル

當選者選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効ト爲リタルトキ其ノ前ニ其ノ者ニ關スル補闕選舉若ハ前項ノ選舉ノ告示ヲ爲シタル場合又ハ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第三十條 第二十八條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ、同條第三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ都長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告知スヘシ

第三十一條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

第三十二條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十條ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ都長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ都長ハ七日以内ニ都審議會ノ決定ニ付スヘシ都審議會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

都長選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第二十八條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ第三十條ノ告示ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ都審議會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及第二項ノ規定ニ依ル決定ニ付テハ都長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十七條、第二十九條又ハ第三十三條第三項ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關スル異

議申立期間、異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定セサル間又ハ訴訟ノ繫屬スル間之ヲ行フコトヲ得ス

都會議員選舉又ハ當選ニ關スル決定確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十三條 當選無効ト確定シタルトキハ區長ハ直ニ第二十六條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ

選舉無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選舉ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十六條第一項但書ノ規定ヲ適用セス

第三十四條 都會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無ハ都會議員カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサル場合ヲ除クノ外都會之ヲ決定ス

一 禁治產者又ハ準禁治產者ト爲リタルトキ

二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ宣告確定シタルトキ

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ

都長ハ都會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ都會ノ決定ニ付スヘシ

都會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ都長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十二條第六項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三十五條 第十八條又ハ第三十二條ノ規定ニ依リ都審議會ノ爲シタル決定ハ都長直ニ之ヲ告示スヘシ

第十八條又ハ第三十二條ノ規定ニ依リ爲シタル決定確定シ若ハ判決アリタルトキハ都長直ニ之ヲ區長ニ通知スヘシ

第三十六條 本法ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務權限

第三十七條 都會ハ都ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第三十八條 都會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 都條例及都規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

二 歲入出豫算ヲ定ムルコト

三 決算報告ヲ認定スルコト

四 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、加入金及都税ノ賦課徵收ニ關スルコト

五 不動産ノ處分ニ關スルコト

六 基本財産及積立金等ノ設置及處分ニ關スルコト

七 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲スコト

八 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムルコト但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 都會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ都審議會ニ委任スルコトヲ得

第四十條 都會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選舉ヲ行フヘシ

第四十一條 都會ハ都ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ都長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢查スルコトヲ得

都會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ都長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項ノ規定ニ依ル都會ノ權限ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十二條 都會ハ都ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ都長又ハ内務大臣ニ提出スルコトヲ得

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

千六百三十九

第四十三條 都會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ
都會ノ意見ヲ徴シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ都會成立セス、招集ニ應セス若ハ意見ヲ提出
セス又ハ都會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ
爲スコトヲ得

第四十四條 都會ハ議員中ヨリ議長及副議長一人ヲ選舉スヘシ議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任
期ニ依ル

第四十五條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代ハリ議長及副議長共ニ故障アルトキハ議員中ヨ
リ臨時ニ假議長ヲ選舉スヘシ
前項ノ假議長選舉ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ
定ム

前項ノ抽籤ハ都長之ヲ行フ

第四十六條 都長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得
但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシ
ムルコトヲ得ス

第四十七條 都會ハ通常會及臨時會トシ都長之ヲ招集ス通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ
三十日以内トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限り之ヲ開ク其ノ會期ハ七日以内ト
ス

會議ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ都長
ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
都會ハ都長之ヲ開閉ス

第四十八條 都會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第五十
條ノ除外ノ爲半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ
又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此
ノ限ニ在ラス

第四十九條 都會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テ
ハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ都會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコト
ヲ得

第五十一條 法律勅令ニ依リ都會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一人毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二人ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及第二十四條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ都會之ヲ決定ス

第一項ノ選舉ニ付テハ都會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル

前項ノ連名投票ノ法ヲ用キタル場合ニ於テ過半數ノ投票ヲ得タル者選舉スヘキ定數ヲ超エタルトキハ最多數ヲ得タル者ヨリ順次當選者ヲ定メ同數者アルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

第五十二條 都會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
一 都長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十三條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス議員定數ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ開カサルトキハ第四十五條ノ例ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ議員ノ請求ニ基キ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異議アルトキハ議長ハ會議ノ議決ニ依ルニ非サレハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス

第五十四條 議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス
議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十五條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得
第五十六條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコト

ヲ得

第五十七條 都會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ第八十一條ノ規定ニ依ル都吏員中ヨリ議長之ヲ命ス

第五十八條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議録ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ都會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ都長ニ報告スヘシ

第五十九條 都會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ都會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止

スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 都審議會

第一款 組織及選舉

第六十條 都ニ都審議會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 都長

二 副都長

三 都參與

四 名譽職審議員

名譽職審議員ノ定數ハ都會議員選舉區ノ數ト同數トス

都會ハ各選舉區ニ屬スル議員ヲシテ名譽職審議員及其ノ補充員一名宛ヲ互選セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條、第二十四條及第二十六條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ

異議アルトキハ都會之ヲ決定ス

名譽職審議員中闕員アルトキハ都長ハ補充員ヲ以テ之ヲ補闕ス補充員ナキトキハ臨時互選

セシムヘシ

第六十一條 名譽職審議員ノ任期ハ都會議員ノ任期ニ依ル但シ都會議員ノ任期滿了ノ場合ニ

於テハ後任名譽職審議員選舉ノ日迄存在ス

第六十二條 都審議會ハ都長ヲ以テ議長トス都長故障アルトキハ都長代理者議長ノ職務ヲ代理

第二款 職務權限

第六十三條 都審議會ノ職務權限左ノ如シ

一 都會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スルコト

二 都會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ都長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ム

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

二ルトキ都會ニ代テ之ヲ議決スルコト
 三 都長ヨリ都會ニ提出スル議案ニ付都長ニ對シ意見ヲ述フルコト
 四 都會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スルコト
 五 都費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スルコト但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在テス

六 都ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スルコト
 七 都吏員ノ身元保證及賠償ニ關スルコト

八 其ノ他法令ニ依リ都審議會ノ權限ニ屬スル事件
 第六十四條 都審議會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ都長ニ委任スルコトヲ得

第六十五條 都審議會ハ都長之ヲ招集スル名譽職審議會員定數ノ半數以上ノ請求アルトキハ都長ハ之ヲ招集スヘシ

都長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ都審議會ヲ招集スルコトヲ得
 都審議會ハ都長之ヲ開閉スル

第六十六條 都審議會ノ會議ハ傍聽ヲ許サズ
 第六十七條 都審議會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職審議會員數ノ半數以上出席スルニ非サレ

ハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第二項ノ除斥ノ爲名譽職審議會員其ノ半數ニ滿タサルトキ、同

一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍名譽職審議會員其ノ半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スル

モ出席名譽職審議會員定數ヲ關キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ

在ラス
 議長及審議會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其

ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ都審議會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコト

ヲ得
 前項ノ抽籤ハ都長之ヲ行フ
 第六十八條 第四十二條、第四十三條、第四十六條、第四十九條、第五十一條、第五十三條乃至第

五十五條、第五十七條並第五十八條第一項及第二項ノ規定ハ都審議會ニ之ヲ準用ス
 第四章 都吏員

第一款 組織選舉及任免
 第六十九條 都ニ都長及副都長各一人ヲ置ク

都長及副都長ハ有給吏員トス但シ都長ハ都條例ヲ以テ名譽職ト爲スコトヲ得

第七十條 内務大臣ハ都會ヲシテ都長候補者三人ヲ選舉推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘシ

副都長ハ都長ノ推薦ニ依リ都會之ヲ定メ都長職ニ在ラサルトキハ都會ニ於テ之ヲ選舉シ内務

大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七十一條 都ニ都參與ヲ置ク其ノ定數ハ名譽職審議會員ノ半數以內トシ都條例ヲ以テ之ヲ定

ムヘシ

都參與ハ有給吏員トス但シ都條例ヲ以テ其ノ一部ヲ名譽職ト爲スコトヲ得

都參與ハ學識經驗アル者ノ中ニ就キ都長ノ推薦ニ依リ之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七十二條 都長副都長及都參與ノ任期ハ四年トス内務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中

退職スルコトヲ得ス

都長副都長及都參與ハ第七條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間都公民トス

第七十三條 都長副都長及都參與ハ第十五條第二項ニ掲ケタル職ト兼ヌルコトヲ得ス

都長副都長及都參與ハ都ニ對シ請負ヲ爲シ若ハ都ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ノ請負ヲ爲シ及

同一ノ行爲ヲ爲ス者ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員タルコトヲ

得ス

都長ト父子兄弟タル緣故アル者ハ副都長又ハ都參與ノ職ニ在ルコトヲ得ス

副都長ト父子兄弟タル緣故アル者ハ都參與ノ職ニ在ルコトヲ得ス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ副都長又ハ都參與ノ職ニ在ルコトヲ得ス第十五條第六項ノ

規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十四條 都長ハ内務大臣、副都長ハ都長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從

事スルコトヲ得ス

都長及副都長ハ會社ノ取締役、監査役若ハ之ニ準スヘキ者、清算人又ハ支配人タルコトヲ得ス

第七十五條 都ニ出納吏及副出納吏各一人ヲ置ク但シ副出納吏ノ定數ハ都條例ヲ以テ之ヲ増加

スルコトヲ得

第七十六條 出納吏ハ都參與、副出納吏ハ第八十一條ノ吏員中ヨリ都長ノ推薦ニ依リ都會之ヲ

定ム

都長副都長又ハ都參與ト父子兄弟タル緣故アル者ハ出納吏又ハ副出納吏ノ職ニ在ルコトヲ

得ス

出納吏ト父子兄弟タル緣故アル者ハ副出納吏ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第七十七條 區ニ區長及副區長各一人ヲ置キ都ノ有給吏員トシ都長之ヲ任免ス

區ニ區出納吏一人ヲ置キ第八十二條ノ吏員中ヨリ都長之ヲ命ス
第七十二條乃至第七十四條及前條第二項ノ規定ハ區長副區長及區出納吏ニ第七十五條但書ノ規定ハ區出納吏ニ之ヲ準用ス

第七十八條 區ニハ都條例ヲ以テ區副出納吏ヲ置クコトヲ得
區出納吏ニ關スル規定ハ區副出納吏ニ之ヲ準用ス

第七十九條 都ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シテ分區ヲ設ケ分區長分區出納吏及必要ナル吏員ヲ置クコトヲ得

前項ノ吏員ハ第八十二條ノ吏員中ヨリ都長之ヲ命ス
第八十條 都ハ都會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得
委員ハ名譽職トス

委員ノ組織、選任、任期等ニ關スル事項ハ都條例中ニ規定スヘシ但シ委員長ハ都長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ヲ以テ之ニ充テ都參與ハ委員中ニ加フルヲ要ス

第八十一條 前數條ニ定ムル者ノ外都ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ都長之ヲ任免ス
前項ノ吏員ノ定數ハ都會ノ議決ヲ經テ之ヲ定メ其ノ組織、任用、分限及懲戒ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十二條 前數條ニ定ムル者ノ外區ニ必要ノ都有給吏員ヲ置キ區長ノ申請ニ依リ都長之ヲ任免ス
前條第二項ノ規定ハ前項ノ吏員之ヲ適用ス

第八十三條 都公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ都公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレタルトキ又ハ第九條第三項ノ場合ニ當ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタル爲都公民タルモノニシテ禁治產若ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ第九條第二項若ハ第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ內務大臣ハ其ノ職務執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

第二款 職務權限
第八十四條 都長ハ都ヲ統轄シ都ヲ代表ス
都長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 都會及都審議會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スルコト
- 二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル

コト

三 収入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スルコト

四 證書及公文書類ヲ保管スルコト

五 法令又ハ都會ノ議決ニ依リ使用料、手数料加入金及都税ヲ賦課徴收スルコト

六 其ノ他法令ニ依リ都長ノ職權ニ屬スル事項

第八十五條 都長ハ議案ヲ都會ニ提出スル前之ヲ都審議會ノ審査ニ付シ其ノ意見ヲ議案ニ添ヘ都會ニ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ都審議會ノ審査ニ付シタル場合ニ於テ都審議會意見ヲ述ヘサルトキハ都長ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ議案ヲ都會ニ提出スルコトヲ得

第八十六條 都長ハ都吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ副都長、都參與及委員ニ付テハ譴責及二十五圓以下ノ過怠金トシ其ノ他ノ吏員ニ付テハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス
前項ノ規定ニ依リ解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間都ノ公職ニ選舉セラルルコトヲ得ス第四百四十八條及第

百七十一條ノ規定ニ依リ解職セラレタル者亦同シ

第八十七條 都會又ハ都審議會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ超エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト

認ムルトキハ都長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ内務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ都會又ハ都審議會其ノ議決ヲ改メサルトキハ都長ハ内務大臣ノ裁決ヲ請フヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

内務大臣ハ第一項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得

議決公益ヲ害シ又ハ都ノ收入ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ都長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ内務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ都會又ハ都審議會其ノ議決ヲ改メサルトキハ都長ハ内務大臣ノ裁決ヲ請フヘシ

第二項ノ裁決又ハ第三項ノ處分ニ不服アル都長、都會又ハ都審議會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十八條 都會成立セサルトキ、第四十八條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルト

キ又ハ都長ニ於テ都會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ都長ハ都會ノ權限ニ屬スル事件ヲ都審議會ノ議決ニ付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ都審議會ニ於テ議決ヲ爲ストキハ都長、副都長及都參與ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

都審議會成立セサルトキ又ハ第六十七條第一項但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ都長ハ内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

都會又ハ都審議會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル都會又ハ都審議會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前四項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル都審議會ノ決定又ハ都長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴訟願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項及前三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ都會又ハ都審議會ニ報告スヘシ

第八十九條 都審議會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ都審議會成立セサルトキ又ハ都長ニ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ都長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ都審議會ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ都長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十條 都長其ノ他ノ都吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國及公共團體ノ事務ヲ掌ル範圍ニ關シ前項ノ事務ヲ執行スル爲ニ要スル費用ハ都ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十一條 都長ハ其ノ事務ノ一部ヲ區長ニ委任スルコトヲ得

都長ハ都吏員ヲシテ財產又ハ營造物ヲ管理セシムルコトヲ得

都長ハ都吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九十二條 都長ハ特別ナル事業及事務ヲ指定シ都會ノ同意ヲ得テ都參與ヲシテ分掌セシムルコトヲ得

第九十三條 副都長ハ都長ノ事務ヲ補助ス

副都長ハ都長故障アルトキ之ヲ代理ス

都長、副都長共ニ故障アルトキハ豫メ都長ノ定メタル順序ニ依リ都參與之ヲ代理ス

第九十四條 都出納吏ハ都ノ出納其ノ他ノ會計事務並第九十條ノ事務ニ關スル國及公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

副出納吏ハ都出納吏ノ事務ヲ補助シ都出納吏故障アルトキハ之ヲ代理ス副出納吏數人アルト

キハ豫メ都長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

都出納吏ハ都長ノ同意ヲ得テ其ノ事務ヲ副出納吏又ハ區出納吏ニ委任スルコトヲ得

都出納吏ハ都長ノ同意ヲ得テ都出納吏副出納吏又ハ金庫ヲ常置セサル場所ノ出納ヲ第八十一

條ノ吏員ニ委任スルコトヲ得

第九十五條 區長ハ都長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ關スル都ノ事務及第八章

ノ區ノ事務ヲ掌ル

第九十六條 副區長ハ區長ノ事務ヲ補佐ス

副區長ハ區長故障アルトキ之ヲ代理ス副區長數人アルトキハ豫メ都長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

區長、副區長共ニ故障アルトキハ區出納吏及區副出納吏ニ非サル區所屬ノ吏員中上席者ヨリ

順次ニ之ヲ代理ス

區長ハ區所屬ノ吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九十七條 區出納吏ハ都出納吏ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ都及區ノ出納其ノ他ノ

會計事務並第九十條ノ事務ニ關スル國及公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

區副出納吏ハ區出納吏ノ事務ヲ補助シ區出納吏故障アルトキハ之ヲ代理ス

區出納吏、區副出納吏共ニ故障アルトキハ都長ハ吏員中ヨリ臨時代理者ヲ命スヘシ

第九十八條 都委員ハ都長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル都ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處理ス

第九十九條 第八十一條ノ吏員ハ都長ノ命ヲ承ケ事務及技術ニ従事ス

第八十二條ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務及技術ニ従事ス

第五章 給料及給與

第一百條 都會議員、名譽職審議會員、名譽職參與其ノ他都ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職審議會員、名譽職參與及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ都條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第一百一條 都長、副都長、都有給參與其ノ他都ノ有給吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ都條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第一百二條 有給吏員ニハ都條例ノ定ムル所ニ依リ療治料、退隱料、退職給與金、死亡給與金及遺族扶助料ヲ給與スヘシ

第三百三條 費用辨償、報酬、給料、旅費、療治料、退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ都長ニ申立ツルコトヲ得
 前項ノ異議ハ之ヲ都審議會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 前項ノ決定ニ付テハ都長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第四百四條 費用辨償、報酬、給料、旅費、療治料、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ都ノ負擔トス

第六章 都ノ財務

第一款 財産營造物及都税

第四百五條 收益ノ爲ニスル都ノ財産ハ基本財産トシテ之ヲ維持スヘシ
 都ハ特定ノ目的ノ爲積立金ヲ設クルコトヲ得
 第四百六條 舊來ノ慣行ニ依リ都住民中特ニ都ノ財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ都會ノ議決ヲ經ヘシ
 前項ノ財産又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ都ハ之ヲ許可スルコトヲ得
 第四百七條 都ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ都規則ヲ設クルコトヲ得

第四百八條 都ハ第六百六條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得
 第四百九條 都ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得
 都ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得
 第四百十條 財産ノ賣却、貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ニ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ、入札ノ價格其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサズルキ又ハ都會ノ同意ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第四百十一條 都ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得
 第四百十二條 都ハ其ノ必要ナル費用並從來法令又ハ慣例ニ依リ東京府並東京市及本法ニ依リ都ノ區域ニ編入セラレタル町村ノ負擔ニ屬シタル費用及將來法律勅令ニ依リ都ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ但シ都市計畫事業ニシテ主務大臣都ノ構成ニ關スル認定シタルモノノ費用ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫ニ於テ其ノ一部ヲ負擔スルコトヲ得
 第四百十三條 都ハ都税ヲ賦課徵收スルコトヲ得
 都税及其ノ賦課徵收ニ付テハ本法其ノ他ノ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外府縣税ノ例ニ依ル

直接國稅ノ附加税ハ均一ノ税率ヲ以テ賦課徴收スヘシ但シ第四百四十四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 三月以上都内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ都税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第十五條 都内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖都内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ、使用シ若ハ占有シ、都内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ都内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル都税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第十六條 納税者ノ都外ニ於テ所有シ、使用シ、占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ都外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ都税ヲ賦課スルコトヲ得ス

住所滞在同時ニ都ノ内外ニ渉ル者ノ前項以外ノ收入ニ對シテ都税ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ノ關係アル府縣又ハ市町村及都ニ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ
前項ノ住所又ハ滞在在其ノ時ヲ異ニシタルトキハ納税義務ノ發生シタル翌月ノ初ヨリ其ノ消滅シタル月ノ終迄月割ヲ以テ賦課スヘシ但シ賦課後納税義務者ノ住所又ハ滞在ニ異動ヲ生スルモ賦課額ハ之ヲ變更セス其ノ新ニ住所ヲ有シ又ハ滞在スル者ニ對シテハ他ノ府縣ニ於テ賦課セサル部分ニノミ賦課スヘシ

都ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本税ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係アル府縣又ハ市町村及都ニ於テ營業税附加税、所得税又ハ鑛産税附加税ヲ賦課スルトキハ關係アル府縣知事又ハ市町村長及都長協議ノ上其ノ歩合ヲ定ム協議調ハサルトキハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム
鑛區又ハ砂鑛區カ都ノ内外ニ渉ル場合ニ於テ鑛區税又ハ砂鑛區税ノ附加税ヲ賦課スルトキハ鑛區又ハ砂鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ本税額ヲ分割シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ
第十七條 所得税法第十八條ニ掲クル所得ニ對シテハ都税ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社、寺院、祠宇、佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並教會所、説教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ都税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所説教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス
國、府縣、市及町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ都税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス
國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ都税ヲ賦課スルコトヲ得ス
前項ノ規定ニ依ル都ノ收入缺陷ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫ヨリ都税相當額ヲ下付ス

第一項乃至第四項ノ外都税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル
第百十八條 數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシム
ルコトヲ得

都ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ都税ヲ納ムル義
務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘ
シ數人又ハ都ノ一部ヲ利スル財産ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第百十九條 數人又ハ都ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ都ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又
ハ數人若ハ都ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

都ノ事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ都ハ其ノ者ヲシテ利益ヲ受クル限度ニ於テ
事業費ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第百二十條 非常災害ノ爲必要アルトキハ都ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ
他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ都長又ハ警察官吏ハ都内ノ居住者ヲシテ防禦
ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ
意見ヲ徵シ内務大臣之ヲ決定ス

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ内務大臣
ニ訴願スルコトヲ得

第百二十一條 都税ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日没迄ノ間營業者
ニ關シテハ仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スヘシ

第百二十二條 都長ハ特別ノ事情アル者ニ對シ納税延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ超ユル場合
ハ都審議會ノ議決ヲ經ヘシ

都長ハ特別ノ事情アル者ニ限り都審議會ノ議決ヲ經都税ヲ減免スルコトヲ得

第百二十三條 使用料、手数料ニ關スル事項並都税及其ノ賦課徵收ニ關スル事項ニ付テハ都條
例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ第百十九條第二項ノ特別負擔ニ付亦同シ其ノ都條例中使用料及手
料ニ付テハ五圓以下、都税及特別負擔ニ付テハ五十圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコ
トヲ得

財産又ハ營造物ノ使用ニ關シテハ都條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

過料ヲ科シ及之ヲ徵收スルハ都長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二百二十四條 都税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ都長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ使用料手數料及加入金ノ徵收ニ關シ之ヲ準用ス

財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ都長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ都審議會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル決定ニ付テハ都長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二百五條 都税、使用料、加入金、過料及過怠金其ノ他ノ都ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ都長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル區長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ都條例ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

滞納者第一項ノ督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滞納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項及第二項ノ徵收金ハ國ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ都審議會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ都長ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ都長又ハ區長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第二百二十六條 都ハ其ノ負債ヲ償還スル爲都ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限り都債ヲ起スコトヲ得

第一百十條但書ニ依ル都債ノ利子ニ付テハ明治四十二年法律第七號ノ例ニ依ル

都債ヲ起スニ付都會ノ議決ヲ經ル時ハ併テ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ都長ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲都審議會ノ議決ヲ經一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款 歳入出豫算及決算
第二百二十七條 都長ハ每會計年度歳入出豫算ヲ調製シ年度開始ノ一月前迄ニ都會ノ議決ヲ經

都ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

豫算ヲ都會ニ提出スルトキハ都長ハ併テ事務報告書及財産表ヲ提出スヘシ

第二百二十八條 都長ハ都會ノ議決ヲ經既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第二百二十九條 都費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ都會

ノ議決ヲ經其ノ各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第三百十條 都ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ都會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第三百十一條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ内務大臣ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第三百十二條 都ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

特別會計ニハ豫備費ヲ設ケサルコトヲ得

第三百十三條 豫算ノ議決アリタルトキハ都長ハ其ノ謄本ヲ都出納吏ニ交付スヘシ

都出納吏ハ都長又ハ内務大臣ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支

出ノ豫算ナク且豫備費支出費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サル

トキ亦同シ

第三百十四條 都ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第三百十五條 都ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ検査シ且每會計年度少クトモ二回臨時検査ヲ

爲スヘシ

前項ノ検査ハ都長之ヲ爲シ臨時検査ニハ名譽職審議會員ニ於テ互選シタル者二人以上ノ立會

ヲ要ス

第三百十六條 都ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併テ都出納吏ヨリ之ヲ都長ニ提出スヘシ都長ハ之ヲ審

査シ意見ヲ付シテ三月以内ニ之ヲ都會ノ認定ニ付スヘシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル都會ノ議決ト共ニ之ヲ内務大臣ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ヲ都審議會ノ會議ニ付スル場合ニ於テハ都長副都長及都參與ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ

得ス

第三百十七條 豫算調製ノ式費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第七章 都ノ監督

第三百十八條 都ハ内務大臣之ヲ監督ス

第三百十九條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘ

但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分、決定、裁定又ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

決定書ノ交付ヲ受ケタル者ニ關シテハ前項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ計算ス

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴訟法ノ規定ニ依ル異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テ

モ宥恕スヘキ理由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求

ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第四百十條 内務大臣ハ都ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵

シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

内務大臣ハ第一百十二條但書ニ規定スル事業ニ付テハ明治三十年四月法律第三十七條ノ例ニ依

ルコトヲ得

内務大臣ハ前項ノ外都ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四百十一條 内務大臣ハ勅裁ヲ經テ都會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

都會解散ノ場合ニ於テハ四月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

解散後始テ都會ヲ招集スルトキハ都長ハ第四十七條第一項ノ規定ニ拘ラス内務大臣ノ許可ヲ

得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

内務大臣ハ期日ヲ定メテ都會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第四百十二條 都ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セ

サルトキハ内務大臣ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

都長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ内務大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル

官吏之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ都ノ負擔トス

第一項ノ處分ニ不服アル都長前項處分ニ不服アル都長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴スル

コトヲ得

第四百十三條 都長、副都長、出納吏又ハ副出納吏ニ故障アルトキハ内務大臣ハ臨時代理者ヲ選

任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ

其ノ職務ノ爲ニ要スル費用ハ都費ヲ以テ辨償セシムヘシ

臨時代理者ハ有給ノ都吏員トシテ其ノ給料額等ハ内務大臣之ヲ定ム

第四百十四條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

- 一 都廳ノ位置ヲ定メ又ハ變更スルコト
 - 二 都條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
 - 三 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ之ニ大ナル變更ヲ加フルコト
 - 四 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅ノ附加稅ヲ賦課スルコト
 - 五 第一百八條第一項、第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ都ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムルコト
 - 六 第一百九條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ數人若ハ都ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲シ又ハ特別負擔ヲ爲サシムルコト
- 第四百四十五條 都債ヲ起シ又ハ起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第二百二十六條第四項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス
- 第四百四十六條 主務大臣ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ主務大臣ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與ルコトヲ得
- 第四百四十七條 主務大臣ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第四百四十八條 内務大臣ハ都長、副都長、都參與及區長其ノ他ノ都吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得

其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ都長、副都長、都參與、區長及副區長ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經都長ニ付テハ勅裁ヲ經ルコトヲ要ス

懲戒審査ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

内務大臣ハ都吏員ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

第四百四十九條 都吏員ノ服務規律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八章 都ノ區

第四百五十條 都ノ區ノ區域ハ別ニ之ヲ定ム

第四百五十一條 都ノ區ハ法人トス都ノ公共事務ニシテ區内ニ關スルモノ竝以來慣例又ハ法令ニ依リ東京市ノ區ニ屬シタル事務及將來法律勅令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス但シ區ノ處理スル公共事務ノ種類及範圍ハ都條例ノ定ムル所ニ依ル

第四百五十二條 都ノ區ノ廢置分合若ハ境界變更又ハ所屬未定地編入其ノ他都ノ區ノ境界ニ關シ

テハ市制第三條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス但シ其ノ規定中府縣知事トアルハ都長、府縣參事會トアルハ都審議會トス

第五十三條 都ノ區内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ區住民トス

區住民ハ本令ニ從ヒ都ノ區ノ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ其ノ區ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第五十四條 區住民ニシテ其ノ區ノ費用ヲ負擔スル公民ハ區公民トス

第五十五條 區住民ノ權利義務ニ關シテハ前二條ニ規定スルモノノ外市制第十條及第十一條ノ規定ヲ準用ス但シ其ノ規定中府縣知事トアルハ都長、府縣參事會トアルハ都審議會トス

第五十六條 都ノ區ハ區住民ノ權利義務又ハ區ノ事務ニ關シ區條例ヲ設クルコトヲ得

都ノ區ハ區ノ營造物ニ關シ區條例ヲ以テ規定スルモノノ外區規則ヲ設クルコトヲ得
區條例及區規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ公告スヘシ

前項ノ公告式ハ區條例ノ定ムル所ニ依ル

第五十七條 區會議員ハ都ノ名譽職トシ其ノ定數ハ第十三條第二項ノ規定ニ依ル議員數ノ三倍トス

都會議員ハ其ノ選舉セラレタル區ノ區會議員トス

都會議員ニ非サル者ノ選舉ニ付テハ第十二條乃至第三十六條ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 區會ノ職務權限ニ關シテハ市制中市會ノ職務權限ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十九條 區參事會ノ組織及選舉並其ノ職務權限ニ關シテハ市制中市參事會ノ組織及選舉並其ノ職務權限ニ關スル規定ヲ準用ス

第六十條 都ノ區ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ノ組織及選舉ニ關シテハ市制中委員ノ組織及選舉ニ關スル規定ヲ準用ス

第六十一條 區名譽職員ノ費用辨償及報酬ニ關シテハ市制中費用辨償及報酬ニ關スル規定ヲ準用ス但シ其ノ規定中府縣知事トアルハ都長、府縣參事會トアルハ都審議會トス

第六十二條 都ノ區ハ其ノ必要ナル費用及從來慣例又ハ法令ニ依リテ東京市ノ區ノ負擔ニ屬シタル費用及將來法律勅令ニ依リ都ノ區ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第六十三條 都ノ區ハ其ノ管理スル財産及營造物ヨリ生スル收入、使用料、手数料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ都ノ區ニ屬スル收入ヲ以テ前條ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ區稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第六十四條 都ノ區ハ區稅トシテ直接都稅ノ附加稅ヲ賦課徵收スルコトヲ得其ノ稅目及課率ノ制限ハ都條例ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ規定ニ依ル區稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第七十一條ノ規定ニ依リ許
可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
國稅ノ附加稅タル都稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第六十五條 都ノ區ハ都條例ノ定ムル所ニ依リ區債ヲ起スコトヲ得

第六十六條 都ノ區ノ財務ニ關シテハ前三條ニ規定スルモノノ外市制中市ノ財務ニ關スル規
定ヲ準用ス但シ其ノ規定中府縣知事トアルハ都長、府縣參事會トアルハ都審議會トス

第六十七條 區ノ一部ニシテ從來財產ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財產
ノ管理及處分ニ付テハ區ノ財產又ハ營造物ノ例ニ依ル

前項ノ財產又ハ營造物ニ關シテニ費用ヲ要スルモノアルトキハ其ノ財產又ハ營造物ノ屬スル
區ノ一部ノ負擔トス

前二項ノ場合ニ於テハ區ノ一部ハ會計ヲ分別スヘシ

第六十八條 都ノ區ハ第一次ニ於テ都長之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第六十九條 都ノ區ハ營造物ヲ設置シ又ハ之ヲ廢シ其ノ他ノ事業ヲ起シ又ハ之ヲ廢セムトス
ルトキハ豫メ都會ノ同意ヲ經ヘシ

第七十條 都長ハ區ノ吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得

第七十一條 都ノ區ノ監督ニ關シテハ前三條ニ規定スルモノノ外市制中市ノ監督ニ關スル規
定ヲ準用ス但シ其ノ規定中府縣知事トアルハ都長、府縣高等官トアルハ都吏員、府縣參事會トア
ルハ都會、府縣名譽職參事會員トアルハ名譽職審議會員、第六十四條ニ官吏トアルハ官吏吏員、
第七十條ニ勅裁トアルハ內務大臣ノ許可トス

第七十二條 市制第七條、第七十六條及第八十條ノ規定ハ區ニ關シ之ヲ準用ス但シ市制
第七條中內務大臣又ハ府縣知事トアルハ都長トス

第九章 雜則

第七十三條 第十一條ノ規定ニ依ル人口ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第七十四條 本法ニ於ケル直接稅ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第七十五條 都ニ於テ賦課スル國稅附加稅又ハ特別稅ノ制限率及段別割ノ制限額ハ左ノ各號
ニ規定スル所ニ依ル

一 明治四十一年法律第三十七條第一條乃至第三條ノ適用ニ關シテハ府縣ト其ノ他ノ公共團
體トニ付規定シタル各稅ノ制限率又ハ制限額ヲ合算シタルモノトス

二 鑛業法第八十八條賣藥稅法第一條ノ六及取引所稅法第二十二條ノ適用ニ關シテハ府縣ト
市町村トニ付規定シタル制限率ヲ合算シタルモノトス

三 都市計畫法第八條ノ適用ニ關シテハ其ノ各税ノ制限率ノ二倍トス

第七十六條 現行法令中府縣及市ハ都、府縣廳及市役所ハ都廳、府縣會及市會ハ都會、府縣參事會及市參事會ハ都審議會、府縣會議員及市會議員ハ都會議員、名譽職府縣參事會員及名譽職市參事會員ハ名譽職審議會員、府縣知事地方長官及市長ハ都長、市收入役ハ都出納吏、市吏員ハ都吏員、市制第六條ノ市ノ區ハ都ノ區、市制第六條ノ市ノ區長ハ都ノ區長ト看做ス其ノ他此ノ例ニ依ル但シ本條ノ例ニ依ラサルモノハ法令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十七條 行政執行法第五條及第六條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ權限ハ都長亦之ヲ行フ

第七十八條 東京府令ハ本法其ノ他ノ法令ノ規定ニ抵觸セサルモノニ限り都ノ區域内ニ於テ仍其ノ效力ヲ有ス

東京市條例又ハ市規則ハ都條例又ハ都規則ト看做ス

本法ニ依リ都ノ區域ニ編入セラレタル各町村ノ條例又ハ規則ハ本法及前項ノ條例又ハ規則ト抵觸セサルモノニ限り都條例又ハ都規則トシテ仍其ノ效力ヲ有ス

第七十九條 都ノ境界變更アリタル場合ニ於テ都ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第八十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十一條 本法施行ノ際現ニ東京市及其ノ各區並本法ニ依リ都ノ區域ニ編入セラレタル各町村ニ屬スル財産營造物事業及權利義務ハ第六十七條ニ依ルモノヲ除クノ外凡テ都ニ歸屬ス

第八十二條 本法施行ノ日迄引續キ本法ニ依リ都ノ區域ニ編入セラルヘキ市町村内ニ於テ住所ヲ有シ直接市町村税ヲ納ムル者ハ都ニ於テ住所ヲ有シ直接都税ヲ納ムル者ト看做シ第七條ノ規定ヲ適用ス

本法施行ノ日迄引續キ東京市ノ各區及本法ニ依リ都ニ編入セラレタル各町村ニ於テ住所ヲ有シ直接市町村税ヲ納ムル者ハ其ノ住所ノ屬スル都ノ區ニ於テ住所ヲ有シ直接區税ヲ納ムル者ト看做シ第五十三條ノ規定ヲ適用ス

第八十三條 衆議院議員選舉區東京府第一區乃至第十一區第十三區乃至第十五區ヨリ選出シタル現在衆議院議員ハ從來ノ所屬選舉區ト區域ヲ同シクスル都ノ選舉區ヨリ選出セラレタル者ト看做ス

第八十四條 本法施行ノ際現ニ東京府並東京市及本法ニ依リ都ノ區域ニ編入セラレタル町村ノ名譽職ノ職ニ在ル者ハ法令ニ別段ノ定アルモノノ外本法施行ノ日ニ其ノ職ヲ失フ

第百八十五條 本法施行ノ際現ニ東京市ノ市長、助役、參與、收入役、副收入役、區長及區收入役ノ職ニ在ル者ハ本法ノ規定ニ依ル選任アル迄ノ間順次都長、副都長、都參與、都出納吏、都副出納吏、區長及區出納吏トシテ在職スルモノトス

前項ニ規定セサル市ノ吏員ハ都ノ吏員トス但シ任期アル者ニ付テハ前條ノ例ニ依ル
本法ニ依リ都ノ區域ニ編入セラルル町村ノ吏員ハ本法施行ノ日ニ其ノ職ヲ失フ

第百八十六條 本法施行ノ際都會及都審議會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ル迄ノ間都長之ヲ行フ

第百八十七條 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ東京市會議員、東京市ノ區會議員又ハ東京府會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ停止セラレタル者ハ都會議員又ハ都ノ區會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ停止ス

四七 東京府廢止神奈川縣界變更ニ關スル法律案(鳩山一郎外九名提出)

第一條 從來ノ東京府ノ區域ノ中八王子市並西多摩郡北多摩郡及南多摩郡ノ區域ヲ神奈川縣ニ編入シ東京府ハ之ヲ廢止ス

第二條 衆議院議員選舉區東京府第十二區及第十六區ヨリ選出シタル現任衆議院議員ハ從來ノ所屬選舉區ト區域ヲ同クスル神奈川縣ノ選選區ヨリ選出セラレタル者ト看做ス

第三條 貴族院多額納稅者議員、衆議院議員及府縣會議員ノ選舉及被選舉資格中其ノ年限ニ關スルモノハ本法ニ依ル府ノ廢止及縣境界ノ變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ爲東京府ニ屬スル營造物及事業ノ處分並權利義務ノ歸屬ニ付必要ナル事項ハ東京府會神奈川縣會及關係市町村會ノ意見ヲ徵シ主務大臣之ヲ定ム

四八 大阪都制案(赤田瑤一君外一名提出)

大阪都制

第一章 總則

第一款 都及其ノ區域

第一條 都ハ從來ノ大阪市ノ區域ニ依ル

第二條 都ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並慣例ニ依リ大阪府若ハ大阪市ニ屬シタル事務及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ都ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 都ノ境界變更ヲ爲サムトスルトキハ關係アル縣參事會、都會、市會及町村會ノ意見ヲ徵

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

シ内務大臣之ヲ定ム所屬未定地ヲ都ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ
前項ノ場合ニ於テ財産アルトキハ其ノ處分ニ關シテハ前項ノ例ニ依ル

第四條 都ノ境界ニ關スル爭論ハ内務大臣之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル縣、都、市及町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル裁定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ關係縣、都、市及町村ニ交付スヘシ

第五條 都ハ處務便宜ノ爲之ヲ區ニ劃ス

區ハ從來ノ大阪市ノ區ノ區域ニ依ル

區ノ廢置分合境界變更ヲ爲サムトスルトキハ都會ノ意見ヲ徵シ内務大臣之ヲ定ム

前項ノ處分ニ不服アル都長又ハ都會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二款 都住民及其ノ權利義務

第六條 都内ニ住所ヲ有スル者ハ都住民トス

都住民ハ本法ニ從ヒ都ノ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ都ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第七條 都住民ニシテ左ノ要件ヲ具備スル者ハ都公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル

後二年ヲ經サル者、禁治產者、準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ

此ノ限ニ在ラス

一 帝國臣民タル男子ニシテ年齢二十五年以上ノ者

二 獨立ノ生計ヲ營ム者

三 二年以來都住民タル者

四 二年以來直接都税ヲ納ムル者

都ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納税ヲ以テ其ノ者ノ爲シタル納税ト看做ス

都ノ境界變更アリタル場合ハ其ノ境界變更ノ際從前ノ市町村ニ於テ住所ヲ有シ直接町市村税ヲ納メタル者ニ付テハ都ニ於テ住所ヲ有シ直接都税ヲ納メタル者ト看做ス

第八條 都公民ハ都ノ舉選ニ參與シ都ノ名譽職ニ選舉セララルル權利ヲ有シ都ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ若ハ其ノ職ヲ辭シタルトキ又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ都ハ一年以上四年以下都公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以内其ノ者ノ負擔スヘキ都税ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

- 一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
 - 二 業務ノ爲常ニ都内ニ居ルコトヲ得サル者
 - 三 年齢六十一年以上ノ者
 - 四 官公職ノ爲都ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
 - 五 四年以上名譽職都吏員、名譽職都參事會員又ハ都會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者
 - 六 其ノ他都會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者前項ノ規定ニ依ル處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第二項ノ規定ニ依ル處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス
- 第九條 都公民第七條第一項ニ掲ケタル要件ノ一ヲ闕キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ其ノ公民權ヲ失フ
- 都公民租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ
- 陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ都ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時

又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第三款 都條例及都規則

第十條 都ハ都住民ノ權利義務又ハ都ノ事務ニ關シ都條例ヲ設クルコトヲ得

都ハ都ノ營造物ニ關シ都條例ヲ以テ規定スルモノヲ除クノ外都規則ヲ設クルコトヲ得

都條例及都規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ公告スヘシ

公告式ハ都條例ノ定ムル所ニ依ル

第二章 都會

第一款 組織及選舉

第十一條 都會議員ノ定數ハ六十八人トス

都ノ人口百三十萬ヲ超ユルトキハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ議員四人ヲ増加ス

議員ノ定數ハ都條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ內務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 都公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

第十三條 都會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區ハ區ノ區域ニ依ル各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ都條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム第七十四條又ハ第七十七條第三項ノ規定ニ依リ都公

民タル者ニシテ都内ニ住所ヲ有セサル者ニ付テハ都長本人ノ申出ニ依リ其ノ申出ナキトキハ

職權ニ依リ其ノ選舉區ヲ定ムヘシ

第十四條 選舉人ハ各選舉區ニ於テ之ヲ分チテ二級トス

選舉人中直接都稅ヲ納ムル選舉人ノ總數ヲ以テ其ノ選舉人ノ納ムル直接都稅總額ヲ除シ其ノ

平均額以上ヲ納ムル者ヲ一級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ二級トス但シ一級選舉人ノ數其ノ選舉區

ヨリ選出スル議員數ノ二分ノ一ヨリ少キトキハ納稅額最多キ者其ノ議員數ノ二分ノ一ト同數

ヲ以テ一級トス兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二人以上アルトキハ其ノ都内ニ住スル年數ノ多キ者

ヲ以テ一級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テシ年齢ニ依リ難キトキハ區長

抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ每級各別ニ其ノ選舉區ヨリ選出スル議員數ノ二分ノ一ヲ選舉スヘシ但シ其ノ議員數

二分シ難キトキハ各級ヨリ選出スル議員數ハ第十三條ノ規定ニ依ル都條例中ニ之ヲ規定ス

ヘシ

被選舉人ハ各級ニ通シテ選舉セララルコトヲ得

第二項ノ直接都稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ル
ヘシ

第十五條 特別ノ事情アルトキハ都ハ區劃ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得二級選舉ノ爲ノ
ミニ付亦同シ

第十六條 選舉權ヲ有スル都公民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者亦同シ

一 都ノ有給吏員

二 檢事、警察官吏及收稅官吏

三 神官、神職、僧侶其ノ他諸宗教師

四 小學校教員

都ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ都ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ノ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主ト
シテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員及支配人ハ被選舉權ヲ有セス

前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ都會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタル

トキハ同級ニ在リテハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ等級若
ハ選舉區ヲ異ニシテ選舉セラルトキハ年長者ヲ當選者トシ年齡同シキトキハ都長抽籤シテ當
選者ヲ定ム其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタ者議員タルコトヲ得ス
議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ年齡同シキトキハ
都長抽籤シテ失職者ヲ定ム

都長、都參與又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ都會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第十七條 都會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス
議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ第十三條ノ規定ニ依ル都條例中ニ
其ノ解任ヲ要スル者ノ選舉區及等級ヲ規定シ都長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ但シ解任ヲ要スル選
舉區及等級ニ關員アルトキハ其ノ關員ヲ以テ之ニ充ツヘシ
議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員
ノ任期滿了ノ日迄在任ス
選舉區又ハ其ノ選舉區ヨリ選出スル議員數ニ變更アリタル場合ニ於テ之ニ關シ必要ナル事項
ハ第十三條ノ規定ニ依リ都條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第十八條 都會議員中關員ヲ生シ其ノ關員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ内務大

臣都長若ハ都會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補闕選舉ヲ行フヘシ議員關員ト爲リタルトキ其ノ
議員カ第二十七條第二項ノ規定適用ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合又ハ本條本項若ハ第
三十條ノ規定ニ依ル第二十七條第二項ノ規定ノ準用ニ依リ當選者トナリタル者ナル場合ニ於
テハ都長ハ直ニ第二十七條第二項ノ規定ノ適用又ハ準用ヲ受ケタル他ノ得票者ニ就キ當選者
ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十七條第二項ノ規定ヲ準用ス

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ハ前任者ノ選舉セラレタル等級及選舉區ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第十九條 區長ハ選舉期日前百日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人
名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿調製期日ハ都長豫メ之ヲ告示スヘシ
區長ハ選舉期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄區役所又ハ
告示シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縦
覽期間内ニ區長ヲ經テ之ヲ都長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ都長ハ縦覽期間滿了後
三日以内ニ都參事會ノ決定ニ付スヘシ都參事會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ

決定スヘシ

千六百八十八

前項ノ規定ニ依ル決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三項ノ規定ニ依ル決定ニ付テハ都長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ場合ニ於テ決定確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ其ノ確定
期日前ニ區長之ヲ修正スヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ第三條ノ規定ニ依ル處分アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ指定スルモノヲ除クノ外
各選舉區ニ涉リ同時ニ調製シタルモノハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之
ヲ用キ一部ノ選舉區限リ調製シタルモノハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ該選舉區ニ於テ
ノミ行フ選舉ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後決定確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要
スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日前四日迄ニ區長之ヲ修正スヘシ
選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ區長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ
選舉分會ヲ設クルトキハ區長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區畫毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ
確定名簿ニ登録セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但選舉人名簿ニ登録セラルヘキ確
定決定書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接都税ニ依リ其ノ者ノ納額ニシテ名簿ニ登録セラレタ
ル一級選舉人中最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ其ノ他ハ二級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ
確定名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ
之ヲ修正スル限ニ在ラス

第三項乃至第五項ノ場合ニ於テ決定確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキ
ハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縦覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及
期間ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用キ縦覽、修正、確定及異
議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

第二十條 都長ハ選舉期日前少クトモ七日間各選舉區ニ於ケル選舉會場、投票ノ日時及各級ヨ
リ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉分會ヲ設クル場合ニ於テハ併テ其ノ等級及區畫ヲ告示
スヘシ

各選舉區ノ選舉ハ同日時ニ之ヲ行ヒ選舉分會ノ選舉ハ本會ト同日時ニ之ヲ行フヘシ天災事變
等ニ依リ同日時ニ選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ都長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル選舉會又ハ選舉
分會ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

選舉ヲ行フ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキハ都長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル等級ノミニ關シ更ニ選舉會場投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

第二十一條 區長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

選舉分會ハ都長ノ指名シタル吏員選舉分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

區長ハ選舉人中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ設クヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス

第二十二條 選舉人ニ非サル者ハ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者、選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉長又ハ分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ選舉會場外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉長又ハ分會長會場ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認ムル場合ニ於テハ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第二十三條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經又ハ確定決定書若ハ判決書ヲ提示シテ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ但シ確定名簿ニ記録セラレタル毎級選舉人ノ數其ノ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコトヲ能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ都長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選舉人名簿ノ調製後選舉人ノ所屬ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選舉人ハ前所屬ノ選舉區ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ分會長少クトモ一人ノ選舉立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘシ

第二十四條 第三十條若ハ第三十四條第二項ノ選舉、増員選舉又ハ補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討論

第四項 法律案

ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ
第二十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ
- 二 現ニ都會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記シタルモノ
- 四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
- 五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ
但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 七 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ
連名投票ノ法ヲ用キタル場合ニ於テハ前項第一號、第六號及第七號ニ該當スルモノ並其ノ記載人員選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ前項第二號、第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

第二十六條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ
選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ分會長之ヲ決

スヘシ

第二十七條 都會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ
選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル各級ノ人員ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ
一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキ
ハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 選舉長又ハ分會長ハ選舉錄ヲ調製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ記載シ選舉又ハ投票
ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二人以上ト共ニ之ヲ署名スヘシ
選舉分會長ハ投票函ト同時ニ選舉錄ヲ本會ニ送致スヘシ
選舉錄ハ投票選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保
存スヘシ

第二十九條 當選者定マリタルトキハ區長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選舉錄ノ騰
本ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ都長ニ報告スヘシ
當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ都長ニ申立ツ
ヘシ

一人ニシテ數級又ハ數選舉區ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ都長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ都長抽籤シテ之ヲ定ム

官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應スヘキ旨ヲ都長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第三項ノ場合ニ於テ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス

第三十條 當選者當選ヲ辭シタルトキハ數級若ハ數選舉區ニ於テ當選シタル場合ニ於テ前條第三項ノ規定ニ依リ一ノ級若ハ選舉區ノ當選ニ應シ若ハ抽籤ニ依リ一ノ級若ハ選舉區ノ當選者ト定マリタル爲他ノ級若ハ選舉區ニ於テ當選者タラサルニ至リタルトキハ死亡者ナルトキ又ハ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効ト爲リタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ其ノ當選者第二十七條第二項ノ規定ノ適用又ハ準用ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合ニ於テハ第十八條第二項ノ例ニ依ル

當選者選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効ト爲リタルトキ其ノ前ニ其ノ者ニ關スル補闕選舉若ハ前項ノ選舉ノ告示ヲ爲シタル場合又ハ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第三十一條 第二十九條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ同條第三章若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ都長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第三十二條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

第三十三條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十一條ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ都長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ都長ハ七日以内ニ都參事會ノ決定ニ付スヘシ都參事會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

都長選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第二十九條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ第三十一條ノ告示ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ都參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及第二項ノ規定ニ依ル決定ニ付テハ都長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第十八條、第三十條又ハ第三十四條第三項ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關スル異議
申立期間、異議ノ決定確定セサル間又ハ訴訟ノ繫屬スル間之ヲ行フコトヲ得ス
都會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル決定確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スル
ノ權ヲ失ハス

第二十四條 當選無効ト確定シタルトキハ區長ハ直ニ第二十七條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ム
ヘシ

選舉無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選舉ヲ行フヘシ
此ノ場合ニ於テハ第二十七條第一項但書ノ規定ヲ適用セス

第三十五條 都會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無ハ都會
議員カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサル場合ヲ除クノ外都會之ヲ決定ス
一 禁治產者又ハ準禁治產者ト爲リタルトキ
二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ宣告確定シタルトキ
三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ
都長ハ都會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ都會ノ決定ニ付スヘシ都會
ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ都長ヨリモ出訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十三條第六項ノ規定ハ第一項及前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三十六條 第十九條又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ都參事會ノ爲シタル決定ハ都長直ニ之ヲ告
示スヘシ

第十九條又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ爲シタル決定確定シ若ハ判決アリタルトキハ都長直ニ
之ヲ區長ニ通知スヘシ

第三十七條 本法ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準
用ス

第二款 職務權限

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

第三十八條 都會ハ都ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第三十九條 都會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 都條例及都規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
 - 二 都費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スルコト但シ第八十九條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 三 歳入出豫算ヲ定ムルコト
 - 四 決算報告ヲ認定スルコト
 - 五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、加入金及都税ノ賦課徵收ニ關スルコト
 - 六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スルコト
 - 七 基本財産及積立金等ノ設置管理及處分ニ關スルコト
 - 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲スコト
 - 九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムルコト但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 十 都吏員ノ身元保證ニ關スルコト
 - 十一 都ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スルコト
- 第四十條 都會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ都參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十一條 都會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選舉ヲ行フヘシ

第四十二條 都會ハ都ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ都長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢查スルコトヲ得

都會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ都長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項ノ規定ニ依ル都會ノ權限ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十三條 都會ハ都ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ都長又ハ内務大臣ニ提出スルコトヲ得

第四十四條 都會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ
都會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ都會成立セス、招集ニ應セス若ハ意見ヲ提出セス又ハ都會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 都會ハ議員中ヨリ議長及副議長一人ヲ選舉スヘシ
議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第四十六條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長及副議長共ニ故障アルトキハ議員中ヨリ臨時ニ假議長ヲ選舉スヘシ

前項ノ假議長選舉ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ

定ム
前項ノ抽籤ハ都長之ヲ行フ

第四十七條 都長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十八條 都會ハ會期ヲ定メテ都長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ都長ハ之ヲ招集スヘシ

前項ノ會期ハ必要アル場合ニ於テハ都長之ヲ延長スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

都會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ都長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得三日前迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

都會ハ都長之ヲ開閉ス

第四十九條 都會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ第五十

一條ノ除斥ノ爲半數ニ滿タサルトキ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議員ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 都會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十一條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ都會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十二條 法律勅令ニ依リ都會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一人毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二人ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第二十三條及第二十五條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ都會之ヲ決定ス

第一項ノ選舉ニ付テハ都會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル
前項ノ連名投票ノ法ヲ用キタル場合ニ於テ過半數ノ投票ヲ得タル者選舉スヘキ定數ヲ超エタルトキハ最多數ヲ得タル者ヨリ順次當選者ヲ定メ同數者アルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

第五十三條 都會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
一 都長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ
前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十四條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス議員定數ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ開カサルトキハ第四十六條ノ例ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ議員ノ請求ニ基キ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異議アルトキハ議長ハ會議ノ議決ニ依ルニ非サレハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス
第五十五條 議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス

議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十六條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得
第五十七條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
第五十八條 都會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ第八十一條ノ規定ニ依ル都吏員中ヨリ議長之ヲ命ス
第五十九條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議録ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ都會ニ於テ之ヲ定ムヘシ議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ都長ニ報告スヘシ

第六十條 都會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ
會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ都會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止
スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 都參事會

第一款 組織及選舉

第六十一條 都ニ都參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 都長

二 助役

三 名譽職參事會員

名譽職參事會員ノ定數ハ八人トス

都參與ハ參事會員トシテ其ノ參與スル事業ニ關スル場合ニ限り會議ニ列席シ議事ニ參與ス

第六十二條 名譽職參事會員ハ都會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ其ノ選舉ニ關シテハ

第二十三條第二十五條及第二十七條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ都會之

ヲ決定ス

名譽職參事會員中闕員アルトキハ直ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

名譽職參事會員ノ任期ハ都會議員ノ任期ニ依ル但シ都會議員ノ任期滿了ノ場合ニ於テハ後任
名譽職參事會員選舉ノ日迄存任ス

第六十三條 都參事會ハ都長ヲ以テ議長トス都長故障アルトキハ都長代理者議長ノ職務ヲ代理
ス

第二款 職務權限

第六十四條 都參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 都會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スルコト

二 都長ヨリ都會ニ提出スル議案ニ付都長ニ對シ意見ヲ述フルコト

三 其ノ他法令ニ依リ都參事會ノ權限ニ屬スル事件

第六十五條 都參事會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ都長ニ委任スルコトヲ得

第六十六條 都參事會ハ都長之ヲ招集ス名譽職參事會員定數ノ半數以上ノ請求アルトキハ都長

ハ之ヲ招集スヘシ

都長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ都參事會ヲ招集スルコトヲ得

都參事會ハ都長之ヲ開閉ス

第六十七條 都參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第六十八條 都參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第二項ノ除外ノ爲名譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍名譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席名譽職參事會員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス議長及參事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ都參事會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得議長及其ノ代理者共ニ前項ノ場合ニ當ルトキハ年長ノ名譽職參事會員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ抽籤ハ都長之ヲ行フ

第六十九條 第四十三條、第四十四條、第四十七條、第五十條、第五十二條、第五十四條乃至第五十六條、第五十八條並第五十九條第一項及第二項ノ規定ハ都參事會ニ之ヲ準用ス

第四章 都吏員

第七十一條 都長ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

第七十二條 都長ハ都會ヲシテ都長候補者三人ヲ選舉推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘシ

第七十三條 都長ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルニハ非サレバ任期中退職スルコトヲ得ス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ都條例ヲ以テ都參與ヲ置クコトヲ得

第七十四條 都長ハ都會ヲシテ都長候補者三人ヲ選舉推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘシ

第七十五條 都長、都參與及助役ハ都ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ都ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ノ請負ヲ爲シ及

同一ノ行爲ヲ爲ス者ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員タルコトヲ得ス

第七十六條 都長、都參與及助役ハ第十六條第二項ニ掲ケタル職ト兼ヌルコトヲ得ス

第七十七條 都長、都參與及助役ハ第十七條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間都公民トスルニ當テハ業務ニ從事

助役ハ都長ノ推薦ニ依リ都會之ヲ定メ都長職ニ在ラサルトキハ都會ニ於テ之ヲ選舉シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

助役ハ都會ニ於テ都公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

助役ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレバ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十八條 都長及助役ハ第十七條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間都公民トスルニ當テハ業務ニ從事

第七十九條 都長、都參與及助役ハ第十六條第二項ニ掲ケタル職ト兼ヌルコトヲ得ス

都長、都參與及助役ハ都ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ都ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ノ請負ヲ爲シ及

同一ノ行爲ヲ爲ス者ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員タルコトヲ得ス

得ス

都長ト父子兄弟タル縁故アル者ハ都參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス
都參與ト父子兄弟タル縁故アル者ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス
父子兄弟タル縁故アル者ハ同時ニ都參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス第十六條第六項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十六條 都長ハ内務大臣、助役ハ都長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ従事スルコトヲ得ス

都長及助役ハ會社ノ取締役、監査役若ハ之ニ準スヘキ者、清算人又ハ支配人其ノ他ノ事務員タルコトヲ得ス

第七十七條 都ニ收入役及副收入役各一人ヲ置ク

副收入役ノ定數ハ都條例ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得

第七十三條第一項及第二項、第七十五條第一項及第二項並前條中助役ニ關スル規定ハ收入役及副收入役ニ第七十四條ノ規定ハ收入役ニ之ヲ準用ス

都長、都參與又ハ助役ト父子兄弟タル縁故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス
收入役ト父子兄弟タル縁故アル者ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第七十八條 區ニ區長ヲ置キ都有給吏員トシ都長之ヲ任免ス

第七十五條第一項及第二項並第七十六條中助役ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ準用ス

第七十九條 區ニ區收入役及區副收入役各一人ヲ置キ都有給吏員トシ都長之ヲ任免ス

都長、都參與、助役、收入役、副收入役及區長ト父子兄弟タル縁故アル者ハ區收入役又ハ區副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

區收入役ト父子兄弟タル縁故アル者ハ其ノ區ノ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第八十條 都ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ都名譽職トス都會ニ於テ都會議員名譽職參事會員又ハ都公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス但シ委員長ハ都長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル都參與若ハ助役ヲ以テ之ニ充ツ

常設委員ノ組織ニ關シテハ都條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十一條 前數條ニ定ムル者ノ外都及區ニ必要ノ都有給吏員ヲ置キ都長之ヲ任免ス但シ區ノ都有給吏員ニ付テハ區長ノ申請ニ依ル

前項吏員ノ定數ハ都會ノ議決ヲ經テ之ヲ定メ其ノ組織、任用、分限及懲戒ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十二條 都公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ都公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレタルトキ又ハ第九條第三項ノ場合ニ當ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲都公民タル

者ニシテ禁治産若ハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ第九條第二項若ハ第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ内務大臣ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

第二款 職務權限

第八十三條 都長ハ都ヲ統轄シ都ヲ代表ス

都長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 都會及都參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スルコト
- 二 財産及營造物ヲ管理スルコト但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スルコト
- 三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スルコト
- 四 證書及公文書類ヲ保管スルコト
- 五 法令又ハ都會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入金及都税ヲ賦課徴收スルコト
- 六 其ノ他法令ニ依リ都長ノ職務ニ屬スル事項

第八十四條 都長ハ議案ヲ都會ニ提出スル前之ヲ都參事會ノ審査ニ付シ其ノ意見ヲ議案ニ添ヘ

都會ニ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ都參事會ノ審査ニ付シタル場合ニ於テ都參事會意見ヲ述ハサルトキハ都長

ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ議案ヲ都會ニ提出スルコトヲ得

第八十五條 都長ハ都吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ都參與、

助役、收入役、副收入役及委員ニ付テハ譴責及二十五圓以下ノ過怠金トシ其ノ他ノ吏員ニ付テ

ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

前項ノ規定ニ依リ解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコ

トヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間都及都ノ一部ノ公職ニ選舉セラレ若ハ任命セラルルコ

トヲ得ス

第四百四十七條ノ規定ニ依リ解職セラレタル者亦同シ

第八十六條 都會又ハ都參事會其ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背ク

ト認ムルトキハ都長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ内務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付

シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ都會又ハ都參事會其ノ議決ヲ改メサルトキハ都長ハ内務大臣ノ裁決ヲ請フヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

内務大臣ハ第一項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得

都會又ハ都參事會ノ議決公益ヲ害シ又ハ都ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ都長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ内務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ都會又ハ都參事會其ノ議決ヲ改メサルトキハ都長ハ内務大臣ノ裁決ヲ請フヘシ

第二項ノ裁決又ハ第三項ノ處分ニ不服アル都長、都會又ハ都參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十七條 都會成立セサルトキ、第四百四十九條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサル

トキ又ハ都長ニ於テ都會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ都長ハ都會ノ權限ニ屬スル事件ヲ都參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ都參事會ニ於テ議決ヲ爲ストキハ都長、都參與及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

都參事會成立セサルトキ又ハ第六十八條第一項但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ都長ハ内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

都會又ハ都參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

都會又ハ都參事會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前四項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル都參事會ノ決定又ハ都長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項及前三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ都會又ハ都參事會ニ報告スヘシ

第八十八條 都參事會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ都參事會成立セサルトキ又ハ都長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ都長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ都參事會ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ都長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十九條 都長其ノ他ノ都吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國及公共團體ノ事務ヲ掌ル前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ都ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十條 都長ハ其ノ事務ノ一部ヲ區長ニ委任スルコトヲ得

都長ハ都吏員ヲシテ財産又ハ營造物ヲ管理セシムルコトヲ得

都長ハ都吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九十一條 都參與ハ都長ノ指揮監督ヲ承ケ都ノ經營ニ屬スル特別ノ事業ニ參與ス

第九十二條 助役ハ都長ノ事務ヲ補助ス

助役ハ都長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ都長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第九十三條 收入役ハ都ノ出納其ノ他ノ會計事務並第八十九條ノ事務ニ關スル國及公共團體ノ

出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス副收入役數人アルトキハ豫

メ都長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

收入役ハ都長ノ同意ヲ得テ其ノ事務ノ一部ヲ副收入役又ハ區收入役ニ委任スルコトヲ得

第九十四條 區長ハ都長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ於ケル都ノ事務ヲ掌ル

第九十五條 區長故障アルトキハ區收入役及區副收入役ニ非サル區所屬ノ都吏員中上席者ヨリ

順次之ヲ代理ス

區長ハ區所屬ノ都吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九十六條 區收入役ハ都收入役ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ都ノ出納其ノ他ノ會計

事務並第八十九條ノ事務ニ關スル國及公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ニシテ區内ニ關スル

モノヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

區副收入役ハ區收入役ノ事務ヲ補助シ區收入役故障アルトキ之ヲ代理ス

區收入役、區副收入役共ニ故障アルトキハ都長ハ都吏員中ヨリ臨時代理者ヲ命スヘシ

第九十七條 都吏員ハ都長ノ指揮監督ヲ承ケ財産又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル都

ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第九十八條 第八十一條ノ吏員ハ都長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

前項吏員中區所屬ノ者ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第五章 給料及給與

第九十九條 都參與、都會議員、名譽職參事會員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償

ヲ受クルコトヲ得

都參與及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ都會ノ議決ヲ經都長之ヲ定ム

第百條 都長、助役、收入役、副收入役其ノ他ノ有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ都會ノ議決ヲ經都長之ヲ定ム

第百一條 有給吏員ニハ都條例ノ定ムル所ニ依リ退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第百二條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ都長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ都參事會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ付テハ都長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百三條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ都ノ負擔トス

第六章 都ノ財務
第一款 財産營造物及都税
第百四條 收益ノ爲ニスル都ノ財産ハ基本財産トシテ之ヲ維持スルコトヲ得

都ハ特定ノ目的ノ爲積立金等ヲ設クルコトヲ得

第百五條 舊來ノ慣行ニ依リ都住民中特ニ都ノ財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ都會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財産又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ都ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第百六條 都ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ都規則ヲ設クルコトヲ得

第百七條 都ハ第百五條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第百八條 都ハ營造物ノ使用料ヲ徵收スルコトヲ得

都ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第百九條 財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ臨時急施ヲ要スルトキ、入札ノ價格其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ都會ノ同意ヲ經タル

第百十條 都ハ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第百十一條 都ハ其ノ必要ナル費用並慣例ニ依リ大阪府若ハ大阪市ノ負擔ニ屬シタル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ都ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第百十二條 都ハ都税ヲ賦課徵收スルコトヲ得

都税及其ノ賦課徴収ニ付テハ本法其ノ他ノ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外府縣稅ノ例ニ依ル直接國稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ賦課徴収スヘシ但シ第四百十三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百十三條 三月以上都内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ都稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百十四條 都内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖都内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ都内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ都内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル都稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百十五條 納稅者ノ都外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ都外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ都稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

住所滞在同時ニ都ノ内外ニ渉ル者ノ前項以外ノ收入ニ對シ都稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ關係アル府縣及都ニ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ
前項ノ住所又ハ滞在在其ノ時ヲ異ニシタルトキハ納稅義務ノ發生シタル翌月ノ初ヨリ其ノ消滅シタル月ノ終迄月割ヲ以テ賦課スヘシ但シ賦課後納稅義務者ノ住所又ハ滞在ニ異動ヲ生スルモ賦課額ハ之ヲ變更セス其ノ新ニ住所ヲ有シ又ハ滞在スル者ニ對シテハ他ノ府縣ニ於テ賦課

セサル部分ニノミ賦課スヘシ

都ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係アル府縣及都ニ於テ營業稅附加稅、所得稅附加稅又ハ鑛產稅附加稅ヲ賦課スルトキハ關係アル府縣知事及都長協議ノ上其ノ歩合ヲ定ム協議調ハサルトキハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

鑛區又ハ砂鑛區カ都ノ内外ニ渉ル場合ニ於テ鑛區稅又ハ砂鑛稅ノ附加區稅ヲ賦課スルトキハ鑛區又ハ砂鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ本稅額ヲ分割シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ
第百十六條 所得稅法第十八條ニ掲クル所得ニ對シテハ都稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社、寺院、祠宇、佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並教會所、說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ都稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所、說教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國、府縣、市及町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋、物件及營造物ニ對シテハ都稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ都稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

前四項ノ外都税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル
第百十七條 數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムル
コトヲ得

都ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ都税ヲ納ムル義務
アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘ
シ

數人又ハ都ノ一部ヲ利スル財産ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第百十八條 數人又ハ都ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ都ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又
ハ數人若ハ都ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百十九條 非常災害ノ爲必要アルトキハ都ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ
他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ都長又ハ警察官吏ハ都内ノ居住者ヲシテ防禦
ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ

意見ヲ徵シ内務大臣之ヲ決定ス

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ内務大臣
ニ訴願スルコトヲ得

第百二十條 都税ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日没迄ノ間營業者ニ

關シテハ仍テ其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スヘシ

第百二十一條 都長ハ特別ノ事情アル者ニ對シ納税延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ超ユル場合
ハ都參事會ノ議決ヲ經ヘシ

都長ハ特別ノ事情アル者ニ限リ都參事會ノ議決ヲ經都税ヲ減免スルコトヲ得

第百二十二條 使用料手数料ニ關スル事項並都税及其ノ賦課徵收ニ關スル事項ニ付テハ都條例
ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ都條例中使用料及手数料ニ付テハ五圓以下、都税ニ付テハ五十圓

以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

財産又ハ營造物ノ使用ニ關シテハ都條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ
得

過料ヲ科シ及之ヲ徴收スルハ都長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二百二十三條 都税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ都税令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ都長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ使用料、手數料及加入金ノ徴收ニ關シ之ヲ準用ス

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ都長ニ申立ツルコトヲ得

前三項ノ異議ハ之ヲ都參事會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル決定ニ付テハ都長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二百二十四條 都税、使用料、手數料、加入金、過料及過怠金其ノ他都ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ都長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル區長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ都條例ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徴スルコトヲ得

滯納者第一項ノ督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セザルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項及第二項ノ徴收金ハ國ノ徴收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徴還付及時效ニ付テハ國

稅ノ例ニ依ル

前三項ノ場合ニ於テ區長ノ處分ニ不服アル者ハ都參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ都長ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ都長又ハ區長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第二百二十五條 都ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、都ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限り都債ヲ起スコトヲ得

都債ヲ起スニ付都會ノ議決ヲ經ルトキハ併テ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

都長ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲都會事會ノ議決ヲ經一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款 歳入出豫算及決算

第二百二十六條 都長ハ每會計年度歳入出豫算ヲ調製シ年度開始ノ一月前迄ニ都會ノ議決ヲ經ヘシ都會ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

豫算ヲ都會ニ提出スルトキハ都長ハ併テ事務報告書及財産表ヲ提出スヘシ

第二百二十七條 都長ハ都會ノ議決ヲ經既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得
第二百二十八條 都費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ都會
ノ議決ヲ經其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得
第二百二十九條 都ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ
豫備費ハ都會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第三百十條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ内務大臣ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ
第三百十一條 都ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得
特別會計ニハ豫備費ヲ設ケサルコトヲ得

第三百十二條 豫算ノ議決アリタルトキハ都長ハ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ
收入役ハ都長又ハ内務大臣ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモノ支
出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サ
ルトキ亦同シ

第三百十三條 都ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル
第三百十四條 都ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ検査シ且每會計年度少クトモ二回臨時検査ヲ
爲スヘシ

前項ノ検査ハ都長之ヲ爲シ臨時検査ニハ名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事會員二人以上
ノ立會ヲ要ス

第三百十五條 都ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス
決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併テ收入役ヨリ之ヲ都長ニ提出スヘシ都長ハ之ヲ審査
シ意見ヲ付シテ二月以内ニ之ヲ都會ノ認定ニ付スヘシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル都會ノ議決ト共ニ之ヲ内務大臣ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ
決算ヲ都參事會ノ會議ニ付スル場合ニ於テハ都長、都參與及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ
得ス

第三百十六條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第七章 都ノ監督

第三百十七條 都ハ内務大臣之ヲ監督ス

第三百十八條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘ
シ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分、決定、裁定又ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ
決定書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ計算ス

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル
異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ
得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交附スヘシ
異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求
ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第三百二十九條 内務大臣ハ都ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ
徴シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

内務大臣ハ都ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十條 内務大臣ハ勅裁ヲ經テ都會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

都會解散ノ場合ニ於テハ四月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

内務大臣ハ期日ヲ定メテ都會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第四十一條 都ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セ
サルトキハ内務大臣ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

都長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ内務大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル

官吏之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ都ノ負擔トス

第一項ノ處分ニ不服アル都及前項ノ處分ニ不服アル都長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴ス
ルコトヲ得

第四十二條 都長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障アルトキハ内務大臣臨時代理者ヲ選任シ

又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ
職務ノ爲ニ要スル費用ハ都費ヲ以テ辨償セシムヘシ

臨時代理者ハ有給ノ都吏員トシ其ノ給料額、旅費額等ハ内務大臣之ヲ定ム

第四百十三條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一 都廳ノ位置ヲ定メ又ハ變更スルコト

二 都條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

三 學藝美術又ハ歴史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ之ニ大ナル變更ヲ加フルコト

四 不動産處分ニ關スルコト

五 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅ノ附加稅ヲ賦課スルコト

六 第十七條第一項、第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ都ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル

コト

七 第一百十八條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ都ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコト

八 繼續費ヲ定メ又ハ變更スルコト

第一百四十四條 都債ヲ起シ又ハ起債ノ方法、利息ノ定メ若ハ償還ノ方法ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第二百二十五條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第一百四十五條 主務大臣ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ主務大臣ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第一百四十六條 主務大臣ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第一百四十七條 内務大臣ハ都長、都參與、助役、收入役、副收入役及區長、ノ他ノ都吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ都長、都參與、助役、收入役、副收入役及區長ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經都長ニ付テハ勅裁ヲ經ルコトヲ要ス

懲戒審査會ハ内務大臣ノ命シタル内務省高等官六人ヲ以テ其ノ會員トシ内務次官ヲ以テ會長

トス會長故障アルトキハ上席高等官會長ノ職務ヲ行フ

内務大臣ハ都吏員ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

第一百四十八條 都吏員ノ服務規律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第八章 都ノ一部

第一百四十九條 都ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中都ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財産又ハ營造物ノ屬スル都ノ一部ノ負擔トス

前二項ノ場合ニ於テハ都ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘシ

第一百五十條 前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アルトキハ都條例ヲ設定シ區會ヲ設ケテ都會ノ

議決スヘキ事項ヲ議決セシムルコトヲ得
第五十一條 區會議員ハ都ノ名譽職トス其ノ定數、任期、選舉權及被選舉權ニ關スル事項ハ前條ノ都條例中ニ之ヲ規定スヘシ

區會議員ノ選舉ニ付テハ都會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選舉人名簿又ハ選舉若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選舉權ノ有無ノ決定ハ都會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會議員ノ選舉ニ付テハ前條ノ都條例ヲ以テ選舉人ノ等級ヲ設ケサルコトヲ得
區會ニ關シテハ都會ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十二條 第四百九條ノ場合ニ於テ都ノ一部都長ノ處分ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得
第五十三條 第四百九條ノ都ノ一部ノ事務ニ關シテハ本ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九章 雜則

第五十四條 第十一條ノ規定ニ依ル人口ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五十五條 本法ニ於ケル直接税ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム
第五十六條 都ニ於テ賦課スル國稅附加税又ハ特別税ノ制限率及段別割ノ制限ハ左ノ各號ニ

規定スル所ニ依ル

一 明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三條ノ適用ニ關シテハ府縣ト其ノ他ノ公共團體トニ付規定シタル各税ノ制限率又ハ制限額ヲ合算シタルモノトス

二 鑛業法第八十八條賣藥税法第一條ノ六及取引所税法第二十二條ノ適用ニ關シテハ府縣ト市町村トニ付規定シタル制限率ヲ合算シタルモノトス

三 都市計畫法第八條ノ適用ニ關シテハ其ノ各税ノ制限率ノ二倍トス
第五十七條 現行法令中府縣及市ハ都、府縣廳及市役所ハ都廳府縣會及市會ハ都會、府縣參事會及市參事會ハ都參事會、府縣會議員及市會議員ハ都會議員、名譽職府縣參事會員及名譽職市參事會員ハ名譽職都參事會員、府縣知事及市長ハ都長、市收入役ハ都收入役、市吏員ハ都吏員、

市制第六條ノ市ノ區ハ都ノ區、市制第六條ノ市ノ區長ハ都ノ區長ト看做ス其ノ他此ノ例ニ依ル但シ本條ノ例ニ依ラサルモノハ法令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 行政執行法第五條及第六條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ權限ハ都長亦之ヲ行フ
第五十九條 大阪府令ハ本法其ノ他ノ法令ノ規定ニ抵觸セサルモノニ限り大阪都ノ區域内ニ於テ仍其ノ效力ヲ有ス大阪市條例又ハ市規則ハ都條例又ハ都規則ト看做ス

第六十條 都ノ境界變更アリタル場合ニ於テ都ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモ

ノヲ除クノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第六十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條 本法施行ノ際現ニ大阪市ニ屬スル營造物、事業及權利義務ハ都ニ歸屬ス

第六十三條 本法施行ノ日迄引續キ大阪市ニ於テ住所ヲ有シ直接市稅ヲ納ムル者ハ都ニ於テ

住所ヲ有シ直接都稅ヲ納ムル者ト看做シ第七條ノ規定ヲ適用ス

第六十四條 本法施行ノ際現ニ大阪市ノ名譽職、市長、助役、收入彼及副收入彼ノ職ニ在ル者

ハ左ノ各號ニ依リ從前ノ規定ニ依ル任期滿了ノ日迄在職スルモノトス

一 市會議員ハ都會議員、市會議長ハ都會議長、市會副議長ハ都會副議長及名譽職市參事會員

ハ名譽職都參事會員トス

二 市ノ一部ノ區會議員、區會議長及區會副議長ハ都ノ一部ノ區會議員、區會議長及區會副議

長トス

三 市長ハ都長、名譽職市參與ハ都參與、市ノ助役、收入役及副收入役ハ都ノ助役、收入役及副

收入役トス

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外市ノ吏員ハ都ノ吏員トス但シ任期アル者ニ付テハ前項ノ例ニ

依ル

第一項第一號ノ都會議員ハ從來ノ所屬選舉區ト區域ヲ同シクスル都ノ選舉區ノ所屬トス

大阪市會議員又ハ市ノ一部ノ區會議員ノ選舉ヲ行ヒ本法施行ノ際未タ議員定マラサルトキハ

仍從前ノ規定ニ依リ議員ヲ定メ第一項及前項ノ例ニ依ル但シ更ニ選舉ヲ行フ場合ハ本法ニ依

ル

第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ都會議員又ハ都ノ一部ノ區會議員ト爲リタル者大阪市會議員又

ハ市ノ一部ノ區會議員ノ當選無効ト確定シタルトキハ前項ノ例ニ依ル

第六十五條 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ大阪市會議員、大阪市ノ一部ノ區會議員又ハ大阪府會

議員ノ選舉權及被選舉權ヲ停止セラレタル者ハ都會議員又ハ都ノ一部ノ區會議員ノ選舉權及

被選舉權ヲ停止ス

四九 大阪府廢止並浪速縣設置ニ關スル法律案(赤田瑛一君外一名提出)

大阪府ヲ廢シ浪速縣ヲ置ク

從來ノ大阪府ノ區域中大阪都ノ區域ヲ除キ其ノ他ヲ以テ浪速縣ノ區域トス

附則

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ

第四項 法律案

本法中附則第二項ノ規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際縣會及縣參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ル迄ノ間知事之ヲ行フ

本法施行ノ爲大阪府ニ屬スル營造物及事業ノ處分並權利義務ノ歸屬ニ付必要ナル事項ハ大阪府會同市部會同郡部會ノ意見ヲ徵シ内務大臣之ヲ定ム

大阪府令ハ法令ノ規定ニ抵觸セサルモノニ限り浪速縣ノ區域内ニ於テ仍其ノ效力ヲ有ス

五〇 浪速縣大阪都組合法案(赤田瑛一君外一名提出)

浪速縣大阪都組合法

第一條 浪速縣及大阪都ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲浪速縣大阪都組合ヲ置ク

組合ハ法人トス

第二條 内務大臣ハ組合規程ヲ設ケ組合ノ共同事務、事務ノ管理、費用ノ支辨方法其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

第三條 縣都ハ其ノ協議ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ得テ組合規程ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ縣會及都會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第四條 公益上必要アル場合ニ於テハ内務大臣ハ縣會及都會ノ意見ヲ徵シ組合規程ヲ變更スルコトヲ得

第五條 組合ノ事務ハ内務大臣ノ指定シタル知事又ハ都長之ヲ管理ス

第六條 組合ニ組合會ヲ置ク

組合會議員ノ定數ハ三十人トス

第七條 組合會議員ハ縣會及都會ニ於テ各其ノ議員中ヨリ前 定數ノ半數ヲ選舉スヘシ

縣會及都會ハ前項ノ例ニ依リ組合會議員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ

前二項ノ選舉ニ付テハ府縣制第十八條、第二十七條及第二十九條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ縣會又ハ都會之ヲ決定ス

組合會議員ニ闕員アルトキハ其ノ補充ニ付テハ府縣制第六十六條第四項ノ規定ヲ準用ス

第八條 組合會議員ハ名譽職トス

組合會議員及其ノ補充員ノ任期ハ縣會議員又ハ都會議員ノ任期ニ依ル

第九條 組合管理者、知事、選舉及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許可スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第十條 組合會ノ職務權限及處務規程ニ關シテハ本法中別ニ規定スルモノヲ除クノ外府縣制第二章第二款ノ規定ヲ準用ス

第十一條 組合ニ組合參事會ヲ置キ組合管理者、名譽職參事會員六人及縣都ノ官吏吏員ノ中ニ就キ内務大臣ノ指定シタル者二人ヲ以テ之ヲ組織ス

第十二條 組合參事會ハ組合管理者ヲ以テ議長トス組合管理者故障アルトキハ其ノ指定シタル官吏又ハ吏員タル參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第十三條 第九條ノ規定ハ組合參事會ニ之ヲ準用ス

第十四條 組合參事會ノ組織及選舉並職務權限及處務規定ニ關シテハ本法中別ニ規定スルモノヲ除クノ外府縣制第三章ノ規定ヲ準用ス

第十五條 組合管理者ハ組合ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ關シテハ其ノ管理者タル府縣知事又ハ地方行政廳ト看做ス

第十六條 組合管理者ハ組合ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ縣都ノ官吏吏員又ハ都市町村ノ吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

第十七條 組合ノ行政ニ關シテハ本法中別ニ規定スルモノヲ除クノ外府縣制第四章ノ規定ヲ準用ス

第十八條 組合ノ費用ハ財産ヨリ生スル收入及其ノ他ノ收入ヲ以テ充ツルモノノ外之ヲ縣都ニ分賦スヘシ

第十九條 組合ノ財務ニ關シテハ府縣稅及夫役現品ニ關スル規定ヲ除クノ外府縣制第五章ノ規定ヲ準用ス

第二十條 組合ノ監督ニ關シテハ府縣制第六章ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 本法ニ規定スルモノノ外組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五一、京都制案(竹上藤次郎君提出)
京(本案ハ赤田瑛一君外一名提出大阪都制案(四八)ト略ホ同一ニ付其ノ異ナル部分ノミヲ掲載ス)

京都市

第一條 都ハ從來ノ京都市ノ區域ニ依ル

第二條 都ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並慣例ニ依リ京都府若

ハ京都市ニ屬シタル事務及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ都ニ屬スル事務ヲ處理ス

第五條 都ハ處務便宜ノ爲之ヲ區ニ劃ス

區ハ從來ノ京都市ノ區ノ區域ニ依ル

區ノ廢置分合境界變更ヲ爲サムトスルトキハ都會ノ意見ヲ徵シ内務大臣之ヲ定ム

前項ノ處分ニ不服アル都長又ハ都會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十一條 都會議員ノ定數ハ五十六人トス

都ノ人口七十萬ヲ超ユルトキハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ議員四人ヲ増加ス

議員ノ定數ハ都條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口ノ増減アリタル場合

ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條 都ニ都參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 都長

二 助役

三 名譽職參事會員

名譽職參事會員ノ定數ハ十人トス

都參與ハ參事會員トシテ其ノ參與スル事業ニ關スル場合ニ限り會議ニ列席シ議事ニ參與ス

第百一十一條 都ハ其ノ必要ナル費用並慣例ニ依リ京都府若ハ京都市ノ負擔ニ屬シタル費用及從

來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ都ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル業務ヲ負フ

第百五十九條 京都府令ハ本法其ノ他ノ法令ノ規定ニ抵觸セサルモノニ限り京都ノ區域内ニ於

テ仍其ノ效力ヲ有ス

京都市條例又ハ市規則ハ都條例又ハ都規則ト看做ス

第百六十二條 本法施行ノ際現ニ京都市ニ屬スル營造物、事業及權利義務ハ都ニ歸屬ス

第百六十三條 本法施行ノ日迄引續キ京都市ニ於テ住所ヲ有シ直接市稅ヲ納ムル者ハ都ニ於テ

住所ヲ有シ直接都稅ヲ納ムル者ト看做シ第七條ノ規定ヲ適用ス

第百六十四條 本法施行ノ際現ニ京都市ノ名譽職、市長、助役、收入役及副收入役ノ職ニ在ル者

ハ左ノ各號ニ依リ從前ノ規定ニ依ル任期滿了ノ日迄在職スルモノトス

一 市會議員ハ都會議員、市會議長ハ都會議長、市會副議長ハ都會副議長及名譽職市參事會員

一 八名譽職都參事會員トス
二 市ノ一部ノ區會議員、區會議長及區副議長ハ都ノ一部ノ區會議員、區會議長及區副議長トス

三 市長ハ都長、名譽職市參與ハ都參與、市ノ助役、收入役及副收入役ハ都ノ助役、收入役及副收入役トス

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外市ノ吏員ハ都ノ吏員トス但シ任期アル者ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第一項第一號ノ都會議員ハ從來ノ所屬選舉區ト區域ヲ同シクスル都ノ選舉區ノ所屬トス
京都市會議員又ハ一部ノ區會議員ノ選舉ヲ行ヒ本法施行ノ際未タ議員定マラサルトキハ仍從前ノ規定ニ依リ議員ヲ定メ第一項及前項ノ例ニ依ル但シ更ニ選舉ヲ行フ場合ハ本法ニ依ル

第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ都會議員又ハ都ノ一部ノ區會議員ト爲リタル者京都市會議員又ハ市ノ一部ノ區會議員ノ當選無效ト確定シタルトキハ前項ノ例ニ依ル

第六十五條 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ京都市會議員、京都市ノ一部ノ區會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ停止セラレタル者ハ都會議員又ハ都ノ一部ノ區會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ停止ス

五二 京都府廢止並西京縣設置ニ關スル法律案(竹上藤次郎君提出)

京都府ヲ廢シ西京縣ヲ置ク
從來ノ京都府ノ區域中京都ノ區域ヲ除キ其ノ他ヲ以テ西京縣ノ區域トス

附則
本法中附則第三項ノ規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際縣會及縣參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ル迄ノ間知事之ヲ行フ

本法施行ノ爲京都府ニ屬スル營造物及事業ノ處分並權利義務ノ歸屬ニ付必要ナル事項ハ京都府會同市部會同郡部會ノ意見ヲ徵シ主務大臣之ヲ定ム

京都府令ハ法令ノ規定ニ牴觸セサルモノニ限リ西京縣ノ區域内ニ於テ仍其ノ效力ヲ有ス

五三 西京縣京都組合法案(竹上藤次郎君提出)

西京縣京都組合法
第一條 西京縣及京都ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲西京縣京都組合ヲ置ク

第二章 議章 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

千七百四十一

組合ハ法人トス

第二條 内務大臣ハ組合規定ヲ設ケ組合ノ共同事務、事務ノ管理、費用ノ支辨方法其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

第三條 縣都ハ其ノ協議ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ得テ組合規程ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ縣會及都會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第四條 公益上必要アル場合ニ於テハ内務大臣ハ縣會及都會ノ意見ヲ徵シ組合規程ヲ變更スルコトヲ得

第五條 組合ノ事務ハ内務大臣ノ指定シタル知事又ハ都長之ヲ管理ス

第六條 組合ニ組合會ヲ置ク

組合會議員ノ定數ハ三十人トス

第七條 組合會議員ハ縣會及都會ニ於テ各其ノ議員中ヨリ前條定數ノ半數ヲ選舉スヘシ
縣會及都會ハ前項ノ例ニ依リ組合會議員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ

前二項ノ選舉ニ付テハ府縣制第十八條、第二十七條及第二十九條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ縣會又ハ都會之ヲ決定ス

組合會議員ニ闕員アルトキハ其ノ補充ニ付テハ府縣制第六十六條第四項ノ規定ヲ準用ス

第八條 組合會議員ハ名譽職トス

組合會議員及其ノ補充員ノ任期ハ縣會議員又ハ都會議員ノ任期ニ依ル

第九條 組合管理者、知事、都長及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許可スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第十條 組合會ノ職務權限及處務規程ニ關シテハ本法中別ニ規定スルモノヲ除クノ外府縣制第二章第二款ノ規定ヲ準用ス

第十一條 組合ニ組合參事會ヲ置キ組合管理者、名譽職參事會員六人及縣都ノ官吏吏員ノ中ニ就キ内務大臣ノ指定シタル者二人ヲ以テ之ヲ組織ス

第十二條 組合參事會ハ組合管理者ヲ以テ議長トス組合管理者故障アルトキハ其ノ指定シタル官吏又ハ吏員タル參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第十三條 第九條ノ規定ハ組合參事會ニ之ヲ準用ス

第十四條 組合參事會ノ組織及選舉並職務權限及處務規程ニ關シテハ本法中別ニ規定スルモノヲ除クノ外府縣制第三章ノ規定ヲ準用ス

第十五條 組合管理者ハ組合ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ關シテハ其ノ管理者タル府縣知事又ハ地方行政廳ト看做ス

第十六條 組合管理者ハ組合ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ縣都ノ官吏吏員又ハ都市町村ノ吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

第十七條 組合ノ行政ニ關シテハ本法中別ニ規定スルモノヲ除クノ外府縣制第四章ノ規定ヲ準用ス

第十八條 組合ノ費用ハ財産ヨリ生スル收入及其ノ他ノ收入ヲ以テ充ツルモノノ外之ヲ縣都ニ分賦スヘシ

第十九條 組合ノ財務ニ關シテハ府縣稅及夫役現品ニ關スル規定ヲ除クノ外府縣制第五章ノ規定ヲ準用ス

第二十條 組合ノ監督ニ關シテハ府縣制第六章ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 本法ニ規定スルモノノ外組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

施ノ際組合會及組合參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至

ル迄ノ間組合管理者之ヲ行フ

右第一、第二案ハ十二年三月三日鳩山一郎君外九名、第三、第四、第五案ハ同日赤田瑳一君外一名、第六、第七、第八案ハ同日竹上藤次郎君之ヲ提出ス三月二十四日八案及(五六)、(五七)、(五八)、(五九)、(六八)、(六九)、(七〇)、(七三)、(七四)、(七五)案ノ十八案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者ハ孰レモ其ノ趣旨辯明ヲ省略セリ
次テ十八案ハ濱田國松君外八名提出市制中改正法律案(三七)外十一件委員ニ併セ付託スルニ決ス
委員會ハ審査ニ着手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラザリキ

五四 軍機保護法中改正法律案

軍機保護法中左ノ通改正ス

第一條中「重懲役ニ處シ其ノ情輕キ者ハ一等ヲ減ス」ヲ「三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス」ニ改ム

第二條中「有期徒刑」ヲ「五年以上ノ懲役又ハ禁錮」ニ改ム

第三條中「輕懲役」ヲ「一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮」ニ改ム

第四條中「一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス」ヲ「三年以

第二節

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ改ム

第六條 本法ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八條 本法ハ刑法第二編第三章外患ニ關スル罪陸軍刑法第二編第一章叛亂ノ罪海軍刑法第二

編第一章叛亂ノ罪ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

右ハ十二年三月三日安藤正純君外三名之ヲ提出ス三月八日本案ヲ院議ニ付シ提出者(安藤正純君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

軍機保護法中改正法律案ノ提出理由ヲ簡單ニ説明致シマス、現行ノ軍機保護法ハ、明治三十二年ノ制定ニ係リマシテ、現在ヨリ二十餘年前ニ拵ヘラレタモノデアリマス、二十餘年前ト今日トハ時代ノ趨勢ガ變リマシテ、制定當時ニ於キマシテハ、其時代ニ應ジテ適切ナモノデアリマシタガ、今日ハ寧ロ稍時代後レトナツテ、今日ノ時代ニハ適應シテ居ナイヤウナ憾ミノアル法律トナツタノデアリマス、一體此法律ハ陸海軍部ノ秘密洩洩ヲ制裁スル所ノ國防上必要ナモノデアリマスルガ、併ナガラ此秘密ト云フコトガ昔ト今トハ大分解釋ガ異ツテ參リマシテ、昔ノ秘密ナルモノガ必シモ今日ノ秘密デハナイヤウニナツタノデアリマス、外交デモ昔ノ外交ハ所謂秘密外交デアリマシタガ、今日ノ外交ハ秘密ヲ寧ロ撤廢シテ、國民本位ノ外交デナケレバナラヌト云フ時代ニナリマシタ、國內ノ政治デアリマシテモ、所謂昔ハ由ラシムベシ知ラシムベカラズト云フノガ昔ノ政治デアリマシタガ、今日ノ政治ハソレト反對ニ、萬事國民ノ諒解ノ下ニ執リ行ッテ行カナケレバ、本當ノ政治ト云フモノデハナイト云フ時代ニナツテ參ッタノデアリマス、ソレデアリマスカラ、今日ハ國民全體ガ諒解スル政治ガ即チ眞ノ政治ト云フモノデアアル、殊ニ華盛頓會議ニ於キ

マシテ、軍備ヲ縮少シテ、世界ノ平和ヲ確保スルト云フ今日ノ時代ニナリマシテ、此陸海軍部ノ内部ト國民全體トノ間ニ大ナル溝ヲ設ケマシテ、秘密ノ文字ノ爲ニ多クノ國民ガ累セラル、ト云フコトハ、今日ノ國民ヲシテ國家本位ノ思想ヲ涵養セシムル爲ニ妨ゲニナルト思フノデアリマス、勿論軍部ニハ實際秘密モアルノデアリマスルカラ、此秘密ハ嚴守セシメナケレバナリマセヌ、併ナガラ是ハ自ら限定セラレテ居ルモノデアラウト思ヒマスルカラ、此限定セラレテ居ル範圍、成ベク少イ範圍ニ秘密ヲ縮少シテ行クト云フコトガ、今日ノ國家政策トシテ最モ必要ナ事ト思フノデアリマス、現ニ今日ノ實際ニ徵シマシテモ、昔ノ所謂軍機即チ秘密ナルモノハ、今日ノ所謂軍機即チ秘密ト云フ部分ニ屬シテ居リマセヌ、例ヘバ或ル軍港ニ於キマシテ、何萬噸ノ軍艦ヲ造ツテ、之ニ何時ノ砲ヲ何門裝置スルト云フヤウナコトハ、昔ハ勿論秘密デアッタ、所ガ今日ハ是ハ必ズシモ秘密デハナクナツタノデアリマス、又別ノ例ヲ取リマスルト、海軍ニハ海軍例規ト云フモノガアリマス、此海軍例規ト云フモノハ文字ノ示ス通り、海軍ノ例規ヲ示シタモノニ過ギマセヌガ、之ニ極秘ト云フ判ガ押シテアル、極テ秘密ト云フ判ガ押シテアル、爲ニ、ソレニ累セラレテ、重大ナル刑罰ヲ科セラレテ居ル者モ少クナイノデアリマス、所ガ他ノ一方ニ於テハ、市町村長ヲ此爲ニ態々喚ビマシテ、サウシテ軍艦ノ艦長ガ此海軍例規ノ中ニアルコトヲ自ら町村長ニ對シテ告示ラシテ居ルト云フヤウナ場合モ今日又アルノデアリマス、サウシテ見マスト、一方ニ於テハ極秘デアリナガラ、他ノ一面ニ於テハ海軍ノ當局者ガ自ら之ヲ告示ラシテ居ルヤウナコトモ今日アルノデアリマス、更ニ又國內ニ於キマシテ、此軍部ノ秘密トスル事ガ、國內ノ新聞ニ出マスルト、直ニ是ガ相當ナ重大ナ刑罰ニ處セラレマスガ、焉ゾ知ラン、外國ノ新聞ニハソレヨリモモト詳シイ、モトト突込シタ事ガ堂々ト掲載サレテ居ルヤウナ次第デアリマシテ、此間ニ矛盾ガアルノデゴザイマス、即チ斯ノ如キハ時勢ガドン／＼進歩シテ行キマシテ、法律ガ時勢ノ爲ニ措イテ行カレタル所以デゴザイマス、要スルニ此軍機保護法ハ、今日ニ於テハ最早時代ニ副ハナイ法律トナツタノデゴザイマス、既ニ舊刑法ハ明治四十一年ヲ以テ改正セラレマシテ、現行ノ刑法トナリマシタ、更ニ明治十七年ニ制定セラレマシタ爆發物取締規則ナルモノハ、是亦時勢ニ

合ハナイ重刑デアルトシテ、大正七年ニ於テ是ガ改正セラレテ居ルノデゴザイマス、此中ニ於テ獨リ取殘サレマシタノガ私共ガ只今提出致シマシタ即チ此軍機保護法デゴザイマス、ソレデアリマスルカラ、此取殘サレテ居ル所ノ軍機保護法ヲ改正シテ、時代ノ精神ト國內ノ現狀トニ合セテ之ヲ改正シテ戴キタイ、而シテ此苛酷ナル刑律ノ下ニ律セラレテ居ル今日ノ狀態ヲ救ヒタイ、斯ウ云フノガ此改正法律案提出ノ理由デゴザイマス、此法律案ハ昨年ノ議會ニ矢張私共ガ各派ガ諒解ノ下ニ提出ヲ致シマシテ、而シテ委員會ニ於キマシテハ、政府ニ於キマシテモ此趣意ニ贊成ヲ爲サレマシテ、從來ヨリハ刑ヲ低クスルコトガ宜イト云フ、此法律案ニ贊成ノ意味ヲ言明ナスツタノデアリマス、唯之ニ二三ノ修正ヲ加ヘラレマシテ、委員會ニ於テハ滿場一致可決ヲサレマシテ、更ニ本院ニ於テ是ガ可決ヲサレタノデアリマスガ、直ニ貴族院ニ回付サレマシタガ、會期切迫ノ爲ニ貴族院ハ遂ニ之ヲ議了スルコトガ出來ナカッタヤウナ行掛リニナッテ居ルノデゴザイマス、勿論議論ノ無イ話デアラウト思ヒマスカラ、ドウカ御審議ノ上ニ此法律ヲ改正アラントヲ希望スル次第デアリマス

次テ本案ハ安達謙藏君外六名提出職業紹介法中改正法律案(一〇)外九件委員ニ併セ付託スルニ決シ委員會ハ審査ニ着手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

五五 家祿引直處分法案

家祿引直處分法

第一條 明治二年藩政改革ノ爲減祿ヲ受ケタル舊和歌山藩士族中同年十二月二日ノ太政官布告ノ祿制率ヨリ多額ノ減祿ヲ受ケタルハ祿制ノ率ニ引直シ其ノ不足額ヲ明治三十年法律第五十ノ祿制率ヨリ多額ノ減祿ヲ受ケタルハ祿制ノ率ニ引直シ其ノ不足額ヲ明治三十年法律第五十

號第一條ニ準據シテ給與ス

第二條 本法ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ

第三條 本法ニ規定ナキモノハ明治三十年法律第五十號ノ規定ヲ適用ス

右ハ十二年三月五日久下豊忠君外九名之ヲ提出ス三月八日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(久下豊忠君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ提案者ト致シマシテ本案提出ノ理由ヲ簡單ニ申上ケマス、本案ハ明治二年ノ藩政改革ノ爲ニ減祿ヲ受ケマシタル舊和歌山藩士族中、同年十二月二日ノ太政官布告ノ祿制率ヨリ多額ノ減祿ヲ受ケタル者ハ、右祿制ノ率ニ引直シテ、其不足額ヲ明治三十年法律第五十號第一條ニ準據シテ給與シテ貰ヒタイ、以下其方法ヲ書キマシタル法律案デアリマス、御承知ノ通り、明治維新ノ當時廟堂政治家ノ最モ頭ヲ悩マシ、心ヲ痛メタノハ、各藩政ノ改革、士族ノ處分法デアッタノデアリマス、如何ニシテ各藩ヲ改革シ、如何ニシテ士族ヲ處分スベキカ、是ガ當時大問題トシテ廟堂ニ於テ研究シ、討議セラレタ所デアリマス、當時未ダ奥羽及北海道ニ於ケル戰爭中ニシテ、内地ノ人心兎角穩カナラズ、容易ニ安定ヲ得ラレナイト云フ慶應四年ノ末ニ於キマシテ、廟堂ハ色々ノ審議ノ結果是ハ藩政ニ於ケル徳川親藩ノ一タル紀州藩ニ之ヲ先ヅ改革セシメ、之ニ模範ヲ示サスト云フコトガ一番宜イ方法デアラウト云フ御内意デアッタサウデアリマス、ソレデ岩倉公ガ朝旨ヲ内奉シテ、和歌山藩ニ勅命ヲ傳ヘタノデアリマス、其藩ハ速ニ改革ヲ致セ、是ハ唯獨リ和歌山藩ノミニ下サレタ御内意デアッタノデアリマス、ソレデ和歌山藩ハ慶應四年、即チ明治元年十二月二十九日ニ此朝旨ガ下リマシタニ付キマシテ、二箇月ノ後即チ明治二年二月十五日ヲ以テ、藩政改革ヲ斷行致シタノデアリマス、當時各藩トモ驚異ノ眼ヲ以テ此和歌山藩ノ改革ノ始末ヲ見

テ、其改革ノ實ニ峻烈ナル驚イタト云フコトデアリマス、此明治二年二月十五日ニ改革ヲ致シテ、各藩ニ和歌山藩ガ改革ノ模範ヲ示シタ積リテ居タノデゴザイマスガ、其後三四箇月ノ間ニ何處ノ藩モ改革ヲシナカッタト云フ状態デアッタサウデアリマス、ソレデ明治二年六月二十五日ヲ以テ、朝廷ハ全國ノ各藩ニ對シテ、各藩適宜ニ改革ヲセヨト云フ朝命ヲ下サレタデアリマス、此朝命ニ依リマシテ、六月カラ夏カラ秋ニ掛ケマシテ、各藩ガ續々改革ヲ致シタノデアリマス、或ハ士族ノ祿ヲ半減致シタ所モアリ、三分ノ一ニ減ラシタ所モアリ、五分ノ一ニ減ラシタ所モアリマスガ、ソレハ適宜ニ改革ヲ致シタノデゴザイマス、然ルニ御承知ノ如キ當時ノ状態デアッテ、旗本ハ其十二月ニ至リマシテモ未ガ改革ヲ致サナカッタデアリマス、ソコデ政府ニ於テハ旗本ヲ改革スルト云フ爲ニ、茲ニ明治二年ノ十二月二日ヲ以テ、旗本土族ヲ處分スルノ祿制ヲ公ニシタノデアリマス、是ガ明治初年ニ於テ各藩ガ改革ヲ致シ、士族處分致シタル方法デアッタノデアリマス、然ルニ其後明治三十年ノ十月二十九日、法律第五十號ヲ以テ明治三年九月十一日ノ太政官布告、藩政施行以後ノ家賞典祿ヲ有セル錯誤處分ニ關シテ、法律ヲ以テ救濟ノ途ヲ立テタノデアリマス、明治三年十月十一日太政官布告ノ其以後ノ錯誤處分ニ對シテハ、此處ニ救濟ノ途ガ立チマシタガ、三年九月十一日以前ノ錯誤處分ニ對シテハ、救濟ノ途ガ少シモ立ッテ居ナイデアリマス、然ルニ御承知ノ如ク、明治維新ノ改革ガ成就致シマシタガ、此和歌山藩ハ當時此大減祿ヲ行ヒマシテ、殆ド十分ノ一若クハ二十分ノ一ノ苛酷ナル減祿ヲ和歌山藩ノ士族ニ行ハレタノデアリマス、此減祿シタル資ヲ以テ和歌山藩ハ他藩ニ卒先ヲシテ、郡縣制ヲ施イタノデアリマス、ノミナラズ獨逸人ヲ雇入レマシテ茲ニ獨逸ノ兵制ヲ施イタノデアリマス、郡縣ノ制ヲ立テタノデアリマス、即チ士族ノ減祿ヲ致シタル此費用ヲ以テ之ヲ充テタノデアリマシテ、獨逸式ノ兵制ハ明治二年以後和歌山藩ニ實施シタルモノヲ東京へ持ッテ參ッテ、全國へ實施サレタノデアリマス、其後明治五年全國ニ鎮臺ガ出來マシタ當時ニ、和歌山藩ノ獨逸式ノ兵制ヲ習ッテ將卒ガ、各鎮臺ニ分布サレマシテ教官トナッタノデアリマス、是ハ古キ陸軍ニ從事サレタ方ハ、皆御承知ノ事デアリマス、ノミナラズ、當時和歌山藩ハ大砲二百門、小銃數千挺ヲ陸軍へ獻納シタノデアリマス、即

チ士族ノ大減祿ヲ行ウテ此資ヲ以テ購入シタル大砲二百門——當時ノ大砲二百門ト云フモノハ大シタモノデアリマス、及ビ小銃幾千挺ヲ陸軍ニ獻納スルノミナラズ、此資ヲ以テ改革ヲ行ヒ、兵制ヲ立テ、郡縣制ヲ創メタノデアリマス、實ニ當時ノ和歌山藩ノ改革ハ、他ノ藩ノ模範ト相成ルベキ改革ヲ行ウタニ拘ラズ、此士族ノ處分法ハ祿制以前——祿制ガ實施サレタ前ニ於テ斷行サレタモノ——各藩ニ適宜改革ヲ致セト云フ太政官ノ達ニ依ッテ改革ヲ致シタル、其以前ノ改革ニ係ハルガ爲ニ、他ノ藩及此祿制ニ依ッテ處分セラレタル旗本ヨリハ多額ノ減祿ヲ受ケタノデアリマス、故ニ今日此國家ノ恩賞ニ斯ノ如キ差別ノアルト云フコトハ、甚ダ遺憾千萬ナル事デアリマシテ、公平ニ處分ヲシテ費ヒタイト云フノガ、此藩士多年ノ希望デアッタノデアリマス、是ガ明治三十二年當時ヨリ、此希望ガ上下兩院ニ通セラレマシテ、明治三十三年ニハ是ト同様ノ法律案ガ我ガ衆議院ヲ通過致シタノデアリマス、然ルニ貴族院ニ於テ不幸ニシテ否決ヲサレタノデアリマス、所ガ昨年又本院ガ本會ニ提案ヲセラレルト共ニ、滿場一致ヲ以テ本案ハ通過ヲ致シタノデアリマス、所ガ貴族院ニ於キマシテハ會期切迫ノ爲ニ審議セラレナイノデ終ッタノデアリマスルガ、本年更ニ此處ニ提案ヲ致シタ次第デアリマス、前申シタルヤウナ趣意デゴザイマシテ、全ク平等均一ニ祿別ニ準ジテ此處分ヲ引直スト云フコトハ、最モ公平ナル處置デ、國家トシテ執ルベキ當然ノ處置デアラウト深ク信ズル譯デアリマス、願クハ昨年同様滿場ノ御賛成ヲ得テ慎重審議本案ヲ可決セラレンコトヲ希望シマス

次テ本案ハ高木正年君外二名提出恩給法改正ニ關スル建議案(八)外七件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(議事ノ經過及結果ハ本項(四三)參看)

五六 帝都制案(作間耕逸君外七名提出)

(本案ハ鳩山一郎君外九名提出帝都制案(四六)ト略同一ニ付其ノ異ナル部分ノミヲ掲載ス)

第一條 東京府及東京市ヲ廢シ從來ノ東京府ノ區域ヲ以テ東京都ヲ置ク

第二條 都ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ東京府、東京市及本法ニ依リ都ノ區域ニ編入セラレタル市町村ニ屬シタル事務及將來法律勅令ニ依リ都ニ屬スル事務ヲ處理ス

第五條 都ハ之ヲ區ニ劃ス

區ノ區域ハ第八章ノ都ノ區ノ區域ニ依ル

第十一條 都會議員ノ定數ハ百八十トス

都ノ人口三百五十萬ヲ超ユルトキハ人口十萬ヲ加フル毎ニ議員一人ヲ増加ス

議員ノ定數ハ都條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 都會ハ本法ニ依リ都會ニ屬スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第七十七條 區ニ區長副區長及區出納吏ヲ置ク

區長副區長及區出納吏ハ第八章ノ規定ニ依ル區長副區長及區出納吏ヲ以テ之ニ充ツ

第七十八條 區ニ都條例ヲ以テ區副出納吏ヲ置クコトヲ得

區副出納吏ハ第八章ノ規定ニ依ル區副出納吏ヲ以テ之ヲ充ツ

第七十九條 都ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シテ分區ヲ設ケ分區長分區出納吏及必要ナル吏員ヲ置クコトヲ得

第八十二條 前數條ニ定ムル者ノ外區ニ必要ノ吏員ヲ置ク

前項ノ吏員ハ第八章ノ規定ニ依リ吏員ヲ以テ之ニ充ツ

第九十五條 區長ハ都長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ關スル都ノ事務ヲ掌ル

第九十七條 區出納吏ハ都出納吏ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ都ノ出納其ノ他ノ會計事務並第九十條ノ事務ニ關スル國及公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

區副出納吏ハ區出納吏ノ事務ヲ補助シ區出納吏故障アルトキハ之ヲ代理ス

區出納吏、區副出納吏共故障アルトキハ都長ハ吏員中ヨリ臨時代理者ヲ命スヘシ

第十七條 區會議員ハ區ノ名譽職トシ其ノ定數ハ第十三條第二項ノ規定ニ依ル議員數ノ三倍

トス

都會議員ハ其ノ選舉セラレタル區ノ區會議員トス

都會議員ニ非サル者ノ選舉ニ付テハ第十二條乃至第三十六條ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 區會ノ職務權限ニ關シテハ市制中市會ノ職務權限ニ關スル規定ヲ、區參事會ノ組織及選舉並其ノ職務權限ニ關シテハ市制中市參事會ノ組織及選舉並其ノ職務權限ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十九條 都ノ區ニ區長、副區長及區出納吏各一人ヲ置ク

副區長ノ定數ハ區條例ヲ以テ之ヲ增加スルコトヲ得必要アルトキハ區條例ヲ以テ區副出納吏ヲ置クコトヲ得

第六十條 區長ハ區會ニ於テ之ヲ選舉シ都長ノ認可ヲ受クヘシ

副區長、區出納吏及區副出納吏ハ區長ノ推薦ニ依リ區會之ヲ定メ區長職ニ在ラサルトキハ區會ニ於テ之ヲ選舉シ區長ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ場合ニ於テ選舉ノ不認可ニ對シ區長又ハ區會ニ於テ不服アルトキハ内務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

區長及副區長ハ都長ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第六十一條 都ノ區ハ臨時又ハ常設ノ委員及必要ナル有給吏員ヲ置クコトヲ得

第六十二條 第五十九條及前條ニ規定スル市吏員ノ組織選舉任免及職務權限ニ關シテハ前三條ニ規定スルモノノ外市制中市吏員ノ組織選舉任免及職務權限ニ關スル規定ヲ、區名譽職員ノ費用辨償及報酬並區吏員ノ給料及給與ニ關シテハ市制中給料及給與ニ關スル規定ヲ準用ス但シ其ノ規定中區收入役區副收入役トアルハ區出納吏、區副出納吏、府縣知事トアルハ都長、府縣參事會トアルハ都審議會トス

第六十三條 都ノ區ハ其ノ必要ナル費用及從來慣例又ハ法令ニ依リテ東京市ノ區ノ負擔ニ屬シタル費用及將來法律勅令ニ依リ都ノ區ノ負擔ニ屬シタル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ都ノ區ハ其ノ管理スル財産及營造物ヨリ生スル收入、使用料、手数料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ都ノ區ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ區稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第七十二條 市制第七條、第七十六條及第八十條ノ規定ハ都ノ區ニ關シテ之ヲ準用ス但シ市制第七條中内務大臣又ハ府縣知事トアルハ都長トス

第七十八條 東京府令ハ本法其ノ他ノ法令ノ規定ニ牴觸セサルモノニ限り都ノ區域内ニ於テ仍其ノ效力ヲ有ス

東京市條例又ハ市規則ハ都條例又ハ都規則ト看做ス
本法ニ依リ都ノ區域ニ編入セラレタル各市町村ノ條例又ハ規則ハ本法及前項ノ條例又ハ規則ト牴觸セサルモノニ限リ都條例又ハ都規則トシテ仍其ノ效力ヲ有ス

第百八十一條 本法施行ノ際現ニ東京市及其ノ各區並本法ニ依リ都ノ區域ニ編入セタレタル各市町村ニ屬スル財産營造物、事業及權利義務ハ第百六十七條ニ依ルモノヲ除クノ外凡テ都ニ歸屬ス

第百八十二條 本法施行ノ日迄引續キ本法ニ依リ都ノ區域ニ編入セラルヘキ市町村内ニ於テ住所ヲ有シ直接市町村税ヲ納ムル者ハ都ニ於テ住所ヲ有シ直接都税ヲ納ムル者ト看做シ第七條ノ規定ヲ適用ス

本法施行ノ日迄引續キ東京市ノ各區及本法ニ依リ都ニ編入セラレタル市町村ニ於テ住所ヲ有シ直接市町村税ヲ納ムル者ハ其ノ住所ノ屬スル都ノ區ニ於テ住所ヲ有シ直接區税ヲ納ムル者ト看做シ第百五十三ノ規定ヲ適用ス

第百八十三條 衆議院議員選舉區東京府ノ各區ヨリ選出シタル現在衆議院議員ハ從來ノ所屬選舉區ト區域ヲ同シクスル都ノ選舉區ヨリ選出セラレタル者ト看做ス

第百八十四條 本法施行ノ際現ニ東京府並東京市及本法ニ依リ都ノ區域ニ編入セラレタル市町

村ニ編入セラレタル市町村ノ名譽職ノ職ニ在ル者ハ法令ニ別段ノ定アルモノノ外本法施行ノ日ニ其ノ職ヲ失フ

其第百八十五條 本法施行ノ際現ニ東京市ノ市長、助役、參與、收入役、副收入役、區長及區收入役ハノ職ニ在ル者ハ本法ノ規定ニ依リ選任アル迄ノ間順次都長、副都長、都參與、都出納吏、都副出納吏、區長及區出納吏トシテ在職スルモノトス
前項ニ規定セサル市ノ吏員ハ都ノ吏員トス任期アル者ニ付テハ前條ノ例ニ依ル
本法ニ依リ都ノ區域ニ編入セラルル市町村ノ吏員ハ本法施行ノ日ニ其ノ職ヲ失フ

五七 東京府廢止ニ關スル法律案(作間耕逸君外七名提出)

第一條 從來ノ東京府ハ之ヲ廢止ス

第二條 貴族院多額納稅者議員、衆議院議員及府縣會議員ノ選舉及被選舉資格中其ノ年限ニ關スルモノハ本法ニ依ル府ノ廢止ノ爲中斷セラルルコトナシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ爲東京府ニ屬スル營造物及事業ノ處分並權利義務ノ歸屬ニ付必要ナル事項ハ關係市

町村會ノ意見ヲ徵シ主務大臣之ヲ定ム

五八 帝都制案(近藤達見君外六名提出)

帝都制

(本案ハ鳩山一郎君外九名提出帝都制案(四六)ト全文同一ニ付之ヲ略ス)

五九 東京府廢止並神奈川縣界變更ニ關スル法律案(近藤達見君外六名提出)

(本案ハ鳩山一郎君外九名提出東京府廢止並神奈川縣界變更ニ關スル法律案(四七)ト全文同一ニ付之ヲ略ス)

右第一、第二案ハ十二年三月五日作間耕逸君外七名第三、第四案ハ三月六日近藤達見君外六名之ヲ提出ス三月二十四日四案及(四六)、(四七)、(四八)、(四九)、(五〇)、(五一)、(五二)、(五三)、(六八)、(六九)、(七〇)、(七三)、(七四)、(七五)案ノ十八案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者ハ孰レモ其ノ趣旨辯明ヲ省略セリ
(委員曾並議事ノ經過及結果ハ本項(四六)參看)

六〇 河川法中改正法律案

河川法中左ノ通改正ス

第三十二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ河川ニ關スル費用ヲ以テ之ヲ支辨ス

右ハ十二年三月六日日本多貞次郎君外三名之ヲ提出ス三月九日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(本多貞次郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ノ提出ノ理由ヲ極テ簡單ニ申上ゲマス、本案ハ河川法第三十二條ノ第二項ヲ改正致スノデアリマス、此河川法ハ明治二十九年四月八日ノ制定ニ係ルモノデアリマス、極テ舊イ法文ノ爲ニ往々時勢ニ伴隨シマセヌ點ガ多クアリマスルガ、其中最モ此改正ヲ要スル點ニ付キマシテハ、非常ニ不備ノ點ガアリマスルガ故ニ、茲ニ提案シタ次第デアリマス、是ハ現行法ヲ一寸申シテ置キマス、河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス、但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス、斯ウアリマスルガ故ニ、政府ト關係者トハ常ニ種々ナル紛擾ヲ醸シマシテ、結局矢張政府ノ支辨ニ屬シテ居ルノガ今日多イノデアリマス、故ニ此法文ヲ簡明ニ致シタイ爲ニ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒諸君ノ御賛成ヲ仰ギマス、

次テ本案ハ本多貞次郎君外五名提出利根運河國有ニ關スル建議案(六二)委員ニ併セ付託スルニ決
ス委員會ハ審査ニ着手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

六二 地方鐵道法中改正法律案

第十六條中「所管行政廳」ヲ「所管官廳」ニ改ム

右ハ十二年三月六日下出民義君外二名之ヲ提出ス三月十三日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(下出
民義君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ地方鐵道法中第十六條ニ「所管行政廳」トアルノヲ「行政官廳」ト改メタイノデアリマス、其
理由ハ此鐵道敷設ニ伴ヒマシテ、道路、橋梁、河川、運河、或ハ溝渠等ノ土木工事ニ付キマシテハ、
從來ハ行政官廳トナツテ居リマシテ、即チ知事郡長ノ許可ヲ受ケテ工事ヲ施行シテ居リマシタ
ガ、地方鐵道法ノ改正ニ依リマシテ、所管行政廳トナツタ爲ニ、市ノ管理ニ屬スルモノハ市長、町
村ノ管理ニ屬スルモノハ町村長ノ許可ヲ受クルニアラサレバ施行スルコトノ出來ナイヤウニナ
リマスケレドモ、此實施以來實際ノ模様ヲ見マスルト云フト、其地方ノ町村長ノ許可ヲ受クルト
云フコトニナリマシタ爲ニ、其地方ノ實際ノ模様ハ如何ト云フノニ、是等ノ地方ハ此鐵道線路ノ
全體ハ如何ト云フコトヲ見ルノハ稀デアリマシテ、多クハ其地方ノミノ利害ヲ考ヘルト云フコ
トニナリマス爲ニ、或ハ線路ガ屈曲ラスルト云フヤウナコトガアツタリ、或ハ色ノ場所ニ踏切

ヲ拵ヘ、或ハ停留所ヲ斯ウ云フ所ニ持ツテ行ツテ貫ヒタイト云フヤウナ註文ガ非常ニ澤山出テ參
リマス、又所ニ依ルト非常ニ大キナ河幅ノ廣イ所ノ橋ニ橋脚ヲ設ケテハ水害ニ困ルト云フヤウ
ナコトデ、橋脚ノ無イ橋ヲ求メラレルヤウナコトガアリマシテ、是ハ實際ニ於テ非常ニ無理ナ註
文ノヤウニ思ヒマスガ、サウ云フヤウナ事ガアリマシテ、爲ニ莫大ナル寄附金ヲ爲シテ、漸ク是
等ノ妥協ガ出來ルヤウナ事ガ往ミアルノデアリマス、又先程申シマシタ所ノ、己レノ所ニ停留所
ヲ置カナケレバイカヌト云フヤウナ註文ガ出マシテ、是等ノ註文ヲ聞クニアラズンバ許可ヲ
受クルコトガ非常ニ困難デアルト云フコトガ實際ニ間々アリマシテ、ソレガ爲ニ此鐵道敷設ヲ
スルノニ非常ニ長時日ヲ費シ、又ハ其工事費ニ莫大ノ金ヲ要スル實際ノ問題デアリマスカラ、是
等ノ事ハ若シ企業家ガ許可ヲ得ル能ハザル場合ニ於テハ、水利土木ニ關係スル事項デアリマシ
テ訴願法ニ依ツテ訴願ヲ提起シ得ルト云フコトハアリマスケレドモ、左様ナ手續ヲ爲シテ居タナ
ラバ、長イ年月ヲ費シテ實際ニ其工事ノ進捗ヲ得ルコトガ出來ヌノデアリマス、已ムヲ得ズ其地
方ト妥協スルト云フノガ實際ノ例デアリマスルカラ、此條項ハ矢張從前ノ通りニ所管官廳ノ許
可ヲ受クルト云フコトニ改メ、地方長官ハ是等ノ管理者ノ意見ヲ徵スルコトニ致シマシタナラ
バ、少シモ差支ガナイト信ズルノデアリマス、何レ委シイコトハ又委員會ニ於テ説明致シマスル
ガ、ドウカ此事情デアリマスカラ、皆様ノ御賛成ヲ御願致シマス

次テ本案ハ小泉策太郎君外一名提出熱海大仁間鐵道速成ニ關スル建議案(七一)委員ニ併セ付託ス
ルニ決ス委員會ハ審査ニ着手シタルモ報告ヲ經ルニ至ラサリキ

六二 產業組合法中改正法律案

產業組合法中左ノ通改正ス

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

第七十六條ノ二第一項中「又ハ農工銀行」ヲ、「農工銀行又ハ産業組合中央金庫」ニ改ム
同條第二項中「銀行」ノ下ニ「又ハ産業組合中央金庫」ヲ加フ

附則

本法ハ産業組合中央金庫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

六三 日本勸業銀行法中改正法律案

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

第十五條ノ二中「農工債券」ノ下ニ「又ハ産業債券」ヲ加フ

第二十九條第三十四條及第三十六條中「北海道拓殖債券」ノ下ニ「産業債券」ヲ加フ

第三十條及第三十九條中「北海道拓殖債券」ノ下ニ「産業債券」ヲ「北海道拓殖銀行」ノ下ニ「産業組合中央金庫」ヲ加フ

附則

本法ハ産業組合中央金庫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右兩案ハ孰レモ十二年三月六日瀧正雄君外二名之ヲ提出シ三月十三日兩案及(六六)ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者(瀧正雄君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

茲ニ提案致シマシタル三ツノ法律案ハ、是ハ過日本院ヲ通過致シマシタ、産業組合中央金庫法ハ關係條文デアリマス、産業組合中央金庫法案ハ只今貴族院ノ委員會ニ係ッテ居リマス、他日はガ成案トナツテ兩院ヲ通過致シマス場合ニハ、當然此産業組合法、日本勸業銀行法、及郵便貯金法ニ關聯ヲシテ來ル條文デアアルノデ、第一ニ産業組合法ニ付キマシテハ、其第七十六條ノ二ニ斯ウ云フ規定ガアリマス、信用組合聯合會ガ其組合、即チ所屬組合ガ勸業銀行デアルトカ興業銀行デアルトカ、或ハ北海道拓殖銀行デアルトカ、農工銀行ナドカラ借受ヲ爲シタル場合ニ於テ其所屬組合ノ債務ノ保證ヲ爲ス事ガ出來ルト云フ規定ニナツテ居リマス、之ヲ中央金庫ノ場合ニモ、即チ信用組合聯合會ガ中央金庫ノ場合ニモ、其所屬組合ノ債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得セシムル必要ガアリマスガ、是ガ産業組合法改正ノ要旨デアリマス、次ニ日本勸業銀行法ノ改正ニ關シマシテハ、一言以テ之ヲ掩ヘバ、勸業銀行ヲシテ産業組合中央金庫ノ發行スル所ノ産業債券ヲ引受ケシムルコトヲ得セシムル爲メノ改正デアリマス、即チ勸業銀行法ノ第二十九條ニ於テ此産業債券ヲ引受ケルコトヲ得セシムル改正ヲ爲シ、次デ第十五條ノ一ニ於キマシテ、即チ勸業銀行ガ割増金附ノ勸業債券ヲ發行シテ得タル所ノ其資金ノ用途ニ付テ限定シテ居リマスケレドモ、此産業債券引受ノ場合ニ可能ナラシムル爲メノ改正、此二十九條ト第十五條ノ二トノ二ツノ條文ノ改正ニ伴ヒマシテ、第三十條、第三十四條、第三十六條、第三十九條等ニ關聯シタル改正ヲ爲スト云フノデアリマス、是等ノ改正ハ或ハ其債券ヲ引受クル爲ニ業務ノ状態デアルトカ、或ハ財産ノ實況等ヲ勸業銀行ヲシテ取調ベシムル、即チ調査ノ權能ヲ與ヘル必要モアリ、又勸業債券ヲ發行スル場合ニ見返リトシテ、即チ勸業債券ノ發行ノ制限ヲ規定シテアリマスルガ、此ニモ勸業銀行ニ對シテ、産業債券ノ規定ヲ入レシムル必要ガアル、又是等ノ事ニ付テ債券ノ償還方ニ關シテモ、亦勸業債券ノ規定ヲ必要トスルコトニナリマスカラ、是等ノ條文ノ改正ヲ加ヘントシタノデアリマス、是ガ日本勸業銀行法ニ對スル改正ノ要旨デアリマス、第三ニ郵便貯金法ノ改正デアリマスガ、郵便貯金法ノ第三條ニ於テ、貯金ノ金額ニ關スル制限ガ規定サレテ居リマス、第四條ニ於テ此例外ヲ認メテ居リマス、所ガ産業組合中央金庫法ノ業務ノ所ニ於キマシテ、郵便貯金ヲ爲ス

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

コトヲ得ト云フ規定ガアツタノデス、然ルニ其金額ガ二千圓以下ニ限定サレテ居ッテハ、甚ダ業務執行上不便デアリマスルカラ、之ヲ第四條ノ例外ノ中ニ認メテ、即チ産業組合ガ既ニ其例外ヲ認メテアリマスルカラ、是ト同様ニ取扱ヒタイト云フ希望カラ、産業組合同様ニ中央金庫ヲモ例外ノ中ニ規定シタイト云フノデアリマス、是ガ改正ノ要旨デアリマス、而シテ此三法律案ハ元々産業組合中央金庫法ガ成立シタ曉ニ於テ効力ヲ有スベキモノデアリマスルカラ、其施行期日ハ産業組合中央金庫法ノ實施セラレタ其期日ヲ以テ施行ノ期日トスト云フ附則ヲ附シタ次第デアリマス、斯ノ如ク極ク簡單ナル關係法規ノ改正ニ過ギマセスカラ、速ニ之ニ御協賛ヲ冀フ次第デアリマス

次テ三案ハ議長指名(九名ノ同一委員)ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十四日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月十五日三案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長天春文衛君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本員ハ産業組合法中改正法律案、及日本勸業銀行法中改正法律案、郵便貯金法中改正法律案ノ特別委員會ノ結果ヲ、極テ簡單ニ此三案ヲ一括シテ御報道致シマス、委員會ハ昨十四日午前十時ヨリ開キマシタ、此三案ノ改正ノ要旨ハ、既ニ提出者ノ瀧正雄君ヨリ致シマシテ上程ノ際述ベマシタル次第デアリマス、曩ニ産業組合中央金庫ノ法案ヲ本會ニ於テ可決確定ノ上、既ニ貴族院ニ送付ニナッテ居リマスヤウナ次第デアリマスカラ、自然中央金庫法案ノ兩院通過ノ上ハ其結果ト致シマシテ、産業組合法外二件モ改正セザレバ其完全ヲ得ルコトガ出來ヌノデアリマス、故ニ委員會ハ全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、何卒本會ニ於キマシテモ、滿場ノ諸君御賛成ヲ下サレマシ

テ、可決確定アラシコトヲ希望致シマス、委員會ノ結果ヲ御報告致シマス

院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通過可決確定シ即日三案全部ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日孰レモ可決奏上シ四月六日法律第四十四號(六一)同日法律第四十三號(六三)同日法律第四十五號(六六)ヲ以テ公布セララル

六四 農工銀行法中改正法律案

農工銀行法中左ノ通改正ス

第七條ノ三中「又ハ其ノ聯合會」ヲ「若ハ其ノ聯合會又ハ産業組合中央金庫」ニ改ム
第二十三條第三號中「又ハ其ノ聯合會」ヲ「若ハ其ノ聯合會又ハ産業組合中央金庫」ニ改ム

附則

本法ハ産業組合中央金庫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十二年三月六日瀧正雄君外二名之ヲ提出シタルモ同月九日撤回セリ

六五 北海道拓殖銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中左ノ通改正ス

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

第八條第四項中「又ハ其ノ聯合會」ヲ「若ハ其ノ聯合會又ハ産業組合中央金庫」ニ改ム

附則

本法ハ産業組合中央金庫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十二年三月六日瀧正雄君外二名之ヲ提出シタルモ同月九日撤回セリ

六六 郵便貯金法中改正法律案

郵便貯金法中左ノ通改正ス

第四條第三號中「産業組合」ノ下ニ「又ハ産業組合中央金庫」ヲ加フ

附則

本法ハ産業組合中央金庫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十二年三月六日瀧正雄君外二名之ヲ提出ス三月十三日本案及(六二)、(六三)案ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ提出者(瀧正雄君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

(趣旨辯明、委員會並議事ノ經過及結果ハ本項(六二)參看)

六七 災害地租免除法中改正法律案

災害地租免除法中左ノ通改正ス

第一條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項ノ田畑ニ再植ヲ爲シタルトキハ收穫ノ有無ニ拘ラス仍其ノ地租ヲ免除ス

右ハ十二年三月七日植場平君外一名之ヲ提出ス二月九日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(植場平君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

災害地租免除法ノ改正案ヲ提出致シマシタ其要旨ヲ極テ簡單ニ一言致シタイト存ジマス、御承知ノ通り災害地租免除法ニ依リマスルト、災害ノ爲メ收穫皆無ニナリマシタ田畑ニ限ツテ、地租ヲ免除スルコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、然ルニ其災害ノ季節如何ニ依リマシテハ、再植付ケマシテ收穫ヲ得ルコトガ出來ルノデアリマス、其再植付ケマシテ收穫ヲ得マシタモノニ對シテハ、地租ノ免除ノ恩典ヲ與ヘルコトガ出來ナイノデアリマス、ソレ故ニ私ハ法律ヲ改正致シマシテ、勞費ヲ厭ハズ再植付ケテ收穫ヲ得マシタモノニ對シテハ、收穫皆無ノ爲ニ免租セラル、モノト同様ナ恩典ヲ與ヘタイト存ジマスノデアリマス、仍テ此法案ヲ提出致シテ諸君ノ御審議ヲ請フ次第デアリマス、唯一言茲ニ加ヘテ申上ゲテ置キタイノハ、此法案ハ前期ノ議會ニ提出致シマシテ、滿場ノ御同意ヲ得テ、本院ハ通過ヲ致シタノデアリマス、併シ形式ノ上ニ於テ多少違フ所ガアリマスカラシテ一言申シテ置キタイ、昨年提出致シマシタトキニハ、第一條ノ一項ニ但書ヲ加ヘルト云フコトニシテ提出致シタノデアリマスガ、本年ハ第一條ノ一項ノ次ニ一項ヲ加ヘルト云フコトニ形式ヲ改メタノデアリマス、是ハ種々考慮ノ上改メマシタノデ、要旨ニ於テハ更ニ變ル所ハナイノデアリマス、故ニ御審議ノ上、前期議會同様滿場ノ御賛成ヲ得タク切望致ス次第デアリマス、宜シク願ヒマス

次テ本案ハ林田龜太郎君外一名提出明治四十一年法律第三十七號中改正法律案(三)外六件委員ニ

併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十一日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長堀切善兵衛君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ所得税法外四件ノ委員ニ付託セラレタル議案ノ一ツデアリマス、災害地租免除法中左ノ通り改正ス第一條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ「第一項ノ田畑ニ再植ヲ爲シタルトキハ收穫ノ有無ニ拘ラス仍其ノ地租ヲ免除ス」詰リ天災地變ノ爲ニ收穫皆無ニ歸シタ場合ニ地租ハ免除サレマスガ、モウ一度其植付ヲヤツテ多少ノ收穫ヲ得タ場合ハ、政府ハ地租ヲ取ツテ居リマス、是ハ其植付ヲ爲シテ收穫ノアツタ場合デモ免除シロト云フ趣意ノ提案デアリマス、之ニ對シマシテ提案者ヨリ説明ガアリ政府ノ意見ヲ徵シマシタ所、政府ハ地租ハ元來一ノ地價ニ依ツテ徵收スルモノデアルカラ、收穫皆無ノ場合ハ、政府ガナケレドモ、二度デモ二度デモ植付ヲシテ多少ノ收穫ノアツタ場合ハ、矢張政府トシテ之ヲ取ラナケレバナラヌト云フ答辯デアリマシタ、別ニ討論ハアリマセヌ、採決ノ結果多數ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ貴族院ニ於テ議決ヲ經ルニ至ラザリキ

六八 大阪都制案(板野友造君外七名提出)

(本案ハ鳩山一郎君外九名提出帝都制案(四六)ト略同一ニ付其ノ異ナル部分ノミヲ掲載ス)

大阪都制

第一款 大阪都及其ノ區域

第一條 從來ノ大阪市ノ區域ニ大阪都ヲ置ク

第二條 都ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ大阪市ニ屬スル事務及將來法律勅令ニ依リ都ニ屬スル事務ヲ處理ス

第五條 都ハ處務便宜ノ爲區ニ劃ス

區ノ區域ハ從來ノ大阪市ノ區ノ區域ニ依ル

第十一條 都會議員ノ定數ハ六十八人トス

都ノ人口百五十萬ヲ超ユルトキハ人口十萬ヲ加フル毎ニ議員一人ヲ増加ス

議員ノ定數ハ都條例ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限リニ在ラス

第六十條 都ニ都審議會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 都長

二 副都長

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

三 都參與

四 名譽職審議會員

名譽職審議會員ノ定數ハ八人トス

都會ハ各選舉區ニ屬スル議員ヲシテ名譽職審議會員及其ノ補充員一名宛ヲ互選セシムヘシ
前項ノ場合ニ於テハ第二十二條、第二十四條及第二十六條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ
異議アルトキハ都會之ヲ決定ス

名譽職審議會員中關員アルトキハ都長ハ補充員ヲ以テ之ヲ補闕ス補充員ナキトキハ臨時互選
セシムヘシ

第五十條 都ノ區ノ區域ハ從來ノ大阪市ノ區ノ區域ニ依ル

第五十一條 都ノ區ハ法人トス都ノ公共事務ニシテ區内ニ關スルモノ竝從來慣例又ハ法令ニ依
リ大阪市ノ區ニ屬シタル事務及將來法律勅令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス但シ區ノ處理ス
ル公共事務ノ種類及範圍ハ都條例ノ定ムル所ニ依ル

第六十二條 都ノ區ハ其ノ必要ナル費用及從來慣例又ハ法令ニ依リ大阪市ノ區ノ負擔ニ屬シ
タル費用及將來法律勅令ニ依リ都ノ區ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第六十三條 都ノ區ハ其ノ管理スル財產及營造物ヨリ生スル收入、使用料、手数料、過料、過怠

金其ノ他法令ニ依リ都ノ區ニ屬スル收入ヲ以テ前條ノ支出ニ充ツ

第六十四條 都ノ區ノ財務ニ關シテハ前條ニ規定スルモノノ外市制中ノ財務ニ關スル規定ヲ
準用ス但シ其ノ規定中府縣知事トアルハ都長、府縣參事會トアルハ都審議會トス

第六十五條 區ノ一部ニシテ從來財產ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財產
ノ管理及處分ニ付テハ區ノ財產又ハ營造物ノ例ニ依ル但シ必要アルトキハ都條例ヲ以テ此ノ
財產又ハ營造物ニ關シ別ニ區會ヲ設クルコトヲ得此ノ區會ニ關シテハ本章ノ規定ヲ準用ス
前項ノ財產又ハ營造物ニ關シ特ニ費用ヲ要スルモノアルトキハ其ノ財產又ハ營造物ノ屬スル
區ノ一部ノ負擔トス

前二項ノ場合ニ於テハ區ノ一部ハ會計ヲ分別スヘシ

第六十六條 都ノ區ハ第一次ニ於テ都長之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第六十七條 都ノ區ハ營造物ヲ設置シ又ハ之ヲ廢シ其ノ他區ノ事業ヲ起シ又ハ之ヲ廢セムト
スルトキハ豫メ都會ノ同意ヲ經ヘシ

第六十八條 都長ハ區ノ吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得

第六十九條 都ノ區ノ監督ニ關シテハ前三條ニ規定スルモノノ外市制中市ノ監督ニ關スル規
定ヲ準用ス但シ其ノ規定中府縣知事トアルハ都長、府縣高等官トアルハ都吏員、府縣參事會ト

アルハ都會、府縣名譽職參事會員トアルハ名譽職審議會員、第百六十四條ニ官吏トアルハ官吏
吏員、第百七十條ニ勅裁トアルハ内務大臣ノ許可トス

第百七十條 市制第七條、第百七十六條及第百八十條ノ規定ハ區ニ關シ之ヲ準用ス但シ市制第
七條中内務大臣又ハ府縣知事トアルハ都長トス

第九章 雜 則

第百七十一條 第十一條ノ規定ニ依ル人口ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第百七十二條 本法ニ於ケル直接税ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第百七十三條 都ニ於テ賦課スル國稅附加税又ハ特別税ノ制限率及段別割ノ制限額ハ左ノ各號
ニ規定スル所ニ依ル

一 明治四十一年法律第三十七條第一乃至第三條ノ適用ニ關シテハ府縣ト其ノ他ノ公共團體
トニ付規定シタル各税ノ制限率又ハ制限額ヲ合算シタルモノトス

二 鑛業法第八十八條賣藥税法第一條ノ六及取引所税法第二十二條ノ適用ニ關シテハ府縣ト
市町村トニ付規定シタル制限率ヲ合算シタルモノトス

三 都市計畫法第八條ノ適用ニ關シテハ其ノ各税ノ制限率ノ二倍トス

第百七十四條 現行法令中府縣及市ハ都、府縣廳及市役所ハ都廳、府縣會及市會ハ都會、府縣參

事會及市參事會ハ都審議會、府縣會議員及市會議員ハ都會議員、名譽職府縣參事會員及名譽職
市參事會員ハ名譽職審議會員、府縣知事地方長官及市長ハ都長、市收入役ハ都出納吏、市吏員
ハ都吏員、市制第六條ノ市ノ區ハ都ノ區、市制第六條ノ市ノ區長ハ都ノ區長ト看做ス其ノ他此
ノ例ニ依ル但シ本條ノ例ニ依ラサルモノハ法令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十五條 行政執行法第五條及第六條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ權限ハ都長亦之ヲ行フ

第百七十六條 大阪府令ハ本法其ノ他ノ法令ノ規定ニ抵觸セサルモノニ限り都ノ區域内ニ於テ
仍其ノ效力ヲ有ス

大阪市條例又ハ市規則ハ都條例又ハ都規則ト看做ス

第百七十七條 都ノ境界變更アリタル場合ニ於テ都ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スル
モノヲ除クノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第百七十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十九條 本法施行ノ際現ニ大阪市ニ屬スル財産營造物、事業及權利義務ハ第百六十七條
ニ依ルモノヲ除クノ外凡テ都ニ歸屬ス

第百八十條 本法施行ノ日迄引續キ大阪市内ニ於テ住所ヲ有シ直接市税ヲ納ムル者ハ都ニ於テ